56
180

始

2.8.3

56-180

婦人科學護書

第壹編

實驗 愛兒の育て方と病氣の手當

小兒科
竹內病院長
醫學士 竹內薰兵著

東京 教育研究會 出版

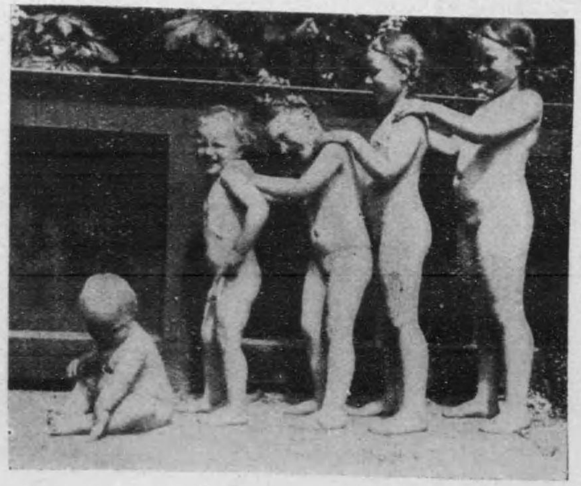
大正
11. 7. 26
內交

土曜日の夕

フィッゴヨハンゼン Viggo Jcahnsen 筆（一八五一年生れ）

此畫家は特に家庭の溫か味を表はすに妙な獲て居るので有名でした

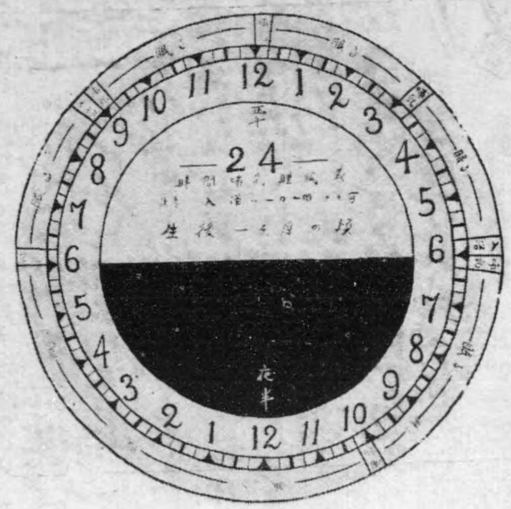
第一・三・四・七・八歳の子供

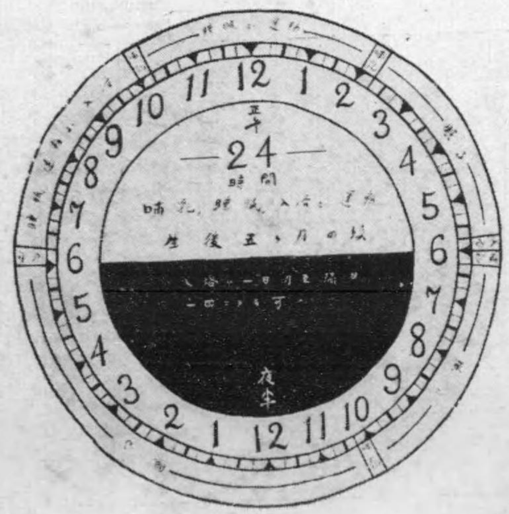


ストラッツ氏に據る

年齢順に並んで居ます

一日中の睡眠哺乳入浴の時間割





序

我が子を愛する心は眞劍である。「かくばかり僞り多き世の中に子の可愛さはまことなりけり」とは五月蠅い程人口に噌炙して居るが、これほど又眞實を現はしてる歌はない。かほどまで熱愛して居る子供、何物を犧牲にしても辭しない程なわが子に對して我が國の親達は何といふへまな取扱方をして居る事であらう。かう云ふのは大膽かも知れない。然し私はかく斷言する特權を持つてると思ふ。

日本では、否、世界の文明國中日本だけは、赤ん坊の死ぬ數が一番多い。其點に於て世界一等といふ名譽を獲て居るのである。マラソン競走には負けても、富力に於ては劣等國でも、乳兒死亡率に於ては他國に退けを取らないのである。文化が進み、醫學が進み世の親達の知識もそれに連れて進んで行けば、子供の死ぬ數はだん〳〵と減じて行かなくてはならぬのに、事實は之に反して、減じるどころか、殖える一方であるのである。一ヶ年に一千人子供が生れるとすると、滿一歳までの間に死ぬ數が明治

二十年頃までは僅に百十人程であつた。明治三十年には百五十人となり、明治四十二年には百七十人とまで進み、大正三年には僅に減じて百六十人となつたが、大正六年には更に百七十人を超え、今日に至つても容易に下りさうにないといふ現狀である。此有樣で行つたならば、二十年三十年の後には我が國の人口は減る一方となる事、瞭乎として明である。五十年、百年の後は如何。あゝ、之を國辱といふべさか。否。國辱では云ひ足りない。正に國家の危機といはねばならぬ。實以て我が日本の前途は寒心に堪へぬではないか。

何とかして之を防ぎたい。防がねばならぬ。さて穿鑿すれば原因は種々あるであらうが、此現代の人々が子供の病氣に對する豫防と治療の不行屆である事、換言すれば子供取扱のへまな事、更に換言すれば育兒に關する知識の缺乏が主なる原因であるに相違ない。子供の周圍の無智と拙劣。わが日本では確にさうであると信ずる。私は東京の一小兒科醫に過ぎないが、主因がこゝにありと斷言する材料は澤山持て居る。私が特權があると述べたのは此處の事である。國家の危機を救ふには育兒法から入らな

ければならぬといふ私の所信は此處から出發して居るのである。私は今尙ほ進修の途中に在る者、斯道の蘊奧には程遠い事であらう。然し日本の現狀を眼前に見ては躊躇する場合でないと思ふ。少しでも自分の知見を發表して、多少不完全でも早く丈夫な子供を獲なければならぬと考へた。扨又翻て家庭に於ける子供は團欒の中心である事を思つて、其一朝病氣になつた場合の一家の憂愁に鎖される場面を考へると、家族の多くは子供の病氣に對して只心配する一途あるのみである。其心は眞劍であるが如何に手を下すべきかを知らぬのである。私も四人の子の父として、世の親たる者の心には深く共鳴するが、現在の世の親達の樣にへどもどしてばかり居てば子供の病氣のうまく治りさうな筈がない。私が本書を著はした第二の理由は此點にあるのである。

固く云へば本書は兒童生理學、兒童保健衞生學、小兒科學の解說であるが、實は私の兒童生理、私の兒童保健衞生、私の小兒科學といひたい。更に簡略に云へば「私の育兒法」である。僭越の沙汰かも知らないが私はかう信ずるのである。斷じて受賣ではない。洋の東西、時の古今もない。渾然と融合したこの私の育兒法であるのであ

る。理論と實際とが如何なる程度まで合致し得るか、私の育兒法に於ては特に此點に力を竭して居る。

此書によりて世の親達のへまやへどもどが無くなる事を心から希望し、又實際無くなり得る事を私は強い自信を以て云ふ。

大正十一年七月一日

東京に於て

竹内薫兵識す

目次

第一　出産……一

子供は弱いもの……恐ろしい程子供は死ぬもの……死なさずに済むものを……母親の胎内に居る間……オギアーと生れる……臍帶と産浴と衣服と目薬……胎毒下しや五香湯……「まくり」の話……

第二　初めての乳の與へ方……一六

母親の乳が第一……初乳といふもの……乳の與へ方……

第三　生れ立ての子供の取扱方……二〇

親の乳と冷えること……臍の手當……入浴の事……口を洗ふ事……乳首を用ゐるの可否……大便と部屋の温度……黄疸が起こる……

第四　一ヶ月以後の乳の與へ方……三二

一個月以後は六回……泣いたら癇癪……糜爛の注意……確に十分以内でよい……大便を見て加減する……乳房は兩方とも飲ましたがよいか……

第五　生みの親の乳に限る理由……三八

乳は必ず出る……何故母親の乳に限るか……人間の子は人間の乳……日本婦人の美點……乳母よりは

母親の乳……
第六　病氣の母の乳や藥を飲んだ母の乳は飲させてもよいか……四四
腎臟炎でも肺炎でもよろしい……乳の中へ黴菌が出る……親の結核と黴毒……產後のさはり……乳房の腫れた時……月經の時と妊娠の時……藥を飲んだ母の乳……乳兒の脚氣……角をためて牛を殺す……
第七　乳の上がる理由とこれを治す法……五六
上がる乳……吸はすに限る……乳の上がる理由……吸ひたくも吸へない……母親に罪は無い……
第八　乳の分泌具合と親の食べ物……六一
毒な食物は何か……多く食べたら多く出るか……どんな飲物はよいか……
第九　乳を分泌さする法……六六
乳房を吸はすこと……乳の出る藥……電氣と乳揉み……
第十　離乳の方法……六九
乳ばなれ……肉と野菜……永く飲ますのは親にも子にも惡るい……九個月目から……先づ牛乳……アメリカの惡風……次ぎはお粥……マルツズツペ……大蔘燕蔘玉蜀黍葛湯……脂肪と蛋白質……野菜と果實汁……
第十一　誕生過ぎての食物……八三

三大要素……誕生過ぎての二年間……野菜の話……四歲以下禁ずべき食物……第四年目の食べ物……卵果物など……五歲から六歲……渴く事……獻立の見本……
第十二　子供の間食……九五
間食の必要……どんな間食がよいか……間食の見本……西洋菓子と日本菓子……キャラメルや駄菓子……
第十三　子供の歯と歯から出る熱……一〇九
歯が生える……生え初めの後れる事……歯の生える時の容體……生齒熱……
第十四　子供の言語と睡眠……一一三
實際の言葉……吃る子供……發語の後れる子供……睡眠は何時間か……
第十五　子供の體重と身長と脈……一一八
子供の體量……身長……頭圍と胸圍……脈のこと……子供の呼吸……
第十六　毎月の發育の具合……一二四
初めの一ヶ月……空腹の時と不快な時……第二ヶ月……第三ヶ月……第四ヶ月……第五ヶ月……第六ヶ月……第七ヶ月……第八ヶ月……第九ヶ月……第十ヶ月……第十一ヶ月から第三十ヶ月まで……
第十七　襁褓とシャツ……一三七

襁褓又は「おむつ」……襁褓の捲き方……子供のシャツ……帶溝は嘘……着せ過ぎる害……

第十八　入浴と小便と外出……一四一

入浴の時……襁褓の洗濯……何時から外へ出すか……

第十九　抱き方と脊負方と搖籃……一四七

脊負ふ事も惡い……搖籃は惡るい……頭を上に……

第二十　大小便の話……一五〇

子供の大便……生れて初めての大便……親の乳を飲んだ子供の便……牛乳を飲んだ子供の便……不消化便……心配し過ぎる點……顆粒青便……牛乳の不消化便……年長兒の大便……子供の尿……大小便の取扱ひ方……

第二十一　乳母の擇び方……一五八

乳母又は媼母……どんな乳母がよいか……何病に氣をつけるか……脚氣の乳母……恐ろしがり過ぎる……乳母の惡るい癖……乳母の調べ方……乳母の必要な場合……

第二十二　子守の話……一六六

惡い子守は病氣の源……恐ろしい實例……面白い物語……重い消化不良……痩せこけたが金儲け……

第二十三　牛乳での育て方……一七三

人生の悲慘事……牛乳と人乳との比較……牛乳の稀釋法……お茶湯や砂糖を加へてもよい……分量と時間と溫度……一度煮立たす事……ソキスレット氏消毒器……牛乳消毒上の注意……冷やす事を忘れるな……牛乳の飲ませ方……生の物を食べさせること……

第二十四　牛乳良否の鑑識法……一八七

牛乳の鑑識法……外觀味臭氣……手輕な牛乳の識別法……酸度檢定方法……惡い商人の奸策……水を混ぜたのを看破する法……米の汁を混ぜる……藥を混ぜた時……其他の奸策……

第二十五　コンデスドミルクの用ゐ方……一九八

煉乳……牛乳よりも廣販し惡い……鷄卵の煉乳……煉乳の分量……

第二十六　子供の滋養品の種類と用ゐ方……二〇二

子供の滋養品……其稀釋法……小兒滋養品の鑑別……

第二十七　子供の遊戯の種類と方針……二〇七

子供の遊戯……面白い事……戸外遊戯……競爭遊戯……

第二十八　善い玩具と惡い玩具……二二三

衛生上から見た玩具……是非とも入用……衛生に適した玩具……乳兒の玩具……三歳から七歳まで……毒藥のある玩具……

第二十九　熱の手當……二三〇
熱の豫防法……恐るべからず……熱が出たら如何すればよいか……瀑布が最も安全……
第三十　咳の手當……二三四
咳嗽の時……どこから出る咳か……その手當……部屋の溫度……冷水浴の害……私の主張……
第三十一　便秘の手當……二三〇
便秘……子供の飲み物……藥と灌腹と座藥……私の勸める方法……人參……大きい子供……
第三十二　下痢の手當……二三六
下痢の種類……乳兒の下痢……牛乳を飲んでる子供……藥の害は恐ろしい……大きな子供の下痢……
第三十三　痙攣の手當……二四三
痙攣の時……痙攣を起こす病氣……痙攣の手當……先づ灌腸……齒のために痙攣することはない……
第三十四　泣く時の手當……二四九
泣く時……呱々の聲……何故泣くか……案ずるに及ばぬ泣き聲……心配な泣き聲……
第三十五　子供の病氣の手當……二五四
病氣の手當……どんな病氣で死ぬか……病氣の徵候……

生れたての子供の病氣……二五九
早產兒……臍炎……破傷風……臍出血……膿漏眼……黃疸……
心臟病の手當……二六三
呼吸器の病氣……二六四
鼻加答兒……喉頭炎……異物……氣管枝加答兒……喘息……毛細氣管枝炎……肺炎……肋膜炎……
急性傳染病の手當……二七四
麻疹……猩紅熱……水痘……痘瘡……種痘……ヂフテリー……流行性耳下腺炎……腸チフス……パラチフス……
赤痢……疫痢……インフルエンザ……百日咳……
消化器の病氣の手當……二八五
口內炎……鵞口瘡……生齒熱……智惠熱……扁桃腺炎……消化不良……消耗症……食餌性中毒症……穀粉榮養障碍……
……乳兒脚氣……所謂腸膜炎……腸重疊症……吐糞症……蟯蟲……蛔蟲……十二指腸蟲……絲蟲……
……其他の小兒病の手當……三〇四
急性小兒麻痺……ハイネメヂン氏病……結核性腸膜炎……腺病質……先天性黴毒……
○家庭常備藥……三一三

◎育兒問答……三一八

一、歩くのが後れる子供……二、小便の繁しい子供……三、間食ばかりする子供……四、青便を出す子供……五、乳房を嚙む子供……六、臆病な子供……七、糜爛る疹……八、脫腸の手當……九、齒の生えるのが後れる子供……十、乳母車に乘せてよきや……十一、寢小便の子供……十二、麻疹が恐ろし……十三、瘰癧の子供……十四、下痢の子供……十五、立たする時はいつがよきや……十六、醫師

の來るまでの手當……一七、種痘の不善感……一八、便秘の子供……一九、吃る子供……二〇、吃遊の子供……二一、六ヶ月目の齒……二二、吐く子供……二三、不眠の子供……二四、脫腸の手術……二五、冷水摩擦はよろしいか……二六、咳嗽の止まる工夫……二七、アフタ性口內炎……二八、兒斑……二九、頭血腫……三〇、餅を與へてよきや……三一、口の手當……三二、結核の療法……三三、屠蘇を飲ませてよきや……三四、脫腸……三五、熱の出た子供……三六、頭の疹……三七、髮を剃る事……三八、炒豆を食べさせてよきや……三九……腦膜炎の豫防……四〇、魔法瓶……四一、猩紅熱から腎臟炎……四二、腎臟炎の乳を飲ませてよきや……四三、濁る小便……四四、下痢のはげしい子供……四五、ぶとに螫されぬ子供……四六、頭の疹……四七、活動寫眞……四八、氣管枝鑵とは何か……四九、たゞれ性の赤んぼ……五〇、熱が無ければ入浴は差支なさや……五一、心臟病の豫防……

以上

實驗 愛兒の育て方と病氣の手當 目次 終

實驗 愛兒の育て方と病氣の手當

醫學士 小兒科竹內病院長 竹內薰兵著

第一 出產

子供は弱いもの

子供ほど病に罹り易いものはありません。大人や老人と比較しますと、どうしても病む回數は五倍が六倍はあるだらうと察せられます。これは私共が日頃の經驗から推して考へるのでありまして、詳しい數字を擧げる事は出來ません。子供の病氣に罹る回數の割合卽ち罹病率といふものは、未だ何處の國にも調べがついて居りませんから已むを得ません。然し凡そ大人や老人の五倍以上ある事と思はれます。

罹病率は判然いたしませんが、死ぬ數の割合卽ち死亡率はよく調べが屆いて居ます。

其數で見ますと子供の死ぬことの多いのは實に驚くの外はありません。然らばどの位死ぬものでありませうか？。そこで例を大正六年に取りますと、大正六年一ケ年の調べによりますと、日本中で凡そ百二十萬人死ぬ人があります。此中五十二萬人卽ち死亡者全體の中の四割四分、まづざつと半分は十五歲までに死ぬのであります。殘りざつと半分が十五歲以上老人までの間に死にます。さて此十五歲までの中、三十萬以上卽ち過半數は滿一歲までに死に、五歲までの死亡兒の數を計算しますと八割以上となるのであります。言葉を換へて申しますと、葬式が十出れば、其中の五つまでは十五歲未滿の子供の棺で、其五つの中四つは五歲未滿の子供、其四つの中三つは誕生前の子供のであるといふ事實であります。驚くべき事實と申さないでは居られません。

恐ろしい程子供は死ぬもの

こんなに多く子供の死ぬといふ事は、だん〴〵少くなつてくれゝば誠に有り難い譯でありますが、我が日本では悲しいかな年を逐うて增加するといふ事實であるのであります。明治三十二年から大正二年までの統計を見ますとよく此事實が判ります。例

へば明治三十九年には生れてから五歲までの死亡數が全國で三十五萬八千二百六十七人でありましたが、大正二年には四十四萬九千百二十八人となつて居ます。又一歲未滿卽ち誕生までの子供の死亡數は年々どうなつて行くかを見ますと、これも次第に增加してまゐります。判りよいために次に表にしてお目にかけますと、

	生産千につき一歲未滿死亡數		生産千につき一歲未滿死亡數
明治三十七年	一五二	明治三十八年	一五二
明治三十九年	一五四	明治四十年	一五一
同　四十一年	一五八	同　四十二年	一六六
同　四十三年	一六一	同　四十四年	一五八
明治四十五年	一五四	大正二年	一五二
大正元年			
大正三年	一五九	大正四年	一六〇
大正五年	一七〇	大正六年	一七三

さて外國は如何と申しますと、歐米の著名な文明國は申までもなく、智利、ハンガリー、ベルギー、瑞西、瑞典、丁抹の如きでさへ次第々々に乳兒卽ち一歲未滿の子供の

死亡率は減少して行つて居ります。然るにわが日本とそれからブルガリアとは年々增加して行きます。

畢竟、日本は死亡者は子供が最も多くあつて其中でも五歲以下が最も多くて、其數は、生れる者に對して死ぬ割合は、世界のどの國よりも最も多いといふ大不名譽、大不幸を負うて居るのであります。茲に至つて驚くといふよりも、私共は寧ろ大に〳〵悲しまずには居られません。實に慘事此上もないではありませんか。尤も世界各國との比較は統計の立派にある國とで行つたので、支那やシャム、阿非利加などの統計のない國とは比較出來ません。

死なさずに濟むものを

この樣に多くの子供を死なす原因は何でありませうか？申までもなく病氣でありまして、其病氣の中ではどんな病氣であるかと、調べて見ますと、誕生までの子供と、それから五歲以上の子供とでは相違がありまして、誕生までの子供では、生れつきの弱い體質と、吐き下しの病、肺炎、氣管枝炎といふ樣な呼吸器の病、次には黴毒であります。つまり、親から受けた毒や體質、消化器の病と呼吸器の病との三通りに分ける事が出來る、五歲までの子供を斃す病は矢張り消化器の病が最も多いから、吐き下しで命を取られるので、次では腦膜炎、肺炎といふ順序である。

五歲以上十五歲までの子供を殺す病氣は、大分大人に似て來て肺結核其他の結核症が多くなつて來るが、又腦膜炎も可なり多くあるといふ事實を統計の上で認めるのであります。

然しこれ等の病氣は、豫防しようと思へば或る程度までは豫防の出來る病で、又よし罹つたとしても方法によつては立派に治る事の出來る病でありますから、我が日本國で子供の死ぬのが何處よりも多いといふのは、裏から觀ますと豫防や治療法の充分に屆かないと思はなければなりません。此の不行屆は何に原因があるのでありませうか？氣候が惡るいためでせうか？日本といふ國土が惡るいのでせうか？政府がいけないのでせうか？醫者が拙いせゐでせうか？然り、或はそうかも知れません、一少部分の原因はさうかも知れませんが、然し最大部分は、親といはず、家庭といはず、學

校、幼稚園といはず、凡そ子供を取扱ふ者の大多數が、子供に對して知識が缺けてるからである。子供を取扱ふ事の無智が子供を殺す最大原因であると、私は斷言して憚らないのである。

子供とは如何に發育すべき者であるか？子供に養育すべきであるか？、如何なるを健康といひ、如何なれば病氣であるか？如何なる玩具、如何なる遊戯が子供に必要であるか？、一旦病氣になつたらば如何に取扱ふべきであるか、如何にして病氣を早く知り、如何にして早く治すべきであるか、……凡そこれ等の事を心得すして如何で子供を健康に育て上げる事が出來ませうぞ。私が本書に於て述べようとする標準は實に此點に置いてあるのであります。

しかし私は順序として子供が母親の胎内に居る間から述べようと思ひます。

母親の胎内に居る間

子供は母親の胎内では、母親の皮膚筋肉、骨といふ頑丈な包圍の中に包まれ、其上子宮といふ厚い筋肉の袋の中で、羊膜といふ皮の様な袋の中に居り此袋の中には羊水

と名づくる水が一ぱい塞つて居て、子供は此水で包まれて居りますから、母親の身體が少し位動かうと、打たれやうと、それが爲めに子供に傷を受ける事はありません。又子供の周圍は皆母親の身體の溫度と同じでありますから、一様に子供の體溫も母親の體溫と同じになつて居りまして、母親の皮膚が少し位冷えた所で子供は直ぐに冷えるものではありません。又喰べ物は、子供の臍から『臍帶』といふものですつと母親の身體と連つて居り、臍帶を通して子供の養ひになる血液が行きますから、子供はどうしないでも自然に生長してまゐります譯であります。

言ひ換ふれば、子供は胎内の中では容易な事では身體へ傷の附かない様に、至極堅固な壁で圍まれ、其上丁度好い加減な溫度で溫められ、勞せずして血液といふ結構至極な食物を喰べて生きて居るのであります。それ故、此間は母親の身體さへ丈夫であれば、別に子供に手出しする必要は無いのであります。實に天然自然の仕組といふものは巧妙を極めたものであります。

オギヤーと生れる

所が臨月が來まして、芽出度茲に子供は生れますと、子供の樣子はガラッと變つて參ります。第一今迄は、いろんな物で圍まれて居りました子供の身體が急に丸裸になります。どうか爲てやらなければ、子供は冷えるばかりです。それから之れ迄命の綱と頼んで居た臍の緒の中へは、母親の身體から血液が來なくなります。

少し話が横道に入りますが、一體人間の呼吸といふものは、身體にある血液の中に炭酸瓦斯といふものが蓄積て來るのを、身體の外へ捨てるために、呼氣として出しますので、吸氣は空氣中の酸素瓦斯を吸ひ入れて、血液の中へ酸素を十分に取り入れる爲めであるといふ事は、既に御承知の事でありませう。所で一方人間の身體には、頭の中に呼吸中樞といふ場所がありまして、其處を刺戟しますと、何時でも肺が擴がつて呼吸を爲るものであります。で、血液の中に炭酸瓦斯が多くなります。と此の血液が腦に在ります呼吸中樞といふ所へ循環て行きます。すると人は自然に、如何しても呼吸を爲ずには居られなくなりまして、呼吸を爲るものであります。

偖お話は前に戻りまして、母親の方から血液が子供の方へ來なくなりますと、子供

の血液は炭酸瓦斯が増すばかりで、其中の酸素は少くなります。すると、此炭酸瓦斯の多い血液が子供の腦に在る呼吸中樞へ行つて其處を刺戟します。すると、之れ迄一度も呼吸をした事の無い子供が初めて空氣を吸ひ、それを又力を込めて吹き出します。此の時初めて『オギャー』と泣きますので、第一呼吸とか、呱々の聲を擧げるとか申しますのが卽ちこれであります。畢竟此聲は子供が母親から食物を取り上げられた爲めに、餘儀無く發した苦し紛れの聲で、善くいへば、子供が一個獨立して自活の生涯に入る第一の嘶であります。從て此聲は臍帶に血液の通つてる間、卽ち臍の緒に脈搏のある間は決して起りません。

偖子供は、其衣服を剝がれ、其食物を奪はれて、此世の中へ、皆樣の面前へ突き出されました。そして『オギャー』『オギャー』と泣いて居ります。此儘放置て置けば、餓死いたします。否、それより前に冷えて死んで終ひます。何と致したものでありませう。

臍帶と産浴と産衣と目藥

産婆が附いて居りますれば、默つて居ましても必要な丈けの事は致しますが、産婆

居ない場合にお産をする事がありますから、前以て心得て置く必要があります。

お産氣の附く前から、麻糸を二本、細い一尺程の長さにして、一度之れを煮て清潔な器の中に入れて置き、又鋏を一挺、これも一度煮て清潔な布片で包んで置きます。

麻糸は臍帶を括るため、鋏は臍帶を切るためである。

目藥には二『プロセント』硝酸銀水を、藥劑師に作らせて貯へて置きます。

入浴のために湯を沸かして置く事。これは產氣がつくと直ぐ用意するがよろしい。

衣服は俗に申します產衣であります。此拵へ方は婦人の方は何人も御承知でありますから、申し述べる必要はありますまい。但、醫金の木綿を用ゐる事だけは廢して、白木綿に代へたいと思ひます。白木綿は死んだ人に着せるもので、之を孩兒に着せるのは緣起が惡るい、變だと、申す方が多くありますが、種々不便な點がありますから、私共は白いものにしたいと考へます。

偖、これだけの物が整へてありますれば、何時お產がありましても大丈夫で御座います。そこで今孩兒は生れました。臍帶の脈搏は止まつて孩兒は泣き始めました。そ

れと見たらば、前以て用意してあります麻糸の一本で以て、孩兒の臍から一寸五分か二寸離れた所で、臍帶を括り、今一本の麻糸で、今括つた所から凡そ一寸五分許り離して又括くります。固く括るが宜しい。此二つの括り目の間を鋏でもつて切り離して終ひます。茲で母と子との繼ぎは初めて斷れるのであります。これが濟みますと直ぐ湯に入れます。所謂產湯をつかふのである、溫度は三十八度か九度位の所でありますから、手を入れて見て少し溫かいと思ふ位でよろしい。孩兒の身體中へお湯を懸けて洗ふのでありますが、眼の中へは決して湯を入れない樣に注意しなければなりません。孩兒の身體に澤山附著して居ります、べた〳〵した脂肪の樣なものは、『オレーフ』油といふ油で輕く摩りますと取れます。其外成る可く身體は擦らないがよろしい。

入浴は五分間位で外へ出し、手早く乾いた西洋手拭で拭き、それから產衣を着せます。

臍帶は切り口の方を上向にしてお腹へ附け、其上へ『ガーゼ』を置いて、其上から繃帶を幾重にも施るがよい、眼へは一滴づゝ前記の眼藥を點滴します。これを點滴しますと、孩兒によつては眼が一時赤くなる事がありますが、一時の事ですから心配あ

りません。此の眼藥を點しませんと、生れて一日二日經ちましてから、風眼といふひどい眼病に罹り、其爲めに眼が潰れて終ふ事が往々ありますから、必ず眼藥を忘れてはなりません。此點眼は西洋でクレーデといふ人が初めましたので、クレーデ氏の點眼法と申します。今、孩兒は產衣を着てすや〳〵と眠つて居ります。これから如何すれば宜しいのでありませう。

胎毒下しや五香湯

孩兒は、生れてから二十四時間の間は、何も飲ませるには及びません只靜かに臥かして置く事、冷やさない事を心懸ければ宜しいのであります。冷やさないといふのは、孩兒の體溫は三十七度内外に保たして置くといふので、決して無闇に湯たんぽを入れたり、重ね着さす事ではありません。湯たんぽは冬ならば脚の兩側へ二つ。夏ならば一つ入れるがよい。

昔の人は『まくり』とか『胎毒下し』とか、五香とかいふもの又は酸漿欵冬の根などを煎じて此間に飲ましたものです。これは畢竟下し藥であります。孩兒の腸の中に

は胎便と申しまして、膽汁だの其他種々物から出來てる黑い粘た物が、生れる迄に蓄つて居りますから、之れを下して終ふのは惡るい事ではありませんが、何も態々そんな藥を飲まして出す心要は無い。母親がお產を致しますと、二日か三日經れば充分に乳は出て來るもので、其乳は後になつて出る乳とは異つて居ます。色は黃ばんで、少し粘り氣があります。そして此中には丁度生れ立ての孩兒に適當な滋養分や、又まくり、胎毒下し等と同じ樣に輕く便通を附ける物が含まれて居りますから、何よりも、母親の乳房を吸はすのが一番宜しいのであります。之れは、まくりよりももつと此母親の乳が好いと申したのでありますが、此外最非とも母親の乳で無ければならぬ理由が澤山あります。これは追々述べる事と致します。

第一圖

中は脫脂綿外はがーゼで拵らへた乳首

兎も角、二十四時間卽ち一晝夜は何も與る必要ありません。若し此間にまくりでも飲ませよといふ人があつて聞きません時は、母親の乳房を附ける事、又生憎母親の乳が少しも出ません時は、淡い番茶か、牛乳を湯ざましで割つて、非常に淡くした牛乳(四倍か五倍の)を時々盃に一ぱい宛も飲ます事を守れば充分であります。第一圖の樣な乳首を拵らへて之を牛乳か砂糖水を浸ませて吸はせればよいのであります。要之、一晝夜の間は身體の養ひになるものを與るのではなく、孩兒の身體から水氣の無くなりますのを補ふために、水氣の物を飲ますに過ぎません。何もやらずとも無論よいのであります。

「まくり」の話

我が國で「まくり」といふものを生れたての子供に飲ますする風習は、今から一千年以前からあるが盛になつたのは元祿以後の事です。西洋には勿論無い風習です。尤も「まくり」は漢名鵝鴣菜で、頓醫抄といふ本には海忍草と記してある。これは蛔蟲始め腸へ寄生する蟲を殺す働のある藥であるから、子供が大きくなつて腸へ蟲の寄生した

時に飲ますのは差支ないが、生れたての孩兒には腸に蟲など居ないから飲ます理由はない。

尤も漢方醫學には胎毒の說といふのがある。これは生れたての子供の體內に毒が滯積て居るから、これを藥の力で下すといふ考であるが、今日の醫學から考へるとまるで根據の無い說である。然しずつと以前は漢方では生れると直ぐに指で口內の惡血を取り除き、產湯を使はして臍帶を斷つてから、甘草煎汁といふ甘い藥を飲ませ、三日の後に朱蜜及び牛黃を與へるといふ事は、支那の隋や唐の頃の方書に出て居る事で、我が國の平安朝時代に出來た醫心方といふ書物にも載せられてある。其目的は胸中の惡汁を去り惡氣を避けるためと書いてあるが、丁度胎毒の說に符合する。實際に胎毒說といふものが出たのは宋の世で、此以後になつて生れたての子供に藥を飲ます事が盛になつて來たのであります。我國でも「まくり」といふ名は古くからあつた。今から一千百餘年前に平城天皇に勅撰された大同類聚方卷八十に、「萬久里藥」の處方が出て居る。其後では貝原益軒の「大和本草」、寺島良安の「三才圖繪」にも「まくり」の

事は出て居る。主藥は海仁草で之に甘草や又は蕗根などを加らしい。「まくり」「まくりね」「どくまくり」など皆同じ意である。海藻の名で、毒を除くの意味である。その以前は「あまもの」といふ名で生れたての子供に飲ましたものです。前に述べた甘草の煎汁などが此類で、漢方の所謂蜜藥であります。元祿以後に五香湯と稱するものが用ゐられましたが、之は當香、木香、丁香、沈香を主方として調合した藥で、今日の醫學の眼で觀れば一種の下劑又は吐劑である。現今でも「まくり」といふものを用ゐる舊式の醫家又は民間の風習が、まだ遺つて居るが、其藥は大抵この五香湯と似たものです。生れたての子供に飲ませる必要ありといふ根據は少しも無いのです、むしろ生母の乳を直接に飲ます事が最も道理に叶つてゐるのである。「まくり」は害はあるかも知れないが、少しも利益はないものである。(まくり」の故實に就きては村尾節三氏によ る)

第二　初めての乳の與へ方

母親の乳が第一

胎内に居る間は、子供は何で育てられて居るかといへば、申す迄も無く血液で育てられて居るのであります。直接に母親の血液が子供の體内へ流れ込むのでは無いが、兎も角血液で育てられてるといつて宜しい。今子供が生れると、もう母親の體からは何も送つて呉れません、昨日と今日とは僅か一日の差でありますが、子供の境遇には大變な相違であります。そこで子供に飲ます物は何がよいかと申しますと、昨日まで胎内で、血液で育てられて居たのですから、成るべく血液に近いものが良い事は判り切つたことです。しかし人間の血液を採つて飲ます譯には行かない、動物卽ち牛や猫の血液を飲ます事は元よりよくない。然らば何が良からうと尋ねますと、遠くを探がす迄も無い、生みの母親の乳房から出る乳、これが何よりも一番よいのであります。

初乳といふもの

何故これが一番よいかといふに、最も血液に近いからである。母親が子供を產んでから凡そ一週間程の間に分泌る乳は、之れを『初乳』と名づけまして、それ以後に分泌

る乳とは大變相違して居ります。一寸見た丈でも、黄ろ味が深く粘り氣が強い。此物が血液と非常によく似て居るので、一名『白い血液』と呼んで居る程であります。其中に含んで居る物も、悉く生れ立ての子供に入用で、而かも消化易い物許り、其外種〻な病氣を防ぐ物も、母親の身體から初乳の中へ出て來ます。前に述べた『胎毒下し』や、まくりの代りをして、嬰兒によい加減の通じを附ける物も、亦此初乳の中に在りますから、初めから母親の此初乳さへ飲まして置けば、『胎毒下し』、まくりは要らないのであります。一週間過ぎてから分泌る乳は、見た所牛乳と同じ樣な白い乳で、『初乳』に對してこの方は『永久乳』といひます。初乳と永久乳との委しい相違の點は茲には略します。

乳の與へ方

生れて二十四時間經ちましたらば、母の乳房を子供の口へ觸れさせますと、子供は直ぐに吸ひ附くのが普通であります。若し吸ひ附きません時は、初め母親が輕く乳を搾りますと『初乳』は出て來まして露の樣に乳首の所へ蓄りますから、其儘子供の脣

へ當てますと必ず吸ひます。一體子供は生れながらにして、種々な事を知つてるもので、臭味の有無、味の善惡、熱い冷い、痛いと痛く無い等は好く判つて居るが、殊に吸ふ事はよく知つて居ります。其證據には、子供の頰でも脣でも指で以て一寸觸れますと、直ぐ口を持つて來て、何でも關はず吸ひますのでも判ります。此吸ふといふ事を知らないのは、生れながらの白癡で、腦に異狀がある赤兒に定まつて居ります。

偖、此『初乳』を凡そ十分程吸はせましたら、子供は泣いても關いませんから乳房をお離しなさい。それから三時間程經ました時、又乳房を口へ當てますと又吸ひます、こんな具合で、一日に七回十分間程づゝ吸はすのであります。毎回の間は凡そ三時間置くが宜しい。夜分は四時間隔で充分です。それ故朝は五時、八時、十一時、午後は二時、五時、夜分は九時と一時に飲ませればよい。つまり晝夜で七回、十分宛でよろしいのであります。尤も場合によつては、初めの一ケ月間は二時間置きに一日八回與へてもよろしい。然し十分間といふ時間は必しも嚴守しないでもよい。人乳を與へる場合には隨分二十分、三十分與へても、子供に障らない事がある。然し丁度適當の時

間は十分位のものであると心得てよい。

第三　生れ立ての子供の取扱方

子供扱方の要點

生れたての子供の取扱方の要點は三つある。第一が冷やさない事、第二が親の乳を飲ます事、此二つは誰も氣のつく事で、又相當に實行されて居る。殊に我が國の親や老人は不必要な程厚着させて其上湯たんぽなどで溫めて置く癖があるから、生れ立ての子供を冷やすといふ心配は先づ無いと見てよろしい。第二の親の乳といふ事も大部分は行はれて居る。但しこれについては非常に注意すべき事が多いから章を改めて述ぶる事とする。そこで第三に極めて必要な事がある。これは非常に肝要であるにも拘はらず、實行されて居なくて困る。殊に我が國人は此點に注意が不行屆である。それは清潔といふ事である。『風邪を引かすな』『冷やすな』といふ考も必要ではあるが、生れ立ての子供の病氣の主な原因は不潔が基であるから、清潔といふ事は是非とも心

掛けねばならぬ。茲で『生れ立ての子供』といふのは、生れてから臍帶の落ちるまで、即ち一週間位の間をいふので、此間の子供を『新生兒』と呼びます。尤も初生兒と呼ぶ人も隨分多くありますが、之は正しくないといふ吾れ〳〵の考で、斷然新生兒と呼んで居るのであります。

さて何故清潔にして置かないと病氣になるかと申ますと、此大さの子供、即ち生れたての子供の病氣は主に入り込む場所が定まつて居ますから、不潔にして置けば病氣の入り込むに都合のよい場所をわざ〳〵拵らへてやるといふ結果になる、それ故それを防ぐには清潔にさへして置けばよい事となるのであります。然らば其清潔方法とはどこを、如何する事であるか？。

臍の手當

生れ立ての子供の病氣の入口と、最も多くなるものゝ一つは實に臍帶である。生れると直に切られて、其切り口の創の全く治るのは、どうしても二三日は要ります。其治りきらない創口から、黴菌が身體の中へ入り込むために、種々な恐ろしい病氣が、

いくらも起るのである。破傷風だとか、丹毒だとか、敗血症だとか、臍炎だとか、委しくは病氣の手當の章で述べますが、これらはいづれも臍から入り込むのであります。いづれも子供の一命に係はる病氣であるが、之を防ぐには如何すればよいかといふと、即ち一言で云へば清潔にすべしである。其清潔とは如何するのかと申ますと、臍の切口に不潔なものが附着しない樣にするのと、臍に濕氣のない樣にするのと二點である。臍は乾いてさへ居れば次第々々に乾らびて生れてから一週間位經てば、自然にぽろつと臍の着け根から落ちて終るものである。丁度草の莖が乾涸ると同じ樣な有樣です。であるから自然の此順序を妨げないために、なるべく乾く樣に乾く樣にとしなければならぬ。これには生れて、臍帶を適當な場所から切つたらば直ぐ、完全に消毒した（蒸氣消毒）ガーゼ五六枚で臍を蓋うて其上から繃帶をすべきものである。が、これのみでは足りない。臍の切口はじく〳〵して居るから其處も成るべく乾く樣に、藥を撒布ねばならぬ。その藥にはデルマトールや、サリチール酸滑石末や、白陶土がよい。少な過ぎるより多過ぎる程撒りかけるがよい。キセロフォルムや、ヨードフォル

ムやアイロールは敢て惡るいとは云はぬが、キセロフォルムには石炭酸、ヨードフォルムやアイロールには沃度が含まれて居るから私は成るべく避ける事にして居る。石炭酸や沃度は子供、殊に生れ立ての子供の樣な鋭敏な者には有毒に働く事があるからである。亞鉛華澱粉を用ゐても差支はない。然し膏藥を塗るのは極めて惡い。又臍へ直接に綿や脫脂綿を當てるのも良くない。濕り易くて、且つ繃帶を換へようとする時、此綿が臍へ密着て容易に取れない。從てまだ脫落ない臍を牽引る事となつて危險であるからである。ガーゼを直接に臍を當てゝ其上へ脫脂綿をあてるのは敢て不可はない。最も注意しなければならぬ事は大小便のために、このガーゼや綿や繃帶が濡れたならば、一刻も早く新しい、殺菌したガーゼ、綿、繃帶で取り換へる事です。之を怠ると臍帶の脫落のは遲くなつて、隨分十五日も二十日もかゝる事があります。

又臍の繃帶は簡單がよい。普通の創の手當の樣にガーゼや綿を澤山用ゐるのは却て惡るい。ガーゼ四五枚、其上が薄い脫脂綿二重、繃帶三四重位が適當です。

入浴の事

生れ立ての子供、卽ち新生兒に入浴させてもよいか、惡るいかといふ事は議論のある問題で、今以て議論が決定いたしません。生れて直ぐの產湯は誰も議論はない。必ず使ふものですが、それ以後臍帶が落ちてすつかり完全に臍が出來上るまで、卽ち凡そ三週間位までは、臍がほんとうの皮膚に包まれて居ないのであるから、入浴のために黴菌が入り易いものである。依て此期間は入浴を差し控へるがよいといふ議論があるのである。日本在來の風習では入浴は決して禁じない。日に一回、或は二回位入れる事もある。甚しきに至つては子供が少し位熱があつても、臍から少し位分泌があつても入れて居る。

私の經驗によると產湯は生れ出たばかりの子供の身體の不潔物を除くためであつて勿論害は無いが、其後と雖、臍帶脫落まで毎日一回入浴せしめて、其入浴のために臍から病毒が侵入した事は一度もないから、入浴を行はせて居る。唯然し入浴を終つてからよく拭ひ、臍は特に乾燥させる樣に乾いたガーゼを當てる事は必要である。臍帶脫落後にも臍にはガーゼと繃帶とを當てゝ置くが、入浴は續けて行つてよろしい。但し回數は毎日又は隔日一回で澤山である。成るべく閉め切つた室內を溫かにした所で行ひたい。入浴の時間は一回五分間でよろしい。長くとも十分間を超える必要はない。湯の溫度は西洋人は攝氏三十五度位としてあるが、日本人にはもう少し高くした方がよい。三十八九度が適當であると思ふ。

浴槽又は盥へ充分に湯を入れて、子供の胸を左の前腕へ載せてよく沈ませ右の手で輕く石鹼（硼酸石鹼の類）を塗り、子供の身體中の腋窩や股の間は殊によく洗ひ、終つたらば大きなタオルで直ぐに子供の身體を包み、よく身體全體を拭ひ乾かし、身體全體へ亞鉛華澱粉とか、ワゼノールとか白陶土とか天花粉とか、滑石粉（タルカム、パウダー）とか全く刺戟の無い粉末を撒布するがよい。浴後は勿論直ぐに元の通りに寢かして置く。

顏や眼は身體を洗ふとは別の淸潔な黴溫湯で洗ふ事にしなければならぬ。（尙ほ入浴と小便の章參照すべし。）

口を洗ふ事

生れ立ての子供は口を洗ふ必要はない。否却て口を洗ふといつて大人が指を子供の口の中へ入れるために軟い口蓋へ創をつけて所謂ベドナル氏亞布管といふ病氣を拵へたり、又他の部分へ創を拵らへたりする事がある。口を洗ふのは齒が生えてからであるから、生後凡そ七八ヶ月を經てからである。然し口や口脣へ何か病氣の起こつたために其手當として藥を塗つたり。藥で洗つたりしてやるのは別である。何故普通は口を洗ふ必要ないかといふに、生れ立ての子供の口の中は非常に清潔なもので、病氣の原因になる樣な黴菌は全く居ないからである。よし何かの機會に少し位の黴菌が入り込んだとしても、子供は涎の盛に流れるものであるから、其涎で洗ひ流して外へ出して終ふか、又唾液も多少殺菌力があるから、其ために殺される事もあるからである。なまじ、大人が指を入れると、指には數限りとない黴菌が居るから、其黴菌を植ゑつける樣な結果になるのである。ところが齒が生えて來て、種々な物を喰べる樣になつたり、又乳首をくはへさせたり又自分で指を口の中へ入れたりする樣になれば大人の口や指と同じ樣に澤山の黴菌が居る事になる。だから洗ふ必要が起るのである。それま

では乳を飲んだといつて直ぐに子供の口を洗つてやるに及ばないものである。

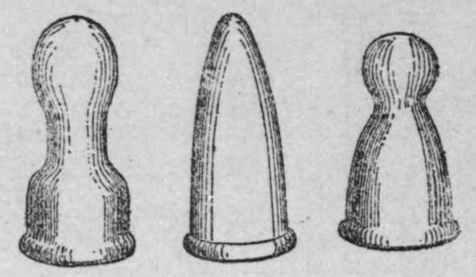
乳首を用ゐるの可否

泣けば乳を與へるといふ習慣は、惡るいといふ事がだん〳〵世の中に知れ渡つて來た。そして泣くのを放置して置くのも可哀さうだといふので、ゴム製の乳首を拵らへて、泣くたびにそれを子供の口の中へ入れてやる風習が、次第に擴つて來た。生れたてには之をやる家は稀であるが、日を經るに從つてやる樣になるから、便宜上此場所で、私は述べて置く事にする。

乳首にはあまり多くの種類は無い。概ね小指位の太さで長さ一寸位、丁度子供の口へ嵌まる樣に都合よく出來てるのが普通である。

乳首を與へるの可否といふ問題は今日では略ぼ片付いて、乳首は不可なりと定まつ

第二圖　乳首の圖



て居る。然し私は人の騒ぐほど之を惡るいものとは考へない。或る程度までは、與へてもよいものと思ふ。乳首が惡るいといふ理由に數へられて居る事柄は、第一乳首をくはへて居るのは不體裁だといふにある。しかし不體裁といふ位な事は子供の健康を主眼に置けば問題にしないでよい。第二には乳首は病氣傳染の媒介をするといふ事である。之は實際ある事で、景も恐るべき事で、乳首排斥の最も有力な理由になる。清潔な子供の口へ、汚れた、黴菌の澤山附着して居る乳首を入れる事は如何に危險であるであらうよ。自分の口へ入れて唾で嘗めた乳首を、わざと子供の口へ押し込む親をも時とすると見受けるが、一層恐ろしい事である。或る一派の醫家によると子供の消化障害の主因は乳首を銜むからだとまで云つてる人もあるが、事實それ程とは私は思はない。第三には乳首を銜む事多ければ多い程、永ければ永い程、唾液を濫費するといふのである。實際、乳首をくはへて居ると涎は絶えず出て流れて居るから、之は良い結果ではないに相違ない。數へ上げれば乳首の惡るい點はこの位であるが不體裁とか、唾液濫費とかいふものは防ぐ譯に行かないが、最も主な點の病氣傳染は或る程度

まで防げる。それは乳首を、百倍位の硼酸水か、重曹水の中へ絶えず浸けて置いて、子供に與へようとする時出して口へ入れてやればよいのである。尤も此藥は蓋の出來る陶器かコップへ入れて置くがよい。

以上は乳首の缺點であるが、私は乳首には看過し難い美點があると思ふ。これは乳首は子供を安靜にさせる美點があるといふのである。『乳首は子供の安靜劑なり』といふのが私の主張であります。神經の亢奮しやすい子供や、よく泣く子供に乳首を銜へさせただけで忽ち安靜になつて二時間も三時間も眠る事がよくあります。之は前々から乳首を用ふる習慣がついてれば勿論であるが、然樣でなくとも乳首に依つて安靜になる事實はいくらもあるから私は絶對に乳首禁止論者ではなくて、むしろ惡るい點を改めつゝ用ゐるなら差支ないといふ側の主張者である。

然し私は自分の子供には絶對に禁じて居る。禁じても困らないから禁じて居るので乳首其ものをひどく惡るいと思つて禁じて居るのではない。子供は容易く習慣のつくものであるから始めからいくら泣いても乳首を與へないで置けば、多くは何もしない

で濟むものである。委しい事は『子供の泣く時の手當』の章にゆづるが、乳首は與へない方がよい。然し與へるは絶對に惡るいのではないといふに止めて置く。

大便と部屋の溫度

生れた當日か其翌日に、子供は黑い粘つた大便をするものであります。惡臭はない。此大便を胎便とも『かにばゞ』とも名けます。之は乳を飲まない前に出る便で、胎内に居る間に腸の中へ種々なものが滯ほりて、それが生後に出るので、決して昔の漢方醫のいふ樣に惡血でも、胎毒でもない。胎便が出てから、子供の便はだん〳〵黃色くなる。これは乳を飲むからである。大便は一日に一度か又は二度位出るのが普通である。其性質は黃色くて水氣はあるが澤山はない。顆粒も無く、稀薄い糊の樣なのが普通である。然し反應は酸性であるから股や肛門の皮膚は刺戟されて赤くなり、容易に爛れ勝ちである。爛れると其處から創が出來たり、又は風邪をひき易くなるからなるべく爛れの出來ない樣に、大便の通じのあつた時は直ぐに微溫の硼酸水を脫脂綿に浸して絞つて、拭つてやる方がよい。拭つてからは亞鉛華澱粉を撒布して置くがよい。

第三圖
生後四ヶ月の健康兒の姿勢

又既に摩爛に、少しでも創が出來たらば其部分へワゼリンか亞鉛華軟膏などを薄く塗つて置くがよい。それ以上はどうしても醫治を乞ふ必要がある。

部屋の溫度は攝氏二十度位卽ち華氏六十度位である。無關に溫にしすぎる風習があると又一方には少しも溫度などはかまはない風習もあつて、共に病氣の原因になる。注意すべき事である。寒い時は火鉢又はストーヴに鐵瓶をかけて湯氣を少しづゝ立たして置くがよい。決して室内が濕つぽくなる程、湯氣を立たする必要はない。

子供が次第に大きくなれば、室内の溫度は華氏六十度よりずつと下でよい。攝氏十三四度卽ち華氏五十四五度で充分である。

黃疸が起こる。無害か。

百人生れた子供の中で、凡そ八十何人は、二日目から五日目までに、黄疸と申まして、身體の黄くなる病にかゝります。初めは顔が黄ろくなり、それから胴、手、足と次第に黄ろくなります。然し熱が出るのでも無ければ、乳を飲まなくなるのでも無い。外には少しも異つた事は無くて只身體が黄ろくなる病であります。大きくなつてからの黄疸では、身體に種々な故障が起りますが、此時の黄疸ばかりは何の障りも起らない。大抵一週間も經ますと、自然に癒つてしまひます。然し注意しければならぬ事は、丁度此頃に起る重い病の時にも、黄疸が起ることである。重い病のための黄疸か、此無害な『新生兒黄疸』かを區別するのは醫者で無ければ別りません。しかし黄疸が起りましたらば、母親は氣を附けて赤兒の襁褓を見るがよろしい。無害な此『新生兒黄疸』の時には、襁褓は黄く色が附きませんが、重病の時に來る黄疸では、襁褓は赤兒の小便が附きますと、必ず黄く染まつて居るものです。それ故、黄疸が起つたらば、醫者に診せるのはよいが、先づ襁褓を見て、黄く染まつて居た時は一刻も早く醫師を迎へなければなりません。

第四　一ケ月以後の乳の與へ方

一個月以後は六回

子供が一個月經ちましたら、乳は晝夜で六回與へれば十分であります朝の七時、十時、午後からの一時、四時、七時、夜分は十二時に一度飲ますれば宜しい。一度に飲ます時間は十分以内で澤山であります。嚴重にかういふ癖をつけますと、赤兒は直ぐにそれに馴れまして、お乳を與る時間でないと眼を覺まさない樣になります。惡るい癖にも善い癖にも子供程直さに染む者はありませんから、母親はよく心懸けて、惡い不規則な癖をつけない樣にしなければならぬ。初めの間は子供が眼つて居ましても、乳を與へる時間が來ましたら起して、無理に乳房を含ませる樣にしますと、二日も經ますと、乳の時間にばかり眼を覺まし、其外の時はすや〳〵と眼る樣になるものです。

泣いたら襁褓

生れたての赤兒は、大抵一晝夜眠つてばかり居て只お乳の時だけ眼を覺ますのが普

通であります。（第十四參照）ところが赤兒はよく小便をいたします、其度數は一晝夜で少くも十四五遍はいたします。致します時刻は、大抵はお乳を與へる爲に眼を覺ました時であります。小便をいたしますと直ぐに泣きます。母親は赤兒が泣けばお腹が空いたのであらうと思ひ、直ぐに乳房を與へますが、子供の泣くのはいつも乳が欲しい時ばかりではない。小便の通じがありました時も泣きますから、母親はお乳を飲ます前に、毎回必ず小便を爲す癖をつけるがよろしい。室内で赤兒のお尻を包んでやれば、決して風邪を引かす憂はありません。私の知人では、生れて七日目から小便をさせる癖をつけたがために、襁褓を洗濯する手數も省け、子供も丈夫で育つてる例は澤山あります。よしこれは眞似が出來ないにしても、赤兒が眼を覺ますか泣くかいたしました時は、母親は乳房を持つて行くよりも、早く先づ襁褓を檢べ、小便が出て居たらば、早速取り換へるがよいのであります。

腐爛の注意

赤兒の皮膚は弱いものであります。汗をかいたりお湯に入れたりして濕つた儘打遣

つて置きますと、腋の下や、肘の折れ目や、頸線などは赤くなつてただれて來ます。小便をした儘襁褓を取り換へないで置くか、取り換へるのが後れますと、これと同じ樣に股からお尻へかけて赤くただれて來ます。これがひどくなりますと不潔な汁を出す樣になり、重い病を起して取り返しの附かない事になります。又さほどでなくとも、赤くただれて居る皮膚は弱い皮膚でありますから、一寸して事でも直ぐ風邪をひく樣になります。それ故、汗をかいた後は早速乾いた手拭で拭き取り、小便の後では直ぐに襁褓を取り換へまして、其後へ亞鉛華澱粉といふ藥を、澤山撒布て置く事に定めるがよろしい。これでも治らなければ是非醫治を受けねばなりません。（第二生れ立ての子供の取扱參照）

確かに十分以内でよい

乳を飲ます時間は、一回十分以内で充分であると私は申ました。それは短か過ぎはしないかといふ懸念があるかも知れませんから、一寸述べて置きますが、たしかに十分以内でよろしい。私は一人の赤兒には生後十五日目から一回毎に五分から六分の間

乳を飲まして、其飲んだ乳の目方を秤り、一日隔に赤兒の體の目方を秤りまして、一日も一回も休まず十個月續けて見ましたところが、三月四月まではたしかに七分以内で充分に育ちます。それから以後とても、十分以上飲ます必要はありません。又此外に二人、生後三日から三箇月の間、毎回五分づゝと定めて飲ませましたところが、一度もお腹も壊さず丈夫に育つて行きました。其外多くの子供を見ますのに、胃腸の病を起こす子供は、二十分とか三十分とか、乳を飲み過ぎる子供に一番多い。それ故私共は、乳は成るべく控へ目にして育てるが良いと申すので、五分六分と申ますと、あまり短か過ぎて實行する事が出來ないかも知れませんが、如何に永くとも、十分間以上飲ます必要はありません。私は自分の子供にも之を實行し頗る健全に育つて居ります。然し永く飲ます必要はないと申すだけで、永く飲ましても、人乳ならばさほどはげしい害は卽座に現はれるものではない。子供が自然に乳房を離すまで飲んで居たところで。

大便を見て加減する

子供が飲み過ぎて居るか如何かは、大便を見るとよくわかります。普通ならば、生れて三四日は胎便と申しまして、黑い粘り氣の强い便をいたしまして、それが過ぎますと、黃ろい、軟かい膏藥の樣なのを一日に一度か二度出しますものであります。ところが少し飲み過ぎますと、回數が多くなり、大便は黃くて、其中に麻の實位なぶつぶつしたものが交り、ずッと軟かになつて襁褓へ平に擴がり、其上水氣が多くなりますから、襁褓の濡れ方がひどくなるのであります。もう少し度が進みますと、大便の色が青味を帶びて、粘液があり、ぶッ〳〵したものは矢張りあつて黃ろく、一日に四回も七回も出る樣になります。普通の便では臭氣は決して惡臭といふ程ではありませんが、お腹が惡るくなると、ひどく鼻を刺す樣な臭氣が、もつと惡るくなると、魚の腸の腐つた樣な臭氣がいたしますから、母親は大便によく氣をつけて、惡るい大便が出ましたらば早速乳を與へる時間を減らさなければなりません、其上の治療は醫師の手を借りるより外はありますまい。

乳房は兩方とも飲ましたがよいか

子供に乳を與へる場合に、片方だけで止すがよいか？それとも兩方とも飲ましたがよいか？といふ問題が起こる。これは子供に取つて充分であれば、片方だけでもよい。又兩方飲ましてもよい。然し要點は、ともかく一方の乳は飲み切つて終ふといふ點にある。途中で止して又他方の乳房を吸ふのは宜しくない。乳汁は初めに分泌るのと、中頃に出るのと、又終に出るのでは少しづゝ、性分が異ひ、其異るといふ事が子供の身體に都合よくなるのであるから、兩方とも中途半端に飲ませては惡るいのである。然し通常は片方の乳房だけで子供は一回には滿足するものであるから、交る〳〵に飲ませる事となるものである。

第五　生みの親の乳に限る理由

乳は必ず出る

人間でも動物でも、乳房を持つてる母親が、子供を產んで乳の分泌ないといふ事は決して無い。多い少いの差こそあれ、百人が百人ながら必ず分泌ます。尤も、產む前

から乳房を壓せば、少しづゝは分泌るものですが、人によると產んでから直ぐは分泌ない事があります。又搾れば少しは出ますが、如何しても子供の吸はない事もあります。又產むだ當座は少しは出ても、暫時經ますと全で出なくなる事もあります。『乳の分泌が惡るい』とか『乳が上がる』とかいふのが是れであります。この場合の手當は後に述べますが、このために可愛い孩兒を折角お母樣のお乳で育てようと思ふのにそれが出來ず、已むを得ないで牛乳で養つたり、乳母を雇つたり、又は煉乳や、下等な人になると米の粉で育つといふ樣に、可愛相な事になります。これは皆『乳の分泌不足』や、『乳が上がる』結果である。現在母親はありながら其乳で育てる事は出來ず、却て外のつまらない物で育てるのは、實に可哀相ではありませんか〃可哀相なのみならず、凡そ子供は人間の乳以外の物で育てますと人の乳で育つた子供よりも四倍程多く死にます。從つて母親の乳で育つた子供でなければ、必ず弱い子供になります。病氣にも餘計に罹る譯であります。

何故母親の乳に限るか

何よりも母親の乳がよいといふ譯は、子供が一番よく育つからである母親の乳なれば一度々々沸かす必要もなく、消毒する手數も要らず、且つ一文の御錢も要らない。これ程便利で經濟的な品がまたとありませうか、凡そ乳といふものは、其動物動物に都合よく出來てるもので。例へば牛乳は牛の子を育てるには一番具合よく出來てるが、馬の子を育てようとするには牛の乳ではうまく行かない。と同じ樣に、人の子を牛乳ではよく育て惡いのである。

一寸した事でも、牛乳では一度一度溫めて子供に飲ませます時に、其溫度の加減で子供はひどい下痢を起したり、熱を出したりします。又餘り消毒した乳ばかり飲ませますと、種々な病氣に罹る、子供の身體の所所へ血の出る病などもあります。これは生の乳の中には種々子供の身體に無くてかなはぬ大切な物が入つて居るのに、乳を沸かしますと、此大切な物は皆無くなつて終ひますから、子供は弱くなり、病氣にも罹るのである。

人間の子は人間の乳

此大切な物といふのは、母親の身體の中、畢竟血液の中に絶えず循環て居る物で、種々な病氣を防ぐものである。これに『抗體』といふ名が命いて居ります。犬には犬の病氣があり、牛には牛の病氣があり、人間には又人間だけに來て犬や牛に來ない病氣がある。病氣は動物の種類によつて異ると同じ樣に、『抗體』も動物によつて異ひます。そこで人間の乳の中に在る『抗體』を犬が飲んだところで犬の病を防ぐ事は出來ないと同樣に、人間が牛乳や其外の物を飲んだところで、人間の病氣を防ぐことは出來ませぬ。又『ヴィタミン』といふ物もある。これが熱のために壞れるといふ理由もある。

專門の學者が研究すれば研究する程、乳の中には種々の物が含まれて居る事が判つて來ました。以前は西洋でも、又此日本でも、子供は牛乳で育つと思つて居りました。否、中には母親の乳よりも牛乳の方が良いと思つた時もありまして、太古から傳はつてる、『母親自ら其乳を以て子供を育てる』といふ立派な習慣を破つて、わざ〳〵牛乳で育てようとした愚な時代も、我が邦でつい近頃までありました。

日本婦人の美點

西洋では婦人が其子に乳を與らうとしても、日本人とは服裝が異ひますために、非常に手數がかゝる。又西洋の習慣として肌を見せる事を厭ひますために、乳を與へるには一々人の居ない室に行かなければならず其の上、西洋の婦人は社交のためによく外へ出勝ちで家に居る事の少い結果、乳を與へる折が稀である。又乳を與へると容色が惡るくなるといつて嫌ふ風があります。隨つて子供は親の乳よりも牛乳其他の物で養はれる事が非常に多い。西洋に病氣の子供の多いのは當然ではありませんか。其處へ行くと日本の風俗は非常に良い。子供に乳を與るには、一寸胸を開くだけで十分であり、少し懇意な人なれば誰の前で子供に乳を飲ませても、之を笑ふ人は一人も無い。其外社交のために子供の世話の出來ないといふ婦人、容色の惡るくなるのを恐れて、吾が子に乳を飲ませないといふ婦人は、日本にも無いではないが、幸なるかな其數が少いのである。我が子を吾が乳で育てるといふ事は、我が邦には神代から傳はつて居る寔に美はしい點であつて、子供のため、一家のため、日本國のため實に喜ぶべき事である。實例を擧げますと。東京府下で幼稚園及び託兒所の兒童二千六百八十四人に

ついて調べたところが滿一ヶ年までの間に母乳のみで育てられた者は六割八分、母乳牛乳使用のものが一割五分、牛乳のみの者僅に七分でありました。

乳母よりは母親の乳

孩兒を育てるに人間の乳が一番良い事は申すまでも無いが、其中で生みの母の乳は勿論一番良い。しかし何等かの障礙のために、生みの母の乳を與らない時は『乳母』を雇ふに越した事はない。が、乳母の乳と母親の乳とは全く同樣に思ふ事は出來ない。それ故母親が生きて居れば大抵な病氣では、かまはず乳を孩兒に與るがよい。然るに茲に現代に於ても宮中、皇族、大官、豪商は乳母の乳を以て母乳に代ふる習慣であると仄に聞く。

宮內省に侍醫寮があつて一國の名醫を集めて居る以上、たとひ毎日毎回とまで行かずとも、皇子又は皇女、御齡九箇月に達し給ふ頃までは少くとも一日一回以上、御母乳を進めまゐらす事にしたらば、御健康は更に更に御增進遊ばすことゝ思ふ。

かくすれば母乳を與へないで乳母を雇ひ、吾が子の事に關係しないのを名譽の如く

思つてる下々の人々も、母乳で以て吾が子を育てる様になるだらうと思ふ。草莽の微臣、敢て雲上の事を横議しようとの素志で申すのではありません。

第六　病氣の母の乳や藥を飲んだ母の乳は飲ませてもよいか

母親が病氣に罹ると、其乳を飲めば子供も同じ病氣になりはしないか、又病氣にならないまでも弱くなりはしないか、多少とも身體へ障りはしないかと恐れて、母親が一寸風邪をひいても、直に母親から離して終ふ人があるが、そんなに恐るゝに及ばぬ。子供に害になる病氣もあるが、又如何に重い病氣に母親が罹つて居ても、少しも子供に障らない事もある。如何な病氣が障つて、どんな病氣は障らないか？

又藥も同じで、どんな藥でも母親が飲めば、乳が惡るくなるものではない。どう云ふ時に飲ませて差支ないか、どういふ時はよいか？

腎臓炎でも肺炎でもよろしい

一般に曰ふと子供に乳を飲ませて惡るいといふ病氣は極僅かである。全く無いではないが世間でこれまで考へてるよりはずつと少い。それのみならず中には、乳を子供に與へた方が却て、病氣に罹つてる母親のために良い事さへある。子癇といつて親の痙攣を起こす病、それから腎臓炎、肺炎、肋膜炎、下痢、皮膚病、黴毒など親が患つて居ても、子供に飲ませて差支ない。産の時に親が出血などして、ひどく貧血になつて居ても、親の貧血が間もなく治りさうである時は、飲ましてよい。僂麻質で關節や筋肉が痛む病、心臓病や眼の病などは、親の苦痛は隨分輕くない事もあるから、其都合で子供に乳を飲まさないのは別の議論として、子供に取つては其乳を飲ましたところで、害はないものである。

唯、ひどい産褥熱、腸チフス、バラチフス、重い丹毒、猩紅熱それから勿論コレラやペストの時は親の乳を廢したがよい。重い糖尿病や、頻發する癲癇の時も子供にはその親の乳を廢したがよい。

乳の中へ黴菌が出て來てもよい

輕ければ、たとひ産褥熱でも、腸チフスでもパラチフスでも子供に乳を飲ませて差支ない。産褥熱、腸チフス、パラチフスの時は乳汁の中へ其黴菌が出て來る事はたしかにある。然し其黴菌は非常に弱つてるから、子供が其乳汁を飲んだからとて大概は傳染しないものである。然し乳からは傳染しないにしても、外の所からいくらでも傳染する機會はあるから、成るべく母親と離して置くがよいといふのである。母親の傍へ寄せなければ大丈夫であるからである。其他傳染する病氣を母親が患つてる時にはよし乳からは傳染しないにしても、乳以外から傳染るから、其點だけは注意しなければならぬ。然し實際には傳染ばかり恐ろしがつて、肝腎の乳といふ事を疎略にする結果、其乳のために大變な病を却て子供の身體に起こす事が多い。例へば親が輕い扁桃腺炎を病んでると、傳染つてはといふので、子供に牛乳を飲ませたところが、其牛乳が惡るくて子供は下痢を起こし、死んでしまつた樣な事實もある。少し位な風邪位ならばたとひ子供が傳染つたところで心配なものではないから、親の傍へ置いて其乳を飲ませて差支ないのである。

又茲に注意して置く必要のある事がある。それは少し重い病でも親子とも同じ病に罹つてる時の事である。例へば腸チフスに親子とも罹つたとする。これが親と子にどちらか重い輕いの相違があつたとしても、乳は飲ましてよい。親の重いチフスの乳を飲めば子供の輕いチフスが重くなるものではないのである。つまり親子同病の時は飲ませてよいといふ事を記憶して置くべきである。然しながら乳を飲ます飲まさないは、病名だけでは斷定出來るものでない。親と子の體の狀態に依つても決定するものであるから、いよ〳〵といふ點は醫師の考に任かせて決定して貰ふに限るのである。

大問題の親の結核と黴毒

昔は親に少しでも結核の疑があれば、直ぐに子供に乳を與へる事を廢したものである。現今ではそんなに嚴重にしないでもよい事が判明して來た。然し今でも事實上の問題としては、廢す、廢べからずで可なり、八ケ間敷い事になる場合がある。肺結核に罹つてると其乳の中へ結核菌の出て來る事のあるのは疑ふべからざる事實ではあるが、其結核菌の毒力は非常に弱いものになつて居るから子供の胃の中で大抵は殺され

て終ふ。從て乳汁から傳染する樣な事は無いと云つてよい。又不思議な事は母の肺結核の輕い場合には、子供に乳を與へた方が母の健康も增し、身體の目方も殖えて來る事である。而して子供は親の肺結核に對しては非常に抵抗力を持つて居て容易に傳染しないといふ事實である。であるから所謂ビルケ氏皮膚反應が陽性ではあるが、診察の結果肺のどこにも疑しい所はないといふ位の程察ならば無論乳を子に飲ませてもよろしいのである。

然しこれは輕い肺病の話で、咳や痰のどし〳〵出て來る樣な肺結核では斷然親子を隔離して住まはせねばならぬ。從て乳を與へる事も出來ない譯である。

母親が黴毒の時はこれとは全く話が違ふ。此時は是非とも親の乳を飲ませなければならぬ。何故ならば親が黴毒であれば必ず子供も黴毒に罹つて生れて居るものである。前申した親子の同病の場合が當てはまるので、親の乳を飲ませて宜しいのが一つの理由ではあるが、又一つには子供の黴毒から外の人に黴毒を傳染させる危險が充分にあるために、其危險を豫防するために親の乳をのみ與ふべしといふにある。之は社

會衛生の方面からいふのである。

產後のさはり

產褥熱の輕い場合には子に乳を飲ませてよい事は前に述べた。產褥熱を起こす黴菌は其病人であるところの親の血の中に居るから、乳へも出て來るが、少しも意とするに足りないのである。よし產褥熱ならずとも產後には親が弱つて、痩せて居り、皮膚も蒼白くなり、疲れて居るもので、その痛々しさのために周圍の人は子供に乳を與へる事を差し控へさせる向もあるが、この場合にも大抵は子に其乳を飲まして差支ないものであるのみならず、元來親の子宮は姙娠のために擴がつてたのが分娩後は收縮すべきであるに、乳を飲ませないで置けば此收縮は隨分手間取るもので、其爲めに種々な害が起こるが、子供に乳を飲ますると、よい加減に早く收縮して行くもので、茲にも子供に乳を與へる利益があるのである。

乳房の腫れた時

人によると初めて子供に乳を飲ませる時、ひどく乳房の痛む事がある。痛みがひど

くて脊中までも響く事がある。然しそれは一向かまひません。飲まして居る間に治ります。之と異り、乳房へ創の出來る事がある。子供が齒の生えてから乳房を嚙んで出來る事は後にはあるが、それでなくして何かの機會に出來る事がある。此時は乳汁には變化はないから飲ましてもよいが、母親は著しい苦痛であるから必ず適當の藥を附けて治さなければならぬ。痛い所へ子供の脣が觸れないで乳を飲ませる器械（インファンチブス）もあるが多くは効果が薄い。創の治るまでは飲ます事を差控へたがよい。

よし飲ますにしても短時間にした方がよいのである。

乳腺炎といふ病になると乳房へ『しこり』が出來て、熱も出で、ひどく痛み、遂にはそこへ膿を持ち、甚しいのになると子供の吸ふ乳の中へ膿が交つて出て來る事さへある。しかしこれでも、かまはず吸はして子供には害は來ないものである。私は無鐵砲に亂暴な事を曰ふのではありません。確かな經驗から述べるのですが、外の大家も同樣な考を持つてる人が隨分ある。彼の獨逸のチーミヒ氏なども此點を特筆して、安心して子供に乳を飲ませよと記してある。

月經の時と姙娠の時

子供を生んで間もなく月經の來るものでもなく、又姙娠するものでもないが、便宜上此章で此事を述べて置きたい。抑も子供に乳を與へて居る間は、親に月經は起こらないものであるが、分娩後五乃至六週間經つと一回だけ起こる事がある。それからは凡そ一ヶ年位の間は、稀に起こつたり止んだりする事もあるが、多くの婦人には起こらずに居るものである。極く〳〵稀には子供に乳を與へて居るに拘はらず、毎月きち〳〵と來る事もある。そこで月經のある時は子供に乳を與へるなといふ人もあるが之は誤た考である。月經の有無に拘はらずどし〳〵與へてよろしい。之は原則である。與へて差支ないが、私の經驗では、極く稀には、子供が吐いたり下したり、青い便を出したりして、それが親の月經の時に限つて起こり、外には少しも手がゝりが無くて、どうしても親の月經のために相違ないと思ふ事があるから、月經が丸きり乳に關係が無いとは、私は考へない。然しこんな時でも其儘乳を子供に與へて居ると自然に其吐き下しや青い便は治つて終ふものである。

親が姙娠した時はどうするか？子供に乳を與へて居る間に姙娠する事は非常に珍らしい事ではあるが、絶無ではない。分娩後八九ヶ月も經つて、少しづゝ乳以外の食物を子供が攝る樣になると、親は姙娠する事がある。姙娠はしても二三ヶ月は乳の出る分量は變りはないものであるから、子供に飲まして居てよろしい。姙娠の月が進むに連れて乳の出方も少くなり、恐らく乳の性質も變つて來るらしいから、遲くも姙娠五ケ月に達したならば、是非とも、斷然乳を離したがよい。而して此頃になれば子の年齡も大抵滿一ケ年以上になるから、たとひ親が姙娠しなくとも乳を離して、外の物を食べさせるべき時期であるからである。若し姙娠した母の乳ばかり飲ましして、外の物を與へないで置くと、子供はだん〳〵痩せ、蒼白くなり、疲れてぐつたりし、甚しく勢が無くなるものである。

藥を飲んだ母の乳

母親が藥を飲むと、乳の中へ其藥が出て來ます。しかし、如何な藥も皆分泌て來るのではない。これまで判明つて居るのは「サリチール酸」臭剝　沃度加里、沃度「フオ

ルム」、亞砒酸、水銀、「アルコール」などであります。此外麻醉藥は大抵乳の中へ出て來ます。それ故「モルヒネ」「クロ、フォルム」「エーテル」など皆出ます。お母樣が酒に醉へば其乳飲み兒も醉ふ譯です。實際乳飲み兒の顏も赤くなりますものです。

然し、乳の中へ出る藥の量は極僅かですから、其爲めに子供に害を及ぼすといふ樣な事は決してありません。普通醫師が盛る位な藥の分量で十日や二十日續けたところで、たとひ「モルヒネ」を親が飲んだとてそれが子供に害を與へる樣な事は無い。隨つて子供が病氣の時に、親に藥を與へ其乳を飲ませて、それで以て子供の病氣を治さうとしても駄目です。子供に利く程乳の中へ藥を出さうとするには、親の身體に害になるほど藥を飲ませなければなりません。

只分量を多く用ゐたり、永い間用ゐたりする事は親は避けるがよい。多少とも子供が影響を受けるからである。喰べ物でも藥でも同じ事である。それ故母親は、永く續けて青魚、葱、酒類などを用ゐるのは止すがよい。畢竟、母親は何の病氣であらうと、如何な藥を飲まうと短い時日の事なれば、かまはず子供に乳を飲まして差支無いので

あります。

乳児の脚氣

日本には脚氣といふ病氣がある、脚氣に罹つて居る母親の乳を孩兒が飲むと其孩兒が脚氣になる。此病氣を『乳兒脚氣』と申します。此時には孩兒は飲んだ乳を吐き、大便の通じも度數が多くなり、聲が嗄れ、よく眠らない樣になり又からだ中に浮腫が出て手足が腫れる事もあります。斯樣な場合には、勿論醫者の治療を受けなければなりませぬ。(後章『乳兒脚氣』の部參照)

ところが又案じ過ごしまして、一寸乳を吐きますと、それ孩兒が脚氣に罹つたのだといつて、急いで母親の乳を廢してしまふ人のあるのは、孩兒のために大變不爲であります。『乳兒脚氣』といふ病氣は常も母乳を全然廢さなくては治らないのではない。輕い脚氣では、母乳の與り方を少し減らしただけでも治るものであります。又母親が脚氣だから其乳を飲ますれば、十人が十人まで其孩兒が脚氣になると定つたものではない。それ故、母親が脚氣に罹つても孩兒には其乳を飲まして居てよろしい。若し醫

者が診て孩兒も脚氣になつたといつた時、初めて孩兒に療治をして貰へばそれで十分であります。又「所謂腦膜炎」といふ病がある。この病氣でも乳を變へるか、牛乳にした方がよい。これは人乳を飲んでる子供に限つて起こる病です。「人乳中毒症」でもそうである。これは後章をごらんなさい。

角をためて牛を殺す

脚氣々々と脚氣ばかり心配して、少し下痢でもありますと、早速母親の乳を廢して牛乳ばかり與つたために、下痢はます〳〵甚しくなつて、加之に嘔吐も起り、とう〳〵それがために死んだといふ例や、輕い乳兒脚氣にかゝつた孩兒に、急いで親の乳を全然廢して煉乳ばかり飲ました結果、脚氣は治つたが、母親の乳はそれつきり上つて終ひ、煉乳や牛乳ばかりで育てる事となつて、孩兒は次第々々に弱り、誕生も待たで敢なくなつたといふ類の話は、數限りなくあります。

『乳兒脚氣』にかゝつてる孩兒に、成る程母親の乳は惡るいに相違ありません。しかし惡るいのは其乳の中の或る一部分の物だけで、孩兒の身體に是非入用な物も澤山含ん

で居るのでありますから、一部分の惡るい爲めに全部を捨てゝ終ふのは、孩兒の爲めにはどれ丈け惡るいかわかりません。毒も用ゐ方によつては藥になる、惡るいといふ脚氣の乳も、少し位飲ますに不都合はない事が多い。

兎に角、脚氣の時の母親の乳の與り方は餘程加減もので、急に全然母乳を廢すといふ事は後になつて種々な害が起つて來るといふ事、丁度角をためて牛を殺す樣な結果に陷らない樣、吳々も望ましいのであります。

第七　乳の上がる理由とそれを治す法

上がる乳

お產をすれば、百人が百人まで乳は必ず分泌るものである事、其中に少しの間は分泌て居ても遂に分泌なくなるといふ乳のある事は前に述べました、これを『上がる乳』と申します。さうすると『これは乳が足りない』といふので、狼狽てゝ牛乳などを飲ます事になります。然し『上がる乳』『足りない乳』となるのは、一寸母親の身體に罪

がある樣に思はれますが、其實子供の方が惡るい事が多いもので、子供の扱ひ方さへ少し變へれば、乳が上がるとか、乳が足りないとかいふ事は、大抵豫防の出來るものであります。假令上がりかけた乳でも治す事が出來ます。それ故かういふ場合には、子供の身體をとくと調べて、乳の上がる原因を見出すのが肝心であります。

吸はすに限る

何程分泌る乳でも、吸はせ無ければ間も無く分泌が止まります。其證據には、よく分泌る乳の母親がお產をして、一と月か二た月で子供を亡くして御覽なさい。其當座こそ張り切れる程乳房は張りますが間も無く止まつてしまひます。男の乳房でさへ吸へば遂には分泌て來たといふ話、お產後五年十年經つたお婆さんでさへ、お孫さんに乳房を吸はしたらば分泌て來たといふ話は珍らしくありません、況して生みの御母樣のお乳房ですもの、吸はせさへすれば必ず必ず分泌るものであります。何人でもお產後二三週間から二た月程の間に、一度は乳の分泌の際立つて減る時が來ます。此時子供に乳を續いて吸はして居ますと、又乳はどんゝ増して參りますが、止して終へば母

親の月經が現はれて來ます。此一度乳の減る時『それ、乳が上りかけた』といふので、牛乳か何か、外の物を補充として子供に飲ませますと乳はだんぐ〜上がつて終ひます。

乳の上がる理由

母親の乳以外の物を子供に飲ませますと、何故母親の乳は上がつて終ふかと申ますと、それは子供が母親の乳房を吸はは無くなるからです。よく吸ひましても吸ひ方が弱くなるからであります。何故吸ひ方が弱くなるかといひますと、普通子供に牛乳を飲ますには、授乳器と申します罎へ牛乳を入れ、それへ護謨の乳首を附け、其乳首には小さい孔が明いて居りますから、其乳首を吸はせますと、其小さい孔から罎の中の乳が出て來る樣になつて居ります。かうして牛乳を與るにしても、又匙で牛乳を與るにしても、子供に取つては母親の乳房を吸ふよりも非常に樂であります。此樂に乳が飲めるために、子供は一寸弱い力で吸つた位では分泌ない樣な母親の乳房は吸はずして、分泌の善い牛乳ばかり吸ふ樣になる。これが永く續くと、子供の吸ふ力は非常に鈍くなり從つて母親の乳の分泌が益々惡るくなる。そこで乳が上がりかけたといつて騷ぐ、

笑ぞ知らん、其原因は母親の乳房に非ずして、子供自身にある。否、子供よりも、寧ろ、子供に母乳以外の物を與へた、外の人々が惡るいのである。

吸ひたくとも吸へない

この外、乳の上がるのは、子供が母親の乳房を吸はないのではなく、吸へないのが原因となる事もあります、生來非常に虛弱い子供は、二た口や三口は吸つて居りますけれども、直ぐにそれを止して仕舞ふものです。ことに月の數が足らずして生れた子供などは格別うまく吸はない事が多い、そして乳を飲まさうとしても、直ぐに眠つて終ふものです。

又子供の口の奥が裂けて居りましたり、口が三つ口になつてる子供も乳房を吸ふ事は餘程困難であります。

それから、又鼻孔の塞まつてる子供は、乳房を吸はうとしますと、自然呼吸が塞まるやうになりますから、一寸吸ふかと思ふと、直ぐ乳房を放して終ひます。

又子供の口の中の病氣でも、乳の吸ひ方が惡くなります。こんな事で乳はよく分泌

ますし、子供も吸ひたいに拘はらず、いろんな障礙のために吸へない事も隨分あるものでありますが、どちらにしても、吸はなければ乳は上がるといふ結果になるのは一つであります。

乳が上がりかけたと思ひましたらば、早速子供の吸ひ方に變りは無いかと考へ、よく調べて其原因が判りましたら、それを除く様に心懸ければ全く上がらないうちに防ぐ事が出來ます。

母親に罪は少しも無い

それから、子供だけではなく母親の方にも障礙があつて、そのために子供が乳房を吸ひ惡いことがあります。それは乳首が引込み過ぎてる時であります。

しかし、始めの間こそ子供は少しは吸ひ付き惡いかも知れませんが、それをも關はず、吸はして居りますと、だん〳〵乳首の形が變つて突き出して來ます、又子供の方でも馴れて來てうまく吸ふ様になるものでありますから、一日や二日子供が吸ひ付き惡いといつて、急いで乳母を雇ふとか、外の物を飲ますとかいふ事を爲てはよろしく

ありません。

其外乳房に少し位の創やお腫がをつても、吸はして差支無い事は前に申し述べました。

母親の乳房に、左と右とで大小不同があるのは病氣ではありませんが中には吸はして惡るいと思ふお祖母様があります。一向かまはず吸はすがよろしい。殊に小さい方を精出して吸はせますと、間も無く兩方とも大ささが左程違ひ無くなります。

又母親が姙娠しますと、今迄飲まして居ましたのを止さないと、胎内の子供に障ると思ふ人達も少くないのでありますが、決して差支ありません。乳を吸ふ子供にも、母親にも、胎兒にも毫も害になるものではありません。どん〳〵飲ましてよろしいのであります。（第五十二頁をもご覽なさい）

第八　乳の分泌具合と親の食べ物

親の食べ物や飲み物によつて乳の出具合は變るものであるか？。又親の心持ちは乳

に影響を及ぼすものであるか。從來は之に就いて種々な傳統的の風習もあつて、それに胎教といふ樣な一種の戒律的の規則と結び付いて、頗る面倒な、而して嚴重な束縛(?)を母親は受けなければならなかつたが、現今では之とは非常に趣を異にして、頗る自由開放的になつたのである。

乳の分泌の惡るいのは吸はさないが原因する事は、繰り返し述べたが、其吸はせない原因は多くは痛いとか、面倒だとか、自分で出ないと決めて終ふ自己暗示などによるもので、從て多くは中流以上の家庭である。貧民階級の其日暮らしで、親の乳を飲ますに錢は要らないが、牛乳を飲ますにも、乳の粉を飲ますにも金が要るのが困るといふ階級には、乳の分泌の惡るいといふ話は聞きたくも、聞かれないではないか。此處の母親達は乳の分泌るだらうか。出ないだらうかなどは、問題にしない。初めから考へないで只一所懸命に子に乳房を含ます。一日の生活に追はれて居るから、朝から晩まで勞働をする。少し子供が大きくなれば背負つて工場へでも、物賣りにでも出掛けて行く。此眞似をなさいと私は云ふのだ。此通り行へといふのではないが、心に乳

の分泌ないか？などゝ心配せずに、身體を惜しまず働きなさいといふのです。

怒ること悲しい事

親の心に感動があれば乳の分泌に關係するかといふに、昔は甚しく意味をつけて、非常に關係のあるものゝ如く云はれて居たが、實際は無關係といふ事が明となつた。喜怒哀樂、乳の分量にも又性質にも少しも變化を來すものでない。然し急に乳の出の止まる事はある。これは親が驚いたりする場合であるが、之も一時の事で元の通りになるものである。又こういふ場合の乳汁は毒であるといふ樣な事も云はれて居るが、それは傳說や小說にある事で、決して今日の進步した科學からいふのではない。却て全く無害といふべきである。

毒な食物は何か

何を根據に說いたものか我が國では、昔は產婦は數ケ月の間、脂肪の多いものや、魚類は食べさせられなかつた。今では何を食べてもよい事となつた。『食べ得るものは何でも食べさせよ』といふのが原則である。魚や牛肉は勿論、天麩羅でも洋食でも山

椒でも山葵でも食べて差支ない。「サラダ」や『ほうれん』草、果物もよろしい。禁じないばかりか子供の身體の發育に大切な物を含んで居るのである。

乳汁は御承知の如く蛋白質や脂肪、乳糖、ヴイタミン、鹽類などから出來て居るが、その孰れかを多くする目的で食物を親が食べても無効である。例へば脂肪分の多い乳を出さうと思つて天麩羅を多く食べたとて、乳は決して脂肪の多いのは出て來ない。それ程又乳の性質を心配せずとも子供は自分の身體の必要に應じて或る程度まで飲み方を加減するものである。

多く食べたら多く出るか

母親が多く飲み食ひすれば、乳汁も多く分泌するものであるか？。否。食べ物は勿論、たとひ乳を飲んでも、滋養の多いソップを飲んでも、乳の分泌を高めて、さほど多く乳を出さしむる事は覺束ない。又身體は何も爲ないで遊んでると脂肪が貯まつて肥えて來るから、從て乳の中の脂肪も增して來るだらうといふ考へで、なるべく身體を動かさないで居ても、當て事と何とかで、乳には決して脂肪が增して來るものでない。

大食が何の效も無いのなら、少食は如何、普通に乳が出て居る場合であれば、少食したとて乳の分量にも性質にも變化は來たさない。然しずつと普通以下に榮養を減らしたり、永く續けたりすれば、身體が痩せて來ると同樣に乳の分量は減つて來、從て性質も惡るくなるものである。

どんな飲物はよいか

特別に產婦に良いといふ飲み物はない。味噌汁がよいとか、鯉こくがよいとか云ふのは、何も味噌汁、鯉こくが特に善いのではない、其液體、其中の滋養分が人體に良いので、決して產婦特有によいのではない。殊更に乳を分泌さする働のあるのでもない。產婦乃至母親は乳を分泌して居る間は水分を澤山に要するものではあるが、それは普通の水、乃至番茶で澤山である。特に注意する必要はない。ビールや酒、葡萄酒の類は多くは飲まないがよい。母親が少し飲んでも乳の中へアルコールが出て來て、子供は其爲めに醉ふものである。

水分を澤山飲めば乳の出方はいくらか增します。然しこれだけでこれまで少かつた

乳量を充分に多くする事は到底出來ないものである。

第九　乳を分泌さする法

乳房を吸はすこと

乳の分泌を増させやうとか、又は一度減つた乳を舊の通り出さうと思はば、一番のよい方法は、吸ふ力の十分にある他の子供に、毎日乳房を吸はす事であります。かうすれば丸つきり分泌なくなつた乳房でも、一週間か十日で必ず分泌る事受け合ひであります。少し減つた位なれば二三日行れば必ず以前の通りに澤山分泌て來ます。又外の子供でなくも、自分の子供に吸はしても勿論よろしい。今吸はせようと思ふ子供ならば是迄牛乳などを與つてたならば其樣なものは少しも與へず、一所懸命乳房を附ければ必ず分泌る樣になります。初めの間は思ふ樣に分泌ないので、飢渴くなつて泣きませうが、其處が我慢の爲處で、子供は二日三日飢渴くしたとて、決して死ぬものではありませんから、只一途に乳房を吸はす事を心懸くべきであります。必ず〳〵分泌

て來るものであります。

唯、然しながら、子供に吸はすと共に、母親は滋養になる食物を多く喰べる事は至極宜しい。成るべくは牛乳を澤山飲む事としたい、若し牛乳が否な方は、普通の湯か、薄い番茶を澤山飲むが宜しいのであります、間接によいのである。

乳の出る藥

西洋にも日本にも、乳の出る藥といふものが隨分と多く市中に販賣に出てあります。日本では昔から鯉こくを喰べると良いと申します。是は鯉こくには滋養分がある上に、汁として飲むのでありますから水氣もありますゆゑ、決して惡るくはありません。畢竟鯉でんぶ、鰹でんぶ、鯛でんぶを汁として喰べても同じ理窟になるので、殊更に鯉に限ると思はれません。只これを飲みさへすれば乳が分泌ると思ふと、少し當てが外づれるだらうと考へます。

賣つてをる『乳の出る藥』といふものは、此外日本にも、隨分と多いものであります。近頃大阪からは『ネオミルヒン』といふのが出て居ります。

西洋には『サナトーゲン』とか、『ガルレーガ』とか、『マルツトロポン』とか、『ソマトーゼ』とか、種々あります。又棉の種子を喰べると良いといふので、これから製したのを『ラクタゴール』といふ名を命けて賣り出してをります。

今私は此處で、これ等の藥の惡る口をいふのは好みませぬ。又これ等の藥を用ゐて、母親や子供の身體に害になるとも思ひません。只、世のお母樣達よ。乳の出る藥をお飲みになると共に、お子樣に乳房を精出して吸はす事は決して忘れてはなりません。其外に牛乳か薄い番茶をも是非飲んでいたゞきたい。若し、之れをお忘れになつたならば、折角お求めになつた『乳の出る藥』は、案外利きの惡るい藥とお思ひになることでありませう。

電氣と乳揉み

乳が足りないと思ひますと、我が邦の習慣では、先づ『乳揉み』といふ專門家を賴んで、母親の乳を揉んで貰ふのであります。これは元來乳の分泌の惡るいのは、母親の乳房に罪があると思つたからでありませう、然し善く調べて見ますと、乳の分泌の

惡るいのは、案外子供の方に罪の在るものでありますが、一方子供に精出して乳を吸はすと共に、又母親の乳房を揉むのは決して惡るい事では無い。

此外、母親の乳房に電氣をかけるとか溫かい濕布や冷たい濕布を乳房に當てるといふ事は、試みて見るが良い方法であります。

しかし、繰り返し申ました通り、子供に乳房を吸はす事は、吳れ〳〵も忘れてはなりません。

第十　離乳の方法

離乳

子供は生れてから、もう八箇月立ちました。下齒が二本生えかゝりました。

これまでは、子供は母親の胎内に居た續きといふ事に重きを置いて、成べく、大切に、食物も母親の乳以外のものを與へない事にいたしましたが、これからそろ〳〵母親の乳を離さねばなりません。若しいつまでも母親の乳ばかり與へて置きますと、母

親の身體にも、子供の身體にも種々な害が起つて來ます。『可愛い子には旅をさせよ』といふ諺と同じく孩兒も八箇月經ちますと、生れた當時とは大分違ひまして、もう、人の見判けもつきますし、寢返りも出來、譯の判らない言葉ながら何か口の中で申しますし、足を投げ出して坐る事も、玩具を持つて遊ぶ事も出來、其上齒の生え始める頃でありますから、大分浮世めいてまゐります。從つて食べ物もお乳ばかりで無く、だん〳〵此世の中にある食物、つまり大人の食べ物を食べさせる樣にしなければなりません。

肉と野菜

凡そ生き物の中には、肉類ばかり喰べてゐればどん〳〵生長して行く物があります。犬や猫や虎は卽ちそれで、其齒は犬齒、俗にいふ絲切齒が大變よく發達して居ります。つまり物を引きちぎるに此齒は是非入用だからであります。而して其腸はあまり長くはありません、これは肉類は腸の中に永く止まつて居ないでも消化てしまふからであります。又生き物によると、草だの野菜ばかり食べてると生きて居る物があります。

牛や馬の類であります。此類の動物の齒は臼齒、俗にいふ奥齒が大變よく發達して居ります。これは物を磨りつぶすに都合よく出來てるのであります。又腸は大變長い。これも草や野菜類を消化すに必用なからである、言葉を換へて申しますと、犬や猫は動物性の食品が入用で、牛や馬は植物性の食品が入用な動物であります。

ところで人間は如何かと申しますと、人間は肉類も食べなければならぬ上に、野菜類も是非入用であつて、つまり動物性の食餌と、植物性の食餌との兩方を食べなければならぬ。卽ち混合營養又は混合食餌を爲て生きて居る動物である。其齒を見ましても判ります通り、犬齒も可なり善く發達し、奥齒も隨分發育するもので、其腸の長さを調べて見ますと動物性食餌を喰べる物と、植物性のそればかり喰べる物との眞中程の長さであります。

さて、八箇月經てば、子供の喰べ物もこれからはだん〳〵混合營養にして行かねばならぬ。つまり、これまでは母親の乳ばかりで、これは動物性の食餌でありますから、この後は米、麥、野菜類といふ樣な植物性の食餌を喰べさせる事が必要で、其ために

はだん〳〵母親の乳を離さねばならぬ。要領は母親の乳を徐々に離して混合營養にするのであるが、其離れ具合、移り行き加減が六ケ敷いので、一ト通り心得て置かないと病氣を起こしますから、茲で離乳法の事を述べようと思ひます。

永く飲ますのは親にも子にも惡るい

親の乳は吸へば殆どいつまでゞも分泌るものであります。九歳十歳になる子供が、まだ母親の乳房を吸つてるのを時々見受けますが、聞いて見ますと必ずまだ乳は分泌ると申します。

乳はいつまでゞも分泌ますが、それを何時までも吸はして置くと母親のためにも又小供の爲めにも宜しくないのであります。母親は貧血を起こしたり、癇が高くなつたり『ヒステリー』といふ病氣になつたりいたします。又小供は色が蒼くなり、乳を飲んでるに拘はらずだん〳〵痩せだん〳〵勢が無くなります。つまり乳を飲んでも少しも發育しない樣になるのでありますから、惡るくならない前、凡そ生れて六箇月頃から、子供は他の人の食べてる物を何でも欲しがる樣子が見え、何でも持つてる物を口

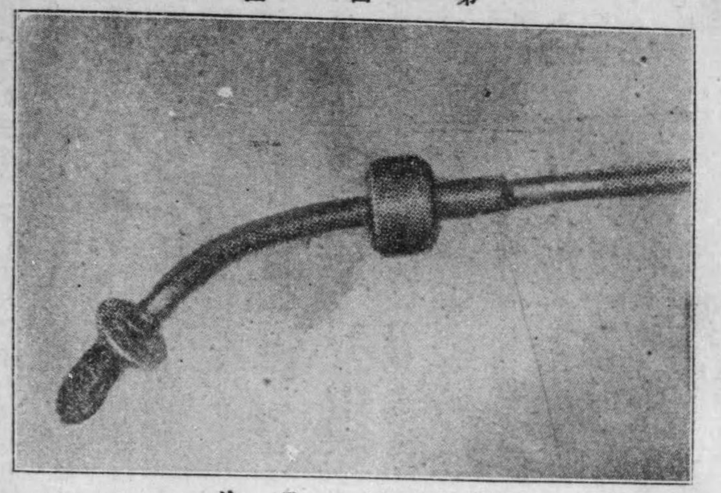
の中へ入れます。これを見ても、子供は乳より外の物が欲しいのである事はわかります。

九箇月目から

何時頃から始めるがよいかと申ますと、齒が初めて生えた時が丁度頃合であります。六箇月目から九箇月目までの間に、下の前齒が二本一度に生えて來るのが普通でありますから、此頃からそろ〳〵離す事といたします。世には齒が生えたら何でも與へてよいと思ふ人がありますが、これは誤りです。成る程齒は物を嚙むための器官には相違ありませんが前齒二本では嚙めるものでない、どうしても奥齒、(臼齒)がすつかり揃つてからでないと嚙めません。

小笠原流で『喰べ初め』といふ事をいたします。生れて百二十日目にお祝をするので、餅と小石二個を供へますが、何もこれを子供に食べさせるためではない。只ほんの儀式でありますから、決して百二十日經てば子供には何を喰べさせてもよいと思つてはいけません。一體我が邦では、どちらかと申しますと離乳は遲い方で、滿一歳の後

第四圖



悪るい乳首

にそろ〳〵始める方が多い様でありますが、これは差支ありませんが、又九箇月目位からでも宜しいのであります。

先づ牛乳

九箇月目位の子供は、一日五回乳を飲ますれば澤山であります。離乳する時期になりましたならば此五回の中晝間の中に一回だけを牛乳にするのであります。分量は一度に一合で、何も加へず又稀釋も爲ないでよろしい。又牛乳の中へ其三分の一程うすい重湯を入れてもよろしい。又は牛乳の中へ重湯を其二分の一。粟の水飴を十分の一ほど入れてもよろし

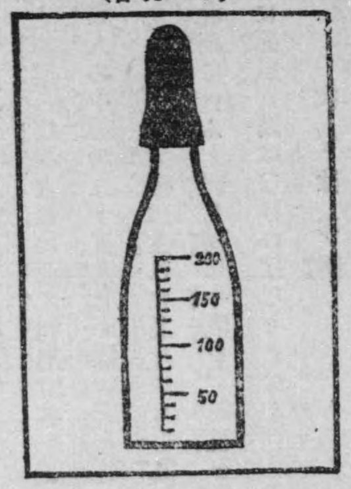
い。かうして、牛乳一回、母乳四回で凡そ一週間續けます、尤も離乳の時期が丁度夏になりましたら、離乳しないで、秋の涼しくなるまで待つがよろしい。

一週間程牛乳を一日一回與へましたら、今度は二回に增します。分量も用ゐ方も前と同じであります。かうして又一週間程其儘に置くのであります。

こんな工合にして凡そ一週間位づつ間を置いて一回づつ牛乳を增し、從つて母乳を與る回數を減じ、凡そ一ト月半で全く母乳を與へなくして終ふのであります。

第五圖

牛乳壜へゴムの乳首をはためところ（よい乳首）



亞米利加の惡風

しかし、全然母乳を止して終ふとは限りません。殊に我が邦の風習では實行出來にくいかも知れません。一日一回か二回位は、子供が滿一年から一年半頃まで飲みさし

ても害はありません。外國では初めて離乳の目的で牛乳を與へましてから、八日乃至十四日で悉く五回とも牛乳にして終ふがよいと申しますが、これも我が邦では行はれ難い事と思ひます。又さうするに及ばないのである。

我が邦で、子供を母乳で育てる風習を重んじて居る事は非常によい事でありますが、我が邦と極端に反對なのは亞米利加でありまして、己が子を自分の乳で育てる母親は、百人の婦人の中僅か二十五人しか無い。それも生れてから凡そ三箇月の間のみだといふ事であります。大概は生れた其月から母乳と牛乳と與へるので、其與へ方は丁度私共が離乳期に行ふと同じ樣に牛乳を、母乳を與へる時間の間に挾むのださうであります、實に惡風と謂はなければなりません。

次ぎはお粥

一日の中牛乳を毎回飲ます樣になつてからでもよし、又一、二回はまだ母乳を飲む頃でもよろしい。一日の中一度だけ極薄い粥を食べさせるがよろしい。此粥には少し食鹽を入れます。分量は一度に五「グラム」(一匁)程の米で拵らへた粥がよろしい。

味が惡るいために喰べません時は、此中へ牛乳を少し入れるか、爪の垢ほどの『サッカリン』を入れますと必ず喜んで喰べるものであります。

又粥の中へ鷄や牛肉の『ソップ』を半分入れて喰べさしてもよろしい。つまり、牛乳と粥(母乳を此外に與へてもよし)とで、又一二週間過すのであります。粥は主に澱粉といふものから出來て居ります。そして植物から取ります。(稻は申すまでも無く植物である)。卽ち牛乳といふ動物性食餌の外に、植物性の食餌を加へたので混合營養となつたのであります。

要するに離乳の第一番目には牛乳を與へ、それからは澱粉、及び蛋白質、其次は脂肪を與へるといふ順序で、穀類の中には大抵澤山に澱粉を含んで居ります。

マルツズッペ

粥を用ゐる代りに、西洋では『セーゴ』といふもので粥の樣なものを拵らへますが、日本には米が澤山ありますから、何も態々西洋通を氣取つて『セーゴ』の粥を拵らへるには及びません。

然し、同じ穀類の中で小麥粉卽ち『メリケン』粉は中々好い物であります。此メリケン粉と粟の水飴と牛乳と一緒にしたものが『マルッズッペ』といふもので、これを丁度此時期の子供に與へますと、子供は非常に喜んで食み、際立つて肥つてまゐります。

マルッズッペの作り方は、次の樣です。例へば一合の『マルッズッペ』を作るには、

牛乳　五十四瓦（三匁足らず）
メリケン粉　六瓦（一匁半）
水飴　十四瓦（三匁半）（マルッエキスを水飴の代りに用ふれば更によし）
水　凡そ百十瓦（凡そ六匁）

これだけの物から出來るのである。作る順序は、先づ、入用なだけの牛乳を薄鍋か土鍋の中へ入れ、其上、メリケン粉を加へて拌きまはし、之れを火にかけ、メリケン粉が少し糊の樣にどろ〳〵してまゐりました時、下します。鍋は底が淺く廣いのがよい。又一方へは熱い湯を入用なだけこしらへ、之で水飴を溶くのであります。この水

飴を溶けたもの卽ち飴湯と、以前火から下ろした牛乳とメリケン粉と合したものと、一緒にしますと、丁度一合のマルッズッペが出來上る譯です。尤も牛乳とメリケン粉とは一度煑る時、容積が減るかも知れませんから、さういふ時は湯ざましを加へて一合にするがよろしい。

此マルッズッペを一度に一合づゝ、一日三回なり四回なり與へますとたしかに子供は元氣づいて體重も增してまゐります。

大麥、燕麥、玉蜀黍、葛湯

メリケン粉卽ち小麥粉の外、子供の體のためになる澱粉類の物は、大麥も玉蜀黍も同じ事であります。燕麥は澱粉の外に脂肪と蛋白質を含んで居り、便通をつける性質の物でありますから、滋養になる外に便秘のある子供には至極よろしい。

然し、澱粉類は子供に喰べさせる時は必ず一度煑て與へねばならぬ。煑ないと消化が惡く、子供は便秘を起します。煑れば性質の變つた物になり、且つ消化やすくなります。

すべて穀類には燐を含んで居る物が多く、又灰分も母乳に比べるとずつと多くあります、子供の身體のためには至極適當であります。

この樣にして、薄粥にしてから又一二週間經ちます。すると、今度は脂肪分を子供に喰べさせる樣にいたします。

脂肪と蛋白質

脂肪としては牛酪、『クリーム』などを粥、牛乳の中へ入れて飲ますもよし、又卵の黃味を飲ましてもよろしい。一番簡單で一番滋養になるのは牛乳の中へ卵の黃味を入れたものを飲ます事です。其製法は、卵の黃味一個を茶筌でよく攪拌し水を一合入れる。水といつても勿論湯ざましである。又一方へは牛乳一合を熱く沸かして之れへ水飴五匁（大匙へ一ぱい）入れて溶かす。此牛乳へ水飴を溶かしたものと、卵黃を水で溶いたものとを一緒にしたものが、卵黃乳と名づけますもので、これを一回一合づゝ二度か三度用ゐるがよろしい。卵黃乳は平井（毓）醫學博士の考案であります。

一體卵黃は鐵とヴイタミン、レチチンなどいふ必要な物を含み、消化もよいものであ

るが永い間、又多く用ゐては宜しくない。一日に卵黃を三個乃至四個飲ませますと、子供の身體に蕁麻疹といつて、紅いひどく痒いぶつ〳〵したものが出來、其上下痢を起す事がある。それ故、學者によつては卵の黃味は三歲前の子供に與へてはいけないと申す人もありますが、私の實驗した所では、大概な子供にはいつも具合よく行きます。下痢を起す子供も無いではありませんが、若しあつた時は卵黃乳を飲ますのを止せばよろしい。極時偶、卵黃が障となる子供があるといふので、卵黃乳をすべての子供に飲まして惡るいと思ふは惡るい。

卵黃乳一合の中には卵半分入つてるわけでありますから、一日に四回より多く卵黃乳を與へない方がよろしい。又申すまでも無く卵黃は水に解いて置くと腐りますから、飲ませようといふ其都度、新しく拵へなければなりません。

これを一二週間續けましたなら、前に述べた種類の中で彼れ是れと混ぜ合せ、形を變へて與へるがよろしい、蛋白質といへば肉類の中には澤山在るのでありますが、肉類は子供が十八個月經たない中は與へてはいけません。それも始めは磨りつぶして喰

させる事といたします。肉類は子供に便秘を起させたり、又は中毒を起したりする事があります。然し同じく蛋白質でも、『ソマトーゼ』とか『ヌトローゼ』といふ樣なものは、早くから牛乳の中へ混ぜて食ましても差支ありません。分量は牛乳一合に對し此物を大匙へ一ぱい位な割合です。私は『サナトーゲン』をも用ゐます。

野菜物と果實汁

牛乳にもお粥にも、卵の黃味にも馴れた子供には野菜物にも馴らさなければならぬ。此時期の子供に一番よい野菜は、ほうれん草であります。半握位のほうれん草をゆでまして、之を粥の中へ入れて食べさすのであるが、粥の中へ入れる前に、鳥に餌を與る時と同じ樣に、摺鉢でよく磨つてから入れる事を忘れてはなりません。ほうれん草の無い時は小松菜でよろしい。

此外、人參、甘藍も同じ樣に粥の中へ入れて食べさしてよろしい。

又、煮たものゝみならず、生の物を與へますと子供は元氣が增し、食慾も進んでまゐります。それ故蜜柑の汁、李の汁林檎の汁などを絞つて時折飲ますがよろしいのであります。

以上、離乳法の大體であります。要之、徐々と母親の乳を離して、外界の食物に馴らさうといふに外ならぬのでありますから、些細い事は時と場合で如何樣にも加減して差支ないものであります。それで結局母乳を全く離して終ふのは、生れてから滿一歲の頃までに行ふのであります。しかし、一日一二回位滿一歲半になるまで飲んだとて急に害になるといふものではない。

第十一　誕生過ぎての食物

三大要素

先づ子供の食物の大體に就て述べますが、大人でも子供でも食物は化學的に云へば蛋白質、脂肪、含水炭素と云ふ三大要素が必要である。此外に近頃は「ヴィタミン」と云ふものを一つ加へて食物は四大要素を要すると說く人もあるが而し主要なものは矢張り三大要素で、それから外に鑛物性の物質が必要である。鑛物性の物質とは鐵とか

食鹽とか『カルシウム』とか云ふ類の物である。此中蛋白質を人體に攝り入れるには大人なれば牛肉とか鳥肉などを食べて其目的を達するが子供ではこんなものを食べられないから牛乳を飲んで其要求を充てるとか、又含水炭素は大人では麵包、飯であるが子供は『おも湯』を飲むとか又脂肪には西洋人は『バター』日本人は鰻などの油濃い魚や油揚、天麩羅などを食べる。子供には『バター』を與へるか外の脂肪を澤山含んでる物を與へると云ふ具合に大人と子供とは大分與へる品物が違ふのである。然らば『如何なる品を如何様に調理配合せば此營養の目的を達するに最も善いか』と云ふ事が順序として本論となるのである。

誕生過ぎての二年間

第二年即ち誕生過ぎてからの一ヶ年は蛋白質は主として乳汁から取るのである。乳汁は牛乳でも山羊乳でも殆んど區別する必要はない。此一ヶ年間は食物の中で乳汁を最も多く與へる事としなければならぬ。それから含水炭素は『おも湯』葛湯、粥などである、『パン』は極細かく刻んで乳汁の中へ入れゝば一年半後には與へてもよし。味噌

汁の薄いのや牛や鷄の煮汁などで粥を煮て與へても滋養分は多いものである。クリームや『ツウイーバック』(二度燒パン)きんとんのやうにした馬鈴薯や百合などもよろしい。野菜でも『ほうれん草』は消化もよく鐵分を含みて、よき食物であるが初めは鳥の餌の様に磨つて與へそれからだんだん細かに切つて與へればよいのである。

第三年になつても食物中の蛋白質の大部分は乳汁である。しかし其外植物からも取る。しかし肉類は未だ早い。

含水炭素は食パンや飯や『ビスケット』でよろしい。鑛物性の物質も食物中には必要であるがそれには軟かい青い野菜だの生か又は煮た果實がよい。これまでは二つから三まで位の子供にはどろ〳〵の粥とか牛乳『ソップ』の様なもので育てるがよいと云はれて居ましたが近年は注意して青い野菜をも與へた方がよいと云ふ事になりました。然らばどんな具合に與へるかと申しますと、先づ『ほうれん草』がよい、それから『にんじん』『さらだ菜』『ちやがいも』甘栗などがよろしく果實では林檎であるが初めは生でない方がよい。最もよろしいのは『バナヾ』である、しかしそのまゝ與へないで、少し

手數はかゝるが野菜を組み合せて與へた方がよろしい。例へば『にんじん』入りの『ぢやがいもきんとん』とか『にんじん』の代りに『ほうれん草』や『さらだ』の煮たのなどを入れてもよろしい。かうすれば消化もよく又營養分も多くなるからであつて、味も子供に大變よくなります、又果實では『バナ、』を最も御勸めする、それは胃に入れば直におも湯の樣に溶けて終うからであるが又一つには野菜の代りにもなり又あれだけで其儘砂糖漬の果實の用を爲しますから營養分が多いためであります、しかし不消化分も勿論ありますから、これを與へた後に出る便は牛乳ばかりの時のとは大變異つて來ます。

野菜の話

野菜を煮ると其煮汁の中へ鑛物性の物質が移つて來ますから煮た汁は決して捨てゝはなりません、どの位出るかと申しますと『ほうれん草』を煮た時は其中の鐵分は五分の一煮汁の方へ出て終ひ『さらだ』の中の鐵分はもつと多く凡そ三分の一は煮汁中に出る。であるから、煮汁卽ち野菜ソツプの中には鑛物性の食べ物が澤山あるから飲ま

せるがよいのである。又こんな譯で野菜を煮る前に湯で果實や野菜を洗ふのは折角の鑛物を何程か無くすることになるから損である。水で洗ふことにしなければならぬ。

肉だの卵は第三年の終頃にならなければ與へないがよろしい。『クリーム』一日二乃至四『オンス』位一日に與へてよし、牛乳に入れたり又『じやがいも』に附けて用ひます。

子供が便秘した時に之を用ゐると多少通じをつける効がある。

穀類殊に糠附の穀類は含水炭素として營養の効のあるは勿論であるが又同時に便通をつける働がある、又軟かい而して酸味の少しある果實卽ち林檎、蜜柑、葡萄も亦同樣に便通をつける効があるから便秘の豫防の目的にこれ等のものを日頃から食べさせて置くがよい。

四歳以下禁物の食べ物

四歳以下の子供に禁物の食物は左の通りです。

肉類

ハム、チョーヅメ、鹽、干物、コーンビーフ、乾牛肉、鴛鳥、あひる、野獸（家禽

にあらざるもの）腎臓、肝臓、鹽豚肉、脂の多い魚、貝類（かきの外）、フライ

植物

胡瓜、筍、ふき、せり、よもぎ、赤だいこん、ゆば、生のトマトー、きやべつ、おらんだみつば、わかめ、葱、玉葱、蓮、牛蒡、こんぶ、のり、乾葡萄、其他の乾菓物を含める菓子、こんにやく、胡栗、まくわうり、茄子、（アメリカでは苺は五歳以下禁物とす）、椎茸、松茸、葡萄、枇杷、柿、銀杏、金柑、梅、巴旦杏、桃、櫻實、龍眼、香の物、（澤庵漬等）

飲物

珈琲、酒、ビール、ソーダ水、サイダー、シトロン、酢

小兒期一般に用ふべからざる食物、

胡椒、生姜、わさび、するめ、たこ、いか、貝類

第四年目の食べ物

第四年になつても乳汁を廢すわけには行きません。西洋の子供は一日少なくとも六

合位飲むと云はれて（例へば亞米利加）居ますが日本はそんなに多く飲ませる必要はないと思ふ。又此乳汁の中へ『バター』や乳糖や石灰分を加へて飲ませるのも惡い事ではありません、これは筋肉、骨、齒の成分となるに必要なものであるから特に加へるのである、又乳汁の中には鐵を含む事が少いが『ほうれん草』の葉や莖の中には鐵が澤山ありますから牛乳と一緒に與へるがよい。然し是等のものを加ふるに注意しなければならぬのは牛乳へ唯入れたゞけでは濃過ぎますから必ず水で牛乳を薄めてから加へなければならぬ事であります、日本の子供には米、麵麭、魚肉が此年齡の主食である。西洋人は此年齡では乳汁の中へは燒パン『コ、ア』『ミルクスープ』などを加へ穀粒へは卵『アッヂング』『アイスクリーム』『カスタード』（乳と卵とで作りたる菓子）『チャンフット』（砂糖漬の菓子）を加へるがよいと申しますが、日本の子供に直に此眞似をするには及びません。

飯は普通の大人の食べる程度でよろしいがなるべく軟かなのを與へたがよい。『パン』はよく炙つて用ゐる。殊に朝食にはよろしい。熱い『パン』は大口に大急ぎで飲み

込み易いからいけない。少しこげた皮の附いてゐる『パン』は至極よい。麹は西洋では燒いて食べます、此年頃の子供に與へてよし。

卵、果物など

甘酒も此年頃の子供には好箇の食べ物であります。

肉、魚卵の類は此年齢には與へて差支無いが、子供によるとどうしても食べ得ない子がある。食べると嘔く子さへある、しかし一般的に言へば滿二歳過ぎてからは少くとも隔日に卵一個と、肉、魚、鳥かを十五匁位喰べさせる必要がある。肉の無い時は乳汁か卵で補をつける。

『フライ』は禁物である、中の魚が充分に煮えない事があるのと衣の脂肪が燒かれて固くなつてるから成分が變つてるためである、燒いた脂肪は子供には一般に害がある。鹽豚を細く薄く切つたのを時々與へるのはよい。肉は細かく拍いたのでよい。又普通の『スチュー』として、これに野菜を加へたのもよい。鳥も小鳥の軟かいのを用ゐる。米と一緒に煮ると美味であると西洋人は云ふが日本の子供には必ずしも左樣でなくも

よし。

『カキ』を『ミルクスチュー』にしたのはよい。

卵は煮過ぎ、燒き過ぎが惡るい。不消化になるからである。半熟が最もよろしい、『オムレッ』にするもよし。

果實は其香氣の良い事、緩下の効ある事、鹽分を含む事等で其外滋養分もあるから少なくとも一日一度は與へたい。それには果實汁、調理した果實として炙つた、林檎、梨子、煮た李などは最も安全である。

苺もよし、果實の皮は必ず取つて與へなければならぬ。菓子は食後に與へるのは敢て惡くはないが、おやつに與へたい。菓子は食欲を害するからである、砂糖は必要なものではあるが食物の代りになると思つてはいけない。然し菓子を毎食後に與へるよりは、おやつに與へたい。但し砂糖類も必要であるから菓實へ附けるか、紅茶などに溶かして與へるがよい。それには白砂糖、『ザラメ』、氷砂糖、角砂糖、單合利別、蜂蜜などである。又果實汁として砂糖を加へたもの例へば『レモナード』氷水又は『ジ

エリー』(糖煮果汁)もよし、

五歳から六歳

第五六年となると子供の消化器は次第に發育して來ますから肉も大人の如く噛んで食べる樣に片を少しこれまでより大きくしてよろしい。『いんげん』などの豆類もよく煮れば『さや』附のまゝ與へてもよろしい。

『コ、ア』『チョコレート』なども此年頃には與へてもよし、然し珈琲なども多く與へると興奮しますから量は控へるがよし、又薄いものを用ふるに限る。

強い藥味や鹽鹹い物は子供の食物には避けた方がよい。要するに子供の食物は成るべく刺戟無く調理するが肝要である、酢は此年齡になつてからも成るべく控へた方がよい。成るべく蜜柑汁で代用して置きたい。酢は子供の胃腸に對しては著しく消化を害する樣である。從つて鮨はなるべく控へたい。

こんな具合で次第に大人の食物に近づけて行くのではあるがまだ〳〵『大人の食物と略ぼ同一』といふ程度には行かない。私の考へでは小兒期卽ち滿十五歳頃までは大

人と異り食べ物に餘程注意しなければならぬと思ふ。

其の中でもどんな食物がいけないかと云ふに第八十八頁で表に揭げたものは至極大體であるが、これで略ぼ見當はつく事と思ふ。

渴く事水の入用な事

それから子供の渴といふ事に就て少し述べますが、大人よりも子供は渴いてよく水を飲むものである。水が無ければ湯でも茶でもよく飲むものであるが、これには食物中の鹽氣を注意しなければならぬ。抑も食鹽は子供の體重一瓩につきて一日〇、〇五瓦で十分である、五、六歳の子供では體量が五、六貫でありますから一瓦卽ち一匁の四分の一もあれば一日の食鹽量に十分であるが、それより多いと渴いて來ます。するとどうしても水分を飲みたがる。飲む場合には必要以上多く飲むものである。多く飲めば既に血の中の食鹽まで一緒になつて排泄するに止らず、身體に必要な分まで同時に排泄するから却つて子供は次第に痩せると云ふ惡結果を來すものである。

私は種々なる方面から考へて子供に實施して見ました所によると左の樣な具合に與

へる事が、現今の日本の子供には最も適して居る様に思ふ。尤も第三年になれば、其年に書いてあるものは勿論第二年の部に書いてあるものを食べても差支は無いし、第四年となれば、第二、第三、第四の部に書いてあるものを喰べて差支ないのは申すまでもない事である。(間食の事は別に述べるから其章をよまれたし)。

献立の見本

第二年

朝
粥二乃至三椀
でんぷ又ハおじや
(鰹節又ハ鶏肉ソップ入レ)

畫
粥、ほうれん草の
牛乳煮
魚肉、おぼろ
食パン

おやつ
牛乳一合、果實汁又ハ二十倍「メリンスフード」液一合、ビスケット、かるやき

夕(一合與へてよし)(此外八時頃牛乳)
粥、茶わんむし(實無し)
おじや
鰊煮付け
百合根

第三年

朝
飯、味噌汁
卵半熟
又ハ
あんかけ豆腐

畫
飯、にんじん入り、ぢやがいもきんとん、豆腐、かき、又は魚肉
茶わんむし(魚、鰊入)

おやつ
牛乳一合
バナナ、
又ハ
葛餅(あんなし)

夕
飯、鰊、鶏肉煮汁
野菜、(ほうれん草)
鰹節かけ又ハ「さしみ」
きやべつ巻

第四年

朝
「パン」四半斤
牛乳一合
そら豆きんとん

畫
飯、ほうれん草
牛乳卵煮
又はかきの牛乳煮
いんげん豆皮剝き

おやつ
甘酒一椀
いちご
又は牛乳一合

夕
飯、魚大根又は
「ガムレツ」「マカロニ」の
「スープ」
ころゝ、卵やき

第五年、第六年、第七年

朝
飯
味噌汁(大根、油あげ)
いり卵

畫
いんげんのきんとん煮
焼魚又は「コロッケ」
飯、「ローールキャベツ」
とうなす、なす、ゑんどう
蕗

おやつ
カステーラ
ウエーフアース
牛乳一合又は「プランマンジ」、(牛乳「コーンスターチ」)

夕
鶏卵又は
牛肉「ローース」
飯又は兎肉
「スチユー」

第十二　子供の間食

必要な間食

世間では、子供の間食を單に間食と言ふ意味にとつて何だか不必要なものゝやうに考へて居る人が、現今でも中々多い。併し之は間違で、間食は決して不必要なもので

はなく非常に必要なものである、何故に間食が必要であるかと言へば、間食は、子供に取つては矢張り日常食物の一部分であつて三度の食事で不足する所を補ふと云ふ意味から必要なものである。

併し其れならば、何も間食と言ふやうな形にしないで三度の食事に於て食物を充分に攝取すればよろしいではないかと言ふ議論が當然出て來なければならぬ、併しながら、子供の攝る食物の分量は胃囊の大いさに關係のあることであつて、必要なだけの食物を一度に攝つて置いて長い時間を保つと言ふことは、子供には出來ないことである、從つて間食と言ふ形をもつて三度の食事の外に必要な食物の分量を補はなければならぬのである。

故に間食と言ふものは單に一時の慰みに食ふとか、或は一種の習慣として食ふとか言ふやうな意味のものではない。それならば間食は唯だ子供に甚だ必要なものであるといふのみでなく大人にも矢張り必要なものではないかといふ議論も出て來るわけであるが大人と子供とは餘程理由に相違がある、學問上に於て、子供と大人とは間食の

必要と言ふ點に差違がある、子供のみならず、一體人間の食物と言ふものは人間に必要なエネルギー（精力）に應じて與へなければならぬものである、大人には大人に必要なるエネルギーがある其のエネルギーだけを食物を以て供給しなければならぬ、之と同じやうに、子供には子供に必要なエネルギーがある、其のエネルギーを食物に依つて供給しなければならぬ。

而して大人のエネルギー、換言すれば大人に必要なるエネルギーは第一に仕事をするエネルギーである、之は大部分は筋肉の運動であるが其の際に消費して了ふ所のエネルギーは無論之を補つてやらなければならぬ、又第二には何等の仕事をしなくても自己の身體を維持して行く爲のエネルギーが必要である。要するに大人は仕事をする爲と現在の體力を維持する爲とに必要なるエネルギーを消費して了ふから其れを補ふ爲に、之れに相當した食物の分量を攝らなければならぬ。

卽ち支出するエネルギーに應じて、收入すべきエネルギーを與へるのである、然るに子供は大人とは少し理由が異る、子供は元來非常に活動するものである、其の活動

をする爲のエネルギーは、恰も大人が仕事をする爲に筋肉を働かして消費するエネルギーと同じく、無論之を補充しなければならぬ、又子供も矢張り大人と同樣に身體を維持して行く爲のエネルギーを必要とする。處が子供に必要なエネルギーは唯だ之れだけではない。子供は身體を進歩發達させて行かなければならぬものであつて、それがためには非常に多くのエネルギーが必要である、從つて大人よりも比較的多くのエネルギーを、外部から供給して行かなければならぬ。大人には、最早發育すると言ふことはないが、子供には發育すると言ふ重大なる要求があるために、大人に比して多量のエネルギーを與へる必要がある。言ひ換へれば多量の食物を與ふる必要がある。

次に子供に就て感へなければならぬ重大なる事柄は、子供の身體の表面の面積である、大人に比較すると子供は身體の表面の面積が大變に廣い。之を數字的に言ひ現すと大人の身體の表面の面積を體重一キログラムに就てAとすれば、子供の身體の表面の面積は體重一キログラムに就てAの二倍乃至は三倍である。

之が爲に身體の溫熱が放散する程度が子供は大人の二倍乃至三倍に及ぶ。而して此

の放散する溫熱は矢張り之を補はなければならぬのであるから、此の點から言つても子供は大人よりも比較的に多くのエネルギーを必要とする。從つて體重一キログラムを標準として言へば、子供は大人よりも二倍乃至三倍の食物を要すると言ふ結論に達するのである、然らば何の位食物の分量を攝らなければならぬかと言ふに、食物を攝るのは總て熱量を以つて計算して居る、蛋白質は何匁、脂肪が何匁と言つても種々の食物が身體の中で燃燒し而して身體の營養となるべき程度に、自ら差異があるから、總ての食物を熱量に直して計算するのである。大人は何の位の熱量が必要かといふに靜かにして居れば體量一キログラムに就て一日間三十乃至三十五熱量で宜しいが、中程度の働きをするものは體重一キログラムに就て一日間四十乃至五十熱量を要する、處が子供は體重一キログラムに就て一日間六十乃至八十熱量を必要とする。生れ立ての子供から滿一歳迄を補乳兒と名づけれが、此の時期は最も多くのカロリーを要し、ざつと一日百カロリーを要することになつて居る。卽ち大人と滿一歳位迄のものを比較すると子供の方が約三倍から多くの熱量を必要とする譯であつて換言すれば大人に

比して約三倍の食物を攝らなければならぬ關係になつて居るのである。

以上述べた所に依つて子供の食物の分量及び回數は大人よりも多きを必要とすることが判つたと思ふ。

どんな間食がよいか

前述の如く子供は多量の食物を要するわけであつて間食は日常食物の一部分であるが故に、如何なる食物でも間食にならないものはない。又間食になり得ないと言ふことも理論上ないのである。然し日本の從來の習慣から言へば先づ間食と言ふものは第一に菓子類、果物類、飲料、此の三種を數へて居る、而し此の三種の中にも營養の方面から見て種々の差別がある。滿一歳までは主として母乳に依つて營養する時期であるから間食と主食と區別がない。滿二歳になると母乳の外に重湯、葛湯牛乳の類を與へる。併しながら之もやはり分量や時間等の關係上全部主食と看做すべきものであつて、所謂間食といふ意味にはならない。故に三歳目になつて始めて本當の間食の必要なる意義が生じて來るのである。

然らば通俗にいふ所の間食の分量は如何なる程度に於て與ふれば宜いかと言ふに、前述した子供の一日に要する總熱量の十分の一位の割合で間食を與ふればよい。決して間食を多量に與へる必要はない。子供の間食に就ては此の點を先づ以つて必掛けなければならぬ。次には間食の各種類に就て述べる。

西洋菓子は主として、牛乳、牛酪、メリケン粉から出來て居てこれにゼラチンの入つて居るものが多い。

日本菓子は、穀物の粉と砂糖とが大體の主成分である其の中でも生菓子は小豆の粉から取つた所謂餡が入つて居り、干菓子には米の粉、麥粉、薩摩芋、南京豆、豆等が入つて居る。斯菓子は糖分及び澱粉を主要成分とするものであるから、菓子の利害は含水炭素の利害に歸することが出來るのである。從つて下痢を起し易い子供には日本菓子を與へることは控へ目にした方が好い。

果物が間食として良いのは、香氣があり味が良い爲めに消化を助けるのみならず、食欲を增進せしめる點に在る、果物には消化の作用を爲すべき醱酵素を含んで居る外

に營養上重要なるヴィタミンといふ一種の物質をも含有して居る特長があり、鹽分も含んで居る、又果物には通じをつける働きがある。

果物を間食として用ふる場合には、必ず皮を取つてやる。そして場合に依つては之を煮てやらなければいけない。又子供に間食を與へる初期時代には果物は果實汁となし、その汁のみを飲ませなければいけない。次に飲料とは番茶や麥湯などの外に、シトロン、サイダー、炭酸水、曹達水、ボルドー、平野水、ココア、紅茶、チョコレート、コーヒー等をも含んで居る、飲料は成分の上から菓子と同樣の働きを爲すと共に、渴に對しての働きがある、子供の身體は運動と發育との爲に、大人よりも多く水分を要する關係がある。大人は體量一キログラムに對して一日間四十グラム（百瓦が約九匁に當る）の水分を取れば足るけれども、子供殊に補乳兒にありては、一日間百五グラムを要する、子供は體量の割合から言つて大人に比して殆ど三倍近くの水を要するそれが爲に子供は割合に多量の飲物を要求するものであるから間食の形に於て飲物を與ふる必要がある。此の場合に於て飲料に適當の食鹽を加へると、餘計な渴を防ぐこ

とが出來るが、併し餘り多く食鹽を入れすぎると餘計に水を欲する結果となつて、飲料を多く飲むために、下痢、又は其の他の惡い結果を來し子供は遂に痩せるやうなことが起る。（第九十三頁をご覽なさい）

日本菓子の中でも鹽煎餅は、子供が早くより要求するものである。併し其の燒方が不充分のためと、原料の關係とから子供に對して不消化を起すことが多いから、五歲以下の子供には決して與へないやうにした方が宜い。又衛生ボールと云ふ菓子も、世間では非常に早くから子供に與へて居るやうであるが、衛生ボールの原料は、最も粗惡なる澱粉から成つて居り、其の燒方も完全でない爲めに之を食べた子供が往々にして胃腸を傷ふことが多い。衛生ボールにも矢張り四、五歲にならなければ、決して與へてはいけない。西洋菓子で云へば、マシマローと云ふのがある。之はゼラチンが非常に多いから矢張三歲以上にならなくては下痢を起すことが非常に多い。又チョコレートクリームと云ふ菓子は刺戟性を帶びて居るから成るべくは四歲以上になつてから與へた方が宜しい。

間食として四歳以下の子供に與へて不可ないものを擧げると、生のトマトー、干葡萄、眞桑瓜、西瓜、干菓物、苺、枇杷、柿、銀杏、金柑、梅、巴旦杏、桃、櫻桃、龍眼肉等である、又飲料の中でいけないのは、コーヒー、酒、麥酒、曹達水、サイダー、シトロン、酢等である。

私供の考へでは、間食と云ふものは先づ午前十時頃に一回、午後三時頃に一回は必ず與へる、而して已むを得ざる場合は夜間夕食後に一回與へることにして居るが夜間の間食は出來得べくんば止めた方が宜しい。

間食の種類に就て注意しなければならぬ時代と云ふものは、三歳から七歳頃までゞあつて、それ以上の子供には、是迄の習慣卽ち七歳迄の習慣を續けて行けば大なる過誤はないのである。

前にも云つた通り、間食の量は一日中の食物分量(熱量)の十分の一位を與へるのが宜いのであるが、而し一々の場合に應じて精確に之を數字的に現す譯には行かない。從つて總熱量の十分の一を何時も與へなければならぬといふのでもなく、又無闇に少

なく與へるとか或は欲しいだけを與へるとか云ふ意味でもない。大體の標準を一日中の食物の十分の一位にするのが適當であるといふに外ならないのである。

左に子供の年齡に應じて與ふべき間食の種類及び時間を掲げて一般の參考に供することゝする。

間食の見本

午前十時

第三年
- ウエフアース▲かるやき
- あめ湯

午後三時

第四年
- ツウイバツク、メリンスフード
- ビスケツト、プデイング
- チーズビスケツト
- 煮た果物▲菓子パン
- 金平糖▲カスタード
- (乳、卵)ジヤンケツト
- (砂糖漬)
- かすていら▲水飴
- ぶつきり飴▲サブレー
- パイ、コ、ア
- ▲バナ、▲クリーム
- ブランマツチ(牛乳コンスタアチ)
- ▲セリー▲ドーナツツ
- ▲シユークリーム

第五年　もなか▲焉餅　ミルクキャラメル　衛生ボール

第六年　栗饅頭▲みかん　鹽せんべい　▲あられ類　かきもち

第七年　▲甘酒▲いちご▲羊羹　ぎゅーひ▲翁飴　らくがん

興へざるか、若し興へるとすれば前年の通りにてよし

紅茶▲▲コ、ア　珈琲▲▲チョコレート　サイダー▲シトロン　餅菓子類

しる粉　アイスクリーム　南京豆

西洋菓子と日本菓子

一概に西洋菓子がよくて日本菓子が悪るいとは云へません。又子供によつて甘味を好む子供もあり鹹味を好く子供もありますから、親は之をよく察して加減しなければなりません。極く始めの頃に興へてよい菓子は水飴でありますが、硬飴や翁飴などは宜しくありません。三四年ではそれから『ウエーファース』、『チーズケーク』、輕燒き、衛生ボール、風船あられなどは害がありません。次では園の露、『カステーラ』、『カルルス煎餅』、月の友、桃山、サブレー、などもよろしく、鹽煎餅は嘗めさせるだけならば

割合に早くから興へてもかまひませんが、喰べさせるには滿四五年以前はいけません、始めの中は私は輕燒に醬油を附けて子供に興へますが子供は喜んで喰べます。果物は汁ばかりならば生後六箇月位から興へてもかまひませんが、それもあまり多く興へますと下痢を起こしますから注意しなければなりません。下痢を起こす位ですから元來便通の惡るい子供にはわざと飲ました方が、便通がよくつきます。(便秘の手當の部を御覽なさい)

キャラメルや駄菓子

近頃は『キャラメル』といふ菓子が流行して如何なる子供も口にしない子供は無い位であるが、上等の品なら差支ないが、商人の奸策として次第に値段を廉くするために原料の粗惡な物を用ゐ、殆ど子供の口に入れるに堪へない品を賣つて居るのを見受けますから充分注意しなければなりません。これは砂糖、牛乳、「チョコレート」、牛酪の四つの材料から出來るものであるが、惡いのになると同じ牛乳でも牛酪でも腐つたのを用ゐてあるために子供に大害を及ぼすのである。こんなのは嗅いで見たゞけでも

惡臭を放つから判ります。果實でも『芭蕉實』は下痢を起こし易いから滿二歳以下には控へた方がよい。『マシマロー』も同樣下痢を起しやすい缺點がある。『ゼラチン』を多く用ゐ過ぎる結果であらうと思ふ。『チョコレートクリーム』は子供には刺戟が强過ぎると見え、之を喰べた子供は昂奮し過ぎて且つ睡眠しなくなるから、滿四歳以下では與へないがよろしい。『ンユクリーム』の中のクリームは卵黄とメリケン粉と牛乳と砂糖とで出來てるから其牛乳が古くなると黴菌の巣になる、注意しなさい。煎餅の中へ南京豆の入つたのは普通の煎餅と同樣に思つてはいけない。これも四歳以上になつて始めて與へるがよろしい。

此外駄菓子類には、おこし、かきもち、ぱん、源氏豆、金米糖、石ごろも、揑羊羹、たんきり、牛皮飴、きんかたう、などがあるが、駄菓子はいづれも消化惡るく且つ陳列べて賣つてる場所が多くは不潔な處であるから、蠅などが之にとまり傳染病の媒介になる危險があるから親たる者はすべてこういふ事を注意して與へなければなりません。

第十三　子供の歯と歯から出る熱

歯が生える

生れて六箇月か九箇月經ちますと、初めて歯が生えます。夫は上か下の前歯（切歯）が二本一度に生えて來るのが普通であります。夫からの順序は第四圖に示した通りで、外の前歯が上下とも九箇月、奥歯（臼歯）が十二箇月目といふ順序であります。（圖中の文字は歯の生える月を示す）

滿二歳になるまでには、前歯が上下四本づゝで八本、糸切歯（犬歯）が上下二本づゝで四本、奥歯（臼歯）が上下四本づゝで八本つまり二十本生えますともうお終ひであります。此歯は乳兒の時に生える歯でありますから乳歯と申します。

乳兒の口の中を見て、凡そ其兒の年齢を知る事が出來ます。それは歯の數へ六を加へるのであります。例へば五本生えて居りましたらば其兒は十一箇月であるといふ類であります。

生え初めの後れる事、早くなる事

後れるといつても、生れて十箇月や十一箇月になるのは構ひませんが誕生過ぎまでも生えないのは病氣であります。佝僂病といつて、骨が軟かになり、齒を作るに入用な石灰が身體に不足して來る病であります。かういふ病があれば齒は後れて生えます。又一般に身體の發育の惡るい子供も後れます。慢性の病氣があつたり、貧血の子供なども同樣である。發育さへ良ければ、其子供は黴毒や結核に罹つて居ても齒は尋常に生えます。

齒の生える順序を示す齒の數字は生後何ヶ月に生えるか其月の數なり

第六圖

時によると齒の生え初めは、或る病氣をして、其治り際に來る事もあり、又熱の出る病の途中に來る事も少くはありません。

乳齒は割合に其形が大きくて脆いものであつて、齲齒になり易い。齒と齒との間は

少し離れて居るのが普通であります。

齒の拔け變るのは六歲から十二歲までの間で、此時の拔け變る順序は初めに生え初めたのと同じて前齒から始まるのであります。

稀には齒の生え初めが非常に早くて、生れた時既に生えてるのがある又一箇月目に生えるのもある。これは齒齦に病氣があるためだと申します。

齒の生える時の容體

齒の生える時は、子供は涎を垂らし、何でも其邊にある物を嚙みたがります。それ故齒齦を抑へたり、摩擦たりすると、子供は樂になるといふので、西洋には摩擦る道具が出來て居る處がありますが、これは無用の長物で、こんな物を用ゐた處で齒が早く生える物では無く、又子供が樂になるのでも無い。又齒の生える頃に子供は非常に泣いたり、眠らなかつたりする。これは齒の生える痛みのためであらうといふので、齒を生え易くするために、齒齦を切る人があります。これもよろしくない。瘢痕が其切つた處へ出來まして、却て齒の生えるのを妨げる結果となるからであります。又少

し歯が出かゝつて、歯齦のところへ見えて來た時は、切つてもよろしいと申す人があります、これ害が無いかも知れないが必要もない事であります。

生歯熱

歯の生えるために、熱が出たり。眠らなかつたり、咳が出たり、下痢を起こしたり、何となく落ち着かなくなつたり、發育が止まつたり、痙攣て腦膜炎かと疑ふ樣になつたりする事、そして歯が生えて終へば、全然元の通りになつて終ふといふ事、畢竟歯のためにこんな病氣が起こるかどうかといふ事に就いては、學者の間にも大分議論が八ケ間敷のである。

佛蘭西の學者は主に斯ういふ事はあると說いて居りますが、獨逸では近頃は、こんな事は無いと說く人の方が多くなりました。一般には獨逸學者の方が信じられて居りますので、歯の生える時には決して熱も出なければ又下痢だの咳だのも出て來るものでない。それは常に歯より外の所に病氣があるので、其病氣が丁度歯の生える頃に出て來たに過ぎぬ。歯の生える頃は非常に病氣の多い年頃ではあるが、歯のために病氣

を起こすのでは無いと、申して居ります。

然し歯の生える頃には一般に興奮し易くなつて、前にも申した如く涎を流し、泣き、氣六ケ敷くなり、癇癪を起こし、餘り眠らなくなり、少し眠つても直きに眼を覺まし、乳房を嚙みしめるなどの事は、よくある事であります。

以前は乳兒の病氣は大抵歯から來るものと思はれて居たのであります然し今日では生歯熱だと思つたのは全く外に病氣があるので、それを見落して居た場合が多い事が明となりました。取り別け多いのは扁桃腺の病であります。

第十四　子供の言語と睡眠

子供は始め何も話し得ない狀態から、自由に言語を發する狀態まで進んで行くが、これは恰も人間が動物から野蠻人に進み、それから半開人、それから今日の文明人に進んで來た順序を、子供の短時日の間に繰り返して見せると同じである。普通健全の子供であれば、大抵滿三年までには一通りの國語は覺え、人との交通に差支無くなる

ものである。然しそれまでなるには一定の順序があるもので急に言語を發するに至るのではない。

言語の始めは生後六、七ケ月の頃で、ア、ウ、オの母音である。これは肺臟から出る空氣のためは聲帶が振動して發するに過ぎないので、全く器械的であつて、感情とは伴はないが、間もなく感情と伴ふ樣になつて、感情の刺戟が强くなつた時に、これ等の音を發する樣になるのである。これから「マ」「バ」「パ」の音を出し得る樣になつて行く。之と以上の母音とを組み合はせて一種不可解な言語を發する樣になつて行く。之を謌語と名づける。之が一ケ年位までの間である。その後になると擬聲語となるので『バアバア』とか『ダッダー』とか、『ワン〳〵』『キャー〳〵』とかいふ樣なので、多くは繰り返して發する言葉である。擬聲語に次では、次第に單語を話し得る樣になる。初め『ワン〳〵』と云つたものが『犬』といふ樣になり、其又犬を、名を呼んで『カメ』とか『クロ』とかいひ得る樣になるものである。こんな具合で滿二年經てば殆ど自由に自國語を話し得るまで進むのである。然し完全に會話の出來るのではない。

實際の言葉

子供は始め覺えるのは名詞で、次では動詞である。人間社會の必要な程度に應じて自然に此順序になるものと思はれる。實際に社會に用ゐられる割合も名詞が最も多く次では動詞である。彼の有名なロビンソンクルーソーの漂流記を調べて見ても、百言葉のある中で名詞は四十五、動詞は二十四の割合であるさうである。次に標本として一歳三ケ月頃の言葉を示して置く。（高島平三郎氏著『教育に應用したる兒童研究』による）

バッバ（父）　カァチャン（母）　ネーチャン（姉）　ミーチャン（源ちやん）　フジャ（不二と呼ぶ女中）　ゴアン（食物）　コッコ（鷄）　オマンヂウ（饅頭）　オンモ（芋）　マーマ（毬）　バンガア（ラムネ）　ピン〳〵（郵便）　カンカン（頭）　ハチ（箸）　チキ（月）　ハタ（旗）　フトン（蒲團）　ト、（魚）　インキ（墨汁）　ジージ（文字）　ワン〳〵（犬）　モーモー（牛）　チューチュー（雀又は鼠）　ゼンゼ（錢）　オンマシン〳〵（馬）　ウンコ（大便）　チッコ（小便）

然しこれは稍進歩して居る方で滿二歳近くになつても、此程度で敢て後れて居ると

は云へない。

吃る子供

子供は六、七歳、又はもう少し前から吃る事がよくあるものです。之は病氣とは云へない。多くは一二年續くと自然に治るものである。吃る子供と一緒に置くと勿論吃るがそれでなくも吃り出す子供が頗る多い。之は此時代に子供の腦の發育が甚しい、一方には共濟機能や、調節機能がうまく行かないから起こるのであるから、無闇に叱つたところで治るものではない、吃る音を發する場合には、周圍の者はゆつくりと落ち着いて發育する樣に注意し、又書物がよめる樣になつてからは、なるべくゆつくりと音讀させる樣にしたがよい。然し、年長となつてからの吃るのはごく幼い時のと異つて病氣の事が多いから、それ〴〵專門家の手を藉りなければ治り難いものである。

發語の後れる子供

普通の子供は前に述べた通り、一年經てば明かに名詞を述べる事は出來るが、或る子供になると一年經つても容易に物の云へないのがある。之は精神の發育がどこか故

障のある印である。其又故障の原因は丁度言葉を發する頃に永く病氣に罹るとか、又は一般に身體が衰弱したとか又は眼や耳に病氣を持つてる事などであるが、俗に云ふ馬鹿で、腦の眞の病氣、黴毒（親から遺傳の）などを持つてる子供も、精神發育の惡いために言語を發する事は著るしく後れるものである。甚しいのになると八歳十歳になつても未だ『ウマ〳〵』位しか云へないのがある。

睡眠は何時間か

子供はよく眠るものである。普通、健康な子供ならば生れ立てから六ヶ月位までは、丸一日眠り通すもので、唯、乳を飲む時と、襁褓を取り換へる時と、衣服を着換へる時とに一寸眼を覺ますだけである。眠つてる時は丁度胎兒が母の子宮の中に居る時の姿勢と同樣で兩手は肘の所で曲で、口は輕く閉ぢ、兩脚は股と膝とで曲げて居る。鼻息は聞こえない位微で、顏に苦痛の狀はなく、庇喩にある眞の天使の有樣であるべき筈である。若しこれと異り手を伸ばして居るとか、口を開いて居るとかなれば病氣のある徵候である。鼻息がスウ〳〵音を立てるのも病氣である。六ヶ月後になると乳と

乳との間にも時に眼を覺まして泣くから一日の睡眠時間は二十時間位になる。四五歳になると十二乃至十五時間位、七八歳となると九乃至十一時間位、それから次第に大人の樣に八九時間に近づいて來るのである。しかしドクトル三田谷啓氏が全國の小兒科醫に其子供の睡眠時間を尋ねたところが、總人員千九人の子供につき、生後六ヶ月までは十五乃至十六時間、十二ヶ月までは十三時間、四五歳で十一時間位、七八歳で十時間位といふ答を得たが、私共の經驗によると事實上子供はもつと眠るもので三田谷氏の獲た數字は私共のとは稍少に過ぎると思はれる。

第七圖

第十五　子供の體重と身長と脈

子供の體重

これから暫時、子供の精神肉體は、生れてから如何に發育して行くものかといふことを、順を追うて述べたいと思ひます。

先づ目方から申ますと、新生兒は男は二千九百二十一瓦、女の兒は二千八百三十瓦、即ち男の兒は七百七十八匁、女の兒では七百五十五匁程あるのが普通である。これは京都大學小兒科で發表した極めて正確な數である。

それから五箇月か六箇月經ちますと、生れた時の二倍の目方となり、滿一箇年經ちますと生れた時の三倍となり、滿五年經つと五倍になります。其後男兒は滿十三年乃至十四年で出生當時の十倍となり、女子は男子より一年早く、即ち十二乃至十三で十倍となるものである。生れた時の十倍は、即ち大人の體重の凡そ半分であります。

身長

これは三島博士の調査によると日本の小兒は、生れたてには男は一尺六寸二分（四十九、一仙米突）、女の兒は一尺六寸（四十八、七仙米突）、といふ事であります。西洋

人はこれより少し大きいのが普通であります。京都大學小兒科の調査では一ヶ年の例には男が七三、九センチメートル、女は七十四センチメートルである。

さて其後の增加は、滿五歲から六歲で生時の二倍となり、十五歲乃至十六歲で三倍となるのである。これまでに身長が急に增す時期がある。それは男の兒は滿十三から十五までの間、女は十一から十三までの間であります。身長の著しく增すのは男は十七歲まで、女兒は十五歲までゝ、其後は增すことは增すが、非常に僅かづつであります。

日本人は西洋人に比べて身長の低いといふのは、下肢の短かいためである。身長と下肢との割合が、西洋人では百と五十から五十五位であるのに日本人は百と四十九、五位にしかならないのでも判る。胴から上の長さといふものは、西洋人も日本人もさほど異うものではありません。

頭圍と胸圍

生れ立ての子供卽ち新生兒は、男では頭圍は三五●〇、女では三四●〇センチメートル

半、二歲の終には男は四十●五で、女は四十五●七センチメートル、五六歲では五十●二センチメートル、女は四十八●五センチメートル、八九歲には男は五一●五、女は五〇●六センチメートルとなる。胸圍といふのは乳の高さで測るものであるが新生兒は男は三二●二、女は三二●〇センチメートルで二歲の終には男は四四●八センチメートル、女は四五●四センチメートル六七歲では五四●〇、女は五三●二センチメートル、五六歲では男は五二●二、女は五一●一、十歲頃では男五七●三、女は五五●六センチメートルである之を比較して見ると生れ立ての時には胸圍よりも頭の方が著るしく大きいが、一ヶ年以上經つともはや胸の方が頭よりも大きくなつて行く事に氣がつくであらう。此數字は京都大學の小兒科敎室から發表されたもので、正確である。

脈のこと

子供の脈搏は大人と同じく橈骨動脈で測ればよい。卽ち手首のところへ指を當てゝ測るのである。一分間の脈の數は生れたてと、それからの年齡とで大變ちがふ。又ごく靜かにして居ないと判然しない。であるから脈や呼吸は眠つてる時の數でないと當

てにならないとなつてます。少し騒いでも忽ち脈や呼吸の數は增すからであります。年齡によつて異るから判りやすい樣に左に表にして記したいと思ふ。尤も脈の測り場所は必しも手首ばかりと限らない。足の脊でも、顳顬部でも、腋窩でも肘部でもよろしいのです。

年齡	一分間ノ脈ノ數
生後直チニ	七二——九四
出產當日	九五—一五六
生後三週間	一四六—一六四
生後二ヶ月カラ滿二年ノ終	九四—一六〇
第三年ノ終	九二—一二〇
第五年—第八年ノ終	八四—一一〇
第八年—第十二年ノ終	七五——八四
大人	六五——七〇

脈が結代するといふのは時々脈がとぎれる事である。これは心臟が弱つた證據であるといふので、ひどく心配する人があるが、子供は少さい間は結代する事は普通でもあるから心配するに及ばぬ。又熱の出る病の後、卽ち肺炎とか腸チフスの後などではよく脈は結代するもので、決して心臟が弱つて死にかゝつたのではないから、脈の結代だけでは案じるに及ばないものである。

子供の呼吸

大人では呼吸は一分間に十六乃至十八位のもので、靜で且つ規則正しいものであるが、子供では矢張り年齡によつて數も異るし、又不規則である。大人の呼吸は深いが子供のは淺い。

年齡	一分間の數
生れた時	四十四
第一ヶ月	三十五
滿一年頃	三十
滿五年頃	二十六

滿十年頃　二十三
滿十五年頃　二十
八人　十六—十八

しかしこれは大凡の數である、此表と二つや三つ違つたところで病氣とはいへない。

呼吸する時は口を塞いで、鼻も動かないものである。これが口を開いて呼吸するとか、又鼻翼呼吸といつて、呼吸の度毎に鼻孔の入口の動くのはたしかに病氣であるから、急いで醫師の診察を受けなければならぬ。

第十六　毎月の發育の具合

初めの一箇月

初生兒でも嗅い物に對する感覺、味の良否、温かいと冷たい、痛いと痛くない、空腹と滿腹との感覺を持つてるといふ事は前に申しました。これは小兒が其感覺感覺で種々な態度をするから判りますので、日を逐うて智慧も身體も發育てまゐります。

生れて一と月の間は眼は見えません。然し暗いと明るいとだけは判る醫學の方からいふと遠視眼であります。遠視眼と申しますと、近い處は見えないが遠い所は善く見えると思違ひして居る人が澤山あります。實は近い處も見え惡いものである。然し二週間位經つと物を凝視します。

耳は少しも聽こえません。然し一箇月の終り項になると少しは聽こえて來て、何か大きな音がすると其方へ頭を向けようと致します。今まで啼いて居た兒が唱歌の聲がすると靜かになる。

味は甘いものばかり好む、其外の味は嫌ひます。味の強い弱いはまだ判りません。啼いても涙は出ません、出るのは二箇月目からです。

空腹の時と不快な時

呼吸は規則正しくはありません。乳兒の間は呼吸の不規則なのは普通であります。空腹時には靜にして居らず、固く眼を閉ぢて強く且つ長く啼き、何でも脣へ觸れるものを吸ひ、吸つて何も出ませんと又啼きますものです。

滿腹の時、裸體の時は愉快に思ふもので、此時は笑顔を作ります。又四肢を伸ばしたり曲げたりします。尤も上肢は初めの間は始終曲げたきりで居るものであります。笑ふと申しても只ほんの微笑で、獨笑であります。他であやすと笑ふといふのは生れて滿一と月では未だいたしません。況して聲を立てゝ笑ふのは半歳以後であります。

不快な時には顔を歪め、額に皺を寄せ、頭を動かしたり、反對の側へ轉じたり、又は呻吟る樣な聲を出すものであります。

これ以上の事は生後二箇月にならないと出來ないのである。

第二箇月

二箇月日には電氣燈だの蠟燭の火、彩色したものなどに眼を留めます。徐徐と動搖して居る物を見ると喜びます。然しまだ中々人識別といふ所へはまゐりません。耳も發達して來て、少し低い音がしても頭を其方へ向けるやうになります。

此年頃には胃が大人の樣に樣になつて居ません。縱になつて居るために、動ともすると嘔吐が起こります。決して病氣の時と限りません。又、風邪を引いたので無くて噴嚏をいたす事がよくあります。これは反射機が亢進して居る徵候で、病氣ではありません。笑ふ事も益〻頻繁になります。足蹠を摩擦つても、動く物を見ても笑ひます欠伸もいたします。

自分の指を吸ひます、然し空腹時と限りません。飢餓や痛み寒いなどは、啼聲で段段人に判る樣になつて來ます。

臥さして置きますと頭を擧げようと試みますが、末だ擧げる事は出來ません。口を結んで下の方へ引くのは不快の徵候です。

第三箇月

急に音がすると初めの間は眼を閉ぢますが、此月になりますと頭を其方へ向けるばかりでなく、自分の手を擧げます。音のする方向をよく識ります。人が手を動かしますと、其方向へ視線を轉じます。鏡を見ては微笑を漏らすものです。

獨りで居るのは不愉快を感ずるために、今まで泣いて居りましても、人が入つて行

さゝますと默りまゝす。自分の手を吸ふ事は以前の通りで、人の手指を握ります。

手をばよく動かす樣になります。愉快な時には微笑する外に手を動かしますが、不愉快な時には手の動かし方が忙しくなり、其上笑ひもいたしません。泣くほどで無くも默つてしまひます。一體此月には早い子は聲を出すもので、不滿足の時には『ウエー』、喜悅の時には『アー』といつて居るものが多い。詢語の前階級である。眼は物を見る時にまだ左右近寄つて來ません。所謂生理的斜視であります。

まだ頭はぐら〳〵して据りません。

第四箇月

此月になると眼球が左右一緒に動きます。物を視る時左右近寄つて來ます。これまでは一緒には動かなかつたのであります。自分の手に持つてる物を視詰めます。

自分で頭を廻轉する事が出來ます。自分で腰から上を起こさうと試みます。勿論まだ獨りで起き上がる事は出來ません。

手を自分の思ふ樣に動かす事が出來ます。折々手を伸ばして物を欲しがる態度を示

す事があります。又無意味に點頭する事があります。『此子は頻りに御辭儀を始めました』といつて不思議がる人がありますが、病氣ではありません。尤も點頭症といふ名のついてる病氣はありますが、これとは異ひます。これも間も無く治るものです。

口の中で何だか譯の判らぬ事を申します。所謂詢語と名づけますまので、別に意味のない言語です、不愉快な時には申しません。

鏡を見せると永く熟視して居るものです。自分で物を掴む樣になります。

第五箇月

斷えず天井を眺めます。新奇な音響がします

第八圖

四ヶ月後の健康兒を臥せしめたる時の姿勢

と深く注意します。

物を握る事を喜びます。其持ち方は確實として來ます。何も飲ますとも十時間乃至

十一時間は眼を覺まさずに眠るものです。其眠る時の姿勢は丁度胎内に居た時と同じ姿勢で、兩手を肘の所に曲げ、兩足も曲げて居るのが普通であります、口は閉ぢて眠ります。

物に驚きますと、兩手兩足を伸ばして、恰も兵隊の不動の姿勢の樣になるのです。頸は据ります。これまでは身體を少し前へ傾けると頭は前へ傾き、後へ身體を倒しますと頭は後へ倒れ、斷えず頭はぐら〳〵致して居りましたが、此月になると頸が確乎として來ますから、身體を動かしても頭が倒れる事はありません。外物が皮膚に觸れた場所を知る事、即ち部位覺は此月から現はれる。

足を投げ出して坐る事が出來ます。それから少し經つと匍匐する事が出來て來ます何か支持するものがあると、それへ握まつて立つ事が出來るやうになります。然し普通の育ちで、此樣な事はもつと後れる子がいくらもあります。

第六箇月

音樂を聽くと喜びます。自分の手を不思議さうに熱心に視る。哺乳の際にはよく餘

所見いたしますものです。食物は乳より外のものを欲しがり、人が何か喰べて居りますと、手を出して欲しがる樣子が見え始めます。覺歩きをいたします子供も此月頃からです。

支持起立は益〻上手になつて、母親の膝の上などで直立するのを非常に喜びます。

匍匐も追々巧になるものです。

喃語は次第に明瞭となつて來て、希望を表はすに聲を出す樣になります。無意識に『ダー』といふ音を出します。寢返りを自分獨りでいたします。距離の辨別が出來はじめる。

第七箇月

此頃も食物の中では甘い物が一番好きである。物を把持する事は非常に確となる。立つ時は喜んで歡聲を發します。足を投げ出して坐る事は益〻上手になる。母の顏や乳母の顏を記憶し、識別する。即ち人見識をいたします。しかし此記憶は永くは續きません。二三週間留守にするともう忘れて終ひます。右の手で物を指すのは此頃から

始まります。人間の右利きは此頃からも覗ふ事が出來るものであります。これまでは左右とも同樣に働きます。驚愕時は眼や口を開きます。

第八箇月

自分の足を注意して眺め、足趾を口の中へ入れようといたします。又欲しい物をば凝視する子供もあります。

齒の生え初める事は前に述べた通りです。人のいふ言葉を眞似て見たがります。しかしほんとうにやるのはもう少し後です。

第九箇月

戸障子を開閉しますと、其度毎に頭を其方へ向けます。珍らしい物をば直ぐ取り上げて注視し、それから舌の上に載せます。切齒するのを喜ぶ子もあります。支持無くて起立つことを試みます。

言葉が餘程明瞭となつて來ます。勿論未だ判然と意味を爲してる言葉ではありません。匐匐して進むことは自由になります。

第十箇月

洋燈だの蠟燭だの電氣だの光るものを握まうといたします。此頃から口の中へ入れた物を咀嚼して嚥下する事を始めます。

欲しい物を與らないと怒ります。怒る時は顏を赤くして全身を伸展します。勿論少しひどく怒る時はこれと共に泣きます。簡單な物の名を記憶して、其名を呼ぶと其物を見たり又は指したりします。他の音聲を眞似る樣になります。

第十一箇月

如何に發育の遲い子供でも、此月になれば獨座が出來ます。所謂「えんこ」するのです獨歩する子供も隨分あります。然し杯で物を飲む事は未だ出來ません。

第十二箇月

食物の味を選みます。模倣は益々頻繁となる。眠つて居ても聲を出して笑ふ事があります。これは夢を見るからであります。で、此年頃にも夢を見るものだといふ說になつて居るのであります。物を飲むに杯でも出來ます。乳母、母親などが六日間不

在でも記憶して居ます。『さよなら』、『今日は』などのやうな簡單な辭禮を理解します。

第十三箇月

紙片を裂くのを非常に愉快な事に思ひます。人の言語の模倣をする際、人の口脣の動き方を注意し始めます。願意を表はす時は顏色と共に聲音をも用ゐる樣になります。隨分複雜な運動をも正しく模倣るやうになります。二十四時間の中、睡る時間は十四時間。

第十四箇月

燈火を見るを喜びます。轉倒を恐れるは此頃からです。これまでは平面も立體も辨別がつきませんが、これから立體の認識が次第に確實になつて來ます。

第十五箇月

新奇な音響、含喇の音、燭光の消滅などで笑ひます。芳香を喜び始めます。別に拒絕の意味無くして頭を振ることを模倣ます。然し點頭のは正しく承諾の意味を示します。

此月に單獨歩行や、自由起立が完全になる子供が一番多いのである。四百匁位のものは片手で提げる事は樂であります。

第十六箇月から二十箇月まで

こんな具合で身神の發育は益〻著しく、此後は、第十六箇月になりますと高い音響を怖れる樣になり、呼吸は睡眠時は一分間二十から二十五で、矢張り不規則である。

第十七箇月には睡眠は夜間だけでは十時間必ず眠り、憤怒の際は轉輾し反側いたします。黑き形の物を怖れ始める。『居ない居ないバアー』の類の遊戯卽ち潛伏遊戯を喜ぶ樣になり、清潔心も著しく發達して來ます。

談話を少しづゝ始める子があります。又奔走を始める子もあります。

第十八箇月には歌を少しづゝ歌ひ始め、喇叭を吹き、支持無くも少し高い閾を越え得る樣になる。

第十九箇月には記憶がますゝ確となつて、父が數日間不在でも其顏を忘れませ

ん。『何處？』と問へば『此處』と正しく答へる事が出來ます。九と十との差異が判る子があります。

第二十箇月では晝眠は二時間で充分となり、時計の音響、鳥聲、讀書笑聲を模倣します。

第二十一箇月から三十箇月迄

第二十一箇月になると奔走して、倒れる事は稀になり、父は二週間位不在でも顏を忘れなくなります。物が欲しがる時に其物を食指で指す樣になります。

第二十二箇月には人形や小動物に餌を遣り、又物の數を數へるらしい所作を致します。

第二十三箇月から言語の模倣は益々多くなつて來ます。

第二十四箇月になりますと、物を言ふ時に吃るものです。

第二十五箇月になつて始めて涙を流して泣くのは悲哀を表はす事となる。勿論此以前にも涙を流しますが、それは必しも痛切な悲哀を表はすのではない。

第二十六箇月には高へ所へ攀登る運動を始ます。羞恥の念が少し出てまゐります。

第二十七箇月には自分の希望を明瞭に言葉でいひ表はす樣になり、第二十八箇月では疑問の語を發する事が出來、第二十九箇月では投球の遊戯を喜び、第三十箇月になると、扶助無くして階段を是る事が出來、又右左を識別する子があります。

大便小便の通時は、此月以前（十六箇月頃）から周圍の人に知らせるものです。

此後の發達は又項を改めて述る事といたします。

第十七　襁褓とシャツ

襁褓又は『おむつ』

襁褓の作り方は、日本と西洋とでは少し相違があります。どちらも一長一短を免れませんが、要するに襁褓は身體に密着てゐるものであるから、晒し木綿か、リンネルで作り、溫かで而かも小便などの水分は早く吸ひ取る事が出來、子供の股と摩擦て糜爛の出來ない事が大切である。併し餘り厚いもので固く捲くと、子供の運動を妨げる

事になるから、捲き方は成る可く寛くして、而かも直ぐ脱け落ちない様にするが捲き方の主意である。我が邦では四角な布片をお尻から直ぐに股へ挾む習慣でありますがこれは運動を妨げる事と、早く脱け落ちるとの缺點がある。此點は西洋の様に三角襁褓にする方がよろしい。三角襁褓といつても、只四角な布片を二つに折れば三角襁褓になるのですから、少しも手數のかゝるものではありません。

襁褓の捲き方

三角襁褓を捲きましたらば其外へは凡そ二尺五六寸四方の木綿の布片をグルッと捲く。小便などがあまり浸み透らないために、お尻の所へ當てるだけの大ささの油紙だの、カッパだの護謨紙だのは、成るべくは用ゐないが子供の身體のためにはよい。其外はフランネルでずつとお尻から前へ掛けて衣服を着る様に捲き、足よりもずつと長くして置くのが肝要であります。

三角襁褓を捲いて終つた時は、安全針で留めて置くがよろしい。其外の物を捲いた時は只捲いただけで別にピンなどを用ゐないがよろしい。子供には必ず安全針でなけ

ればならぬ。普通の留針を用ゐた爲に、身體に刺さつて不慮の災の起こる事が少くない。

子供のシャツ

子供の衣服は、少くとも下着だけはシャツを用ゐるが一等であります。我が邦の襦袢は胸が開き勝ちであるために、勢ひ固く胸を合はせ過ぎ、却て窮屈な思ひをさせ、身體のために惡いのであります。

襁褓の入用なのは腰の周圍だけでありますが、子供は腹が胸よりも小さいために、折角捲いても直ぐに脱けて終ふ。それ故母親は上へ上へと捲き、胸の周圍へ固く絞め附ける癖がある人を多く見ますが、困つたものである。シャツの裁ち方は略します。

帶溝は嘘

襁褓を強く絞めたり、衣服の紐を強く捲いたりすると遂には帶溝というて、乳の下に横にくびれが出來ると申す人がある。有名なベルッ氏などもかういひました一人ですが、これは思ひ過ごして必しも其のために出來るものではない。子供は少し息苦

しい病にかゝると直にこれが出來るものであります。然し帶溝は出來ないにしても、後紐、前紐などを強く締めるのは害あつて益なしであるから、成るべく寛く締める事を心懸けねばならぬ。

着せ過ぎる害

襦袢よりもシャツが善い事は前に申しましたが、我が邦の子供は非常に着せられ過ぎて居ます。世界でも類の無い子煩惱國でありますから、親達は風邪を引かせまいといふ考へで無闇と着せますが、只何の理由も無く着せるゆゑに、却てこれがために子供の身體を害ひ、病に罹らず結果となるのである。親達はよく子供の身になつて考へてやり、其日其日の時候で加減して、適當に着せてやらねばならぬ。

冬試みに子供を見ると一層此感じが深くなります。即ち一番下にはメリヤスの襦袢それからフランネルの襦袢、胴着、着物を而も何枚と重ね、其上へはチャン〳〵を着せ、首捲から頭巾、涎掛、足袋、手袋、股引、襁褓何枚、其上を又毛布、袢纏で包むといふ有樣である。是一つには家屋の構造が冷える樣に出來てるからでもあるが、又

た一つには案じ過ごしの結果である。殊に可笑いのは夏である。親達初め大人は汗ダラダラ流して、裸體にならんばかりで居るのに、小さい乳兒には、フランネルなどの着物を着せ、而かも例により襁褓を幾重にも捲きつけて、恰も蒸してる樣にして置く人が非常に多い事である。

子供は寒暑には鋭敏なもので、よく感じるのである。それ故夏は大人よりも薄着にして置かねはならぬ。新陳代謝の盛な事は、子供は大人よりも遙に盛であるから、汗なども大人よりはひどい、從つて大人よりも屢衣服を着換へさせてやらぬばならぬ。

第十八　入浴と小便と外出

入浴の時

子供は大人よりも新陳代謝が盛である。從つて垢が大人よりも溜まり易い。のみならず子供の皮膚を丈夫にして置かないと病氣に罹りやすい。それ故入浴は是非ともさ

せねばならぬ。其溫度は西洋人は攝氏三十五度がよいといふが、日本の樣な家屋の構造では冷える虞があるから、もう少し高くてよい。凡そ三十九度から四十度近所まで上せても害はない。しかし身體のためには、成るべく低い溫度に馴らすがよいのであるから、これまで我が邦の人々が思つてたよりもずつとぬるい湯に入れる習慣にしたいものである。湯の溫度を測定るには、第九圖の樣な木の框の中へ檢溫器の入つてるものが販賣せられてをる。それは浴溫度計といふものであります。

第九圖　浴溫度計　入浴させる時湯加減をこれではかる

一日に一度づゝ、五分乃至十分間入れるがよろしい。十分間入れる時は五分目頃に一度熱い湯をさして、四十度位に保たすがよろしい。湯から出した後は、直ぐに大きな西洋手拭で身體を捲いて、よく濕氣を取り、衣類を着せる事を忘れてはならぬ。入浴が濟んだらば、乾いた手拭やタヲルで子供の全身を拭いてやるのは勿論であるが、

同時に耳へ水の入つたのも脱脂綿で取り腋の下や股の糜爛ない樣に亞鉛華澱粉を澤山撒りかけて置くがよい、この目的に「子供用入浴函」とでも名づくべき函を拵らへて其中へタヲルや手拭や脱脂綿や亞鉛華澱粉など、子供入浴に入用な品を一切其中へ入れて置くと大變便利である。

第十圖
子供用の浴槽の中へ子供を入れたところ

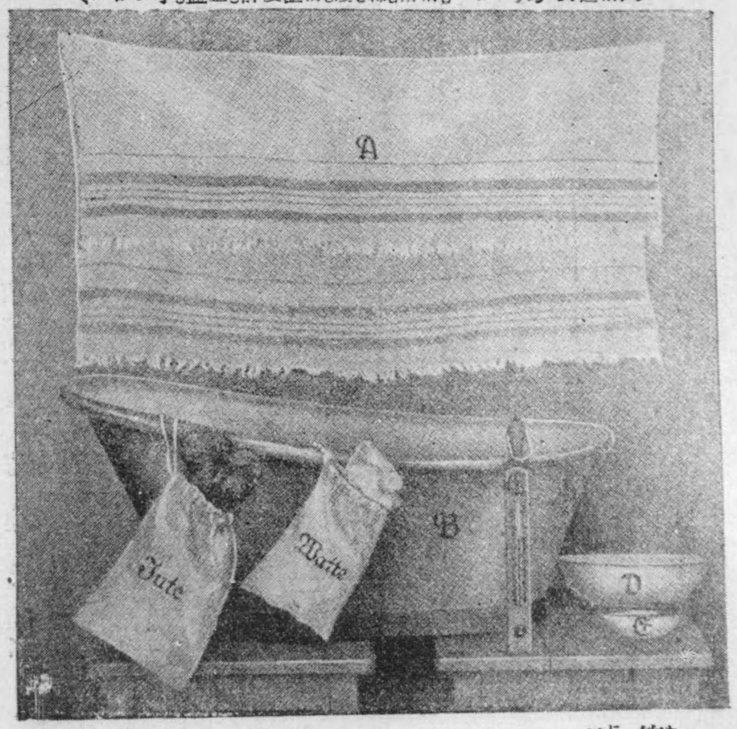
襁褓の洗濯

赤兒は襁褓を濕らすに定まつたものゝ樣に心得て居る人が澤山あります。これがために寒い冬の日に赤兒は『おしめ』を取り變へても〳〵汚ごしてしまひ、洗濯した『おしめ』は容易に乾かず、洗濯するものはこれがために隨分辛い思をするものであります。

これは決して赤兒の罪では無い。矢張り母親の癖のつけ方が惡いのであります。

第十一圖

入浴道具（大タオル。浴槽。綿。紗。浴温度計。金盥。小タオル）



生れてから二箇月三箇月位までの間は、一日に小便を十遍から十二三遍位までするものです。そして其出す時は大抵一と寢入して眼を覺ますと直ぐするものです。赤兒が眼を覺ましたら直ぐそつと起こして、外の風に當てないやうに、室内へ『おまる』か何か置いて、其中へ小便をさせ

る癖をつけるやうにするがよい。初の間は中々させる時ばかりは出ませんで、無駄骨を折る事もありますが、一週間辛抱して繰り返して居りますと、必ずさせる時にばかり出る樣になり、たまたま『おしめ』を濡らしても、一日に一度か二度位になります。子供の體のためにも濡れた『おしめ』をして居るのは、丁度小便蒸しにされる樣なもので甚だよろしくない。それが『おしめ』を濕らさずに濟む事となつたら、身體の爲にも如何に宜しいでせう。洗濯する者の身になつても如何に手數が省けませう。これは只理窟ばかりではない、實際試めして見て、うまく行つてる人がいくらもあります。世の根氣のよいお母樣達は子供のために洗濯する者のために、お試しあつては如何、但し、赤兒が眼を覺ましたら直ぐに起こしてさせないとだめです。眼を覺ましてから泣く事があります。泣くのは小便をしてから泣くのですから、此時は既に遲い。而して此癖は生れて一と月經てからつけ始めるが宜しい。（「小便と大便」の部とも御らんなさい。）

何時から外へ出すか

生れて二三日經つてからは、赤兒は寢かしてばかり置かず、時々抱き起こすがよろしい。抱くには成るべく初めの間は頭と足と平になる樣にするがよいだん〳〵子供が大きくなるに從つて、頭を上に足を下に畢竟身體を縱に抱くがよろしい。どんなに小さい兒でも頭を下にするのは大變惡るい。(第十二圖)

生れてから外へ出しても宜しいといふ時は、冬ならば生後十五日目、夏ならば凡そ七日目位である。其後は午前午後と一日に二度づつ外へ出すがよい。出すには身體全體殊に足の方はよく包まねばならぬ。勿論天氣の惡るい時は外出を差し控へる事。

外出の主意は成るべくよい空氣や日光に觸さす事、卽ち皮膚の鍛錬のためであるから、土地により氣候により、適當に加減しなければならぬ。

一體初めの一年卽ち誕生までは水で鍛錬する時期、其後は主として水と空氣とで鍛錬する時期と見るべきであるから、初めの一年は外へ出す事よりも湯に入れる事が肝要で、其後は寧ろ兩方である。

鍛錬といつても寒い時、風の强い日、暑過ぎる日などは外へ出すと却て害があるから、必ず止す事を忘れてはならぬ。

第十九　抱き方と脊負ひ方と搖籃

頭を上に

第十二圖
頭を垂直にすべきを示す

子供を抱き起こすのはよろしい。しかし其抱き方に種々ある。始めの間は頭と足と水平に抱きますが次第に頭の方を上にし、三四箇月の後は頭を垂直に第十二圖の樣に抱くのがよろしいのであります。而して時に左右と交換するがよろしい。若し一方にのみ抱く事あらば身體は遂には歪む癖がつきます。殊に脊推が曲ります。曲るのは始めの間は何の事もありませんが、愈〻曲り切りになりますと、脊椎彎曲と申まし

て容易に矯正の出來ないもので、其結果種々な病氣を起こしますから注意しなければなりません。

負負ふ事も惡い

又子供を脊中へ脊負ふ事も成るべくは廢したいと思ふ。之がために身體の自由を束縛して運動を妨げたり又子供の足を擴げる結果脚が曲つて妙な形(俗にわに、、足といふ)となるものである。取り別け「子守り」などの負うてるのを見ると紐で子供を吊り下げてる樣な形となつてるのもあれば、子供の胴を紐で固へ瓢箪の樣に縛つてるのもある。子供が眠つて頭を後の方へ仰向に「ガクリ」と下げて、も知らずに放置して居るのもある、禁物である。

搖籃は惡るい

抱いて子供を少しづゝ水平に搖るのは宜しい。子供の身體に適當な運動法となるが上下に甚く動かすのは宜しくない。子供の泣き止まない時、思ふ樣に眠らない時などはよく此激しい上下動を行ふ人を見受けるが宜しくない事である。子供はすべて纖弱

であるから、內臟も腦も其激動のために震盪されるからである。從つて西洋にある搖籃も害がある。之は子供を籃の中へ入れて吊るして、其籃へ附けてある紐を動かして子供を寢かす道具であるが此動かすのはさほど激しいものではないけれども、害があるのである。畢竟人爲的に子供を睡眠させるので、先づ搖籃を動かすために腦の血液の循環を變更し、海上の舟遊びの如く、初めは幾分の眩暈を起こし、尙ほ之を續くる時は昏瞀を來たし、遂には睡眠となるのである。然し此睡眠は自然の睡眠では無くして麻醉したのに等しいから、搖籃の使用の害は恰も麻醉劑を用ふるの害に等しいのである。されば靜かにして動かざる床に眠る子供は衞生上甚だ幸福なるもので、初めから搖籃の弊に陷らない我が國の母親達の如きは又幸福といふべきである。然し似而非ハイカラの多い今日、搖籃までも西洋がよいと思つて之を用ゐたがる人のあるのを見て特に一言して置く次第であります。

第二十　大小便の話

子供の大便

大人の便と子供のとは大分違つて居ます。何も物を言はない子供の身體の具合は、大小便に注意しないと、飛だ病氣になつてる事を知らずに過ごす事がありますから、其取扱ひの外に、前以て一と通り子供の大小便はどんなものであるかを心得て置かなければならぬ。先づ大便からいへば、注意すべき點は、大便の回數は一日何度出るか。出る前後に子供はどこか痛さうに泣くか。便通の前に泣くか、最中に泣くか、又便通後に泣くか、出た便の硬さはどんな硬さか、色は、臭は、分量は如何と注意しなければならぬ。其他便に何か交つてないか。血はないか、膿はないか、粘液といつて鼻汁の様にねば〳〵したものは無いかなどまで注意が屆けば結構である。

生れて初めての大便

生れた其日か又は其翌日に、黑い、少し綠色がかつた、稠つた大便を出す。之は

「かにばゞ」とも胎便とも名づけます。之は大便と云つても食物の滓から出來た大便ではなくて、腸の中の不用物、胎兒の間に飲んだ羊水などが交つて出來てるのです。それから一日か二日經つと乳汁を飲む様になります。そうすると丸で便の有様が變つて來ます。

親の乳を飲んだ子供の便

親の乳を飲む子も、乳母の乳を飲む子も人の乳でさへあれば、所謂人乳便といふ便を出す。これは卵の黃味の様な色で、軟かい膏藥位の硬さで、少し酸い様な臭がありますが、敢て惡臭といふ程ではない。どこも一様で、大便の場所によつて變りのある點はない。一日に一回又は二回が普通です。(二十四時間の間にです。)大便の出る前に大抵の子供は滿一ヶ年以上にあればウン〳〵とか、アン〳〵とか云つて、豫報いたしますが、又只泣いて豫報する子供もあります。どうかすると出た後に知らせる子供もあります。躾方によりて子供は必ず便通を知らせるものですから、周圍の者はよく躾けねばなりません。

牛乳を飲んだ子の便

牛乳ばかり飲んでも、牛乳と「おもゆ」又は「くづゆ」と合して飲んでも、其便は人乳を飲んだ子供の便より硬く、色は黄色が淡くある。試驗紙で反應を調べると、人乳便は酸性であるが。牛乳便はアルカリ性である。二十四時間に出る回數は一回か二回で、大抵は人乳の時よりも回數の少いものである。丸二日に一回位の事も珍らしくない。

不消化便

然し少し飲み過ぎるか、又何かの原因で腸を壞すと、忽ち便に變りが起こる。之が不消化便と名づけられてある。それはどんな便かといふと、これまで黄色であつたものが少し青味を帶び、或はほんとの緑色となり、又は顆粒と云つてぶつ〳〵した粟粒か米粒位の白い又は黄色いものが出來、粘液が交ざつて來るから、便を摘むと糸を引く樣になり、これまで普通の時は軟膏の樣であつたものが、散らばつて來る。そしてもつと大切な事は水分が多くある事です。襁褓の濡れ具合が、普通の時は便以外の

塲所はさほど濡れて居なかつたものであるが、不消化便といふ時にはずつと濡れ具合が擴がつて來る。尤も小便と同時の時には、そのために擴がるが、小便のために濡れたのなれば、濡れ塲所が異ふからよく判ります。消化不良の手當については「病氣の手當」の章で委しく述べますが、便にかくの如く變りの來る時だけを茲では申すに止めて置きます。

心配し過ぎる點

病氣が若し消化不良よりもつと進めば、粘液も顆粒も多くなるが、それよりも大切な事は水分がずつと増して來る事です。ひどくお腹の張る病氣ですと、腸に瓦斯の出來る病であるから、便の出る時に音がする。出た便は泡沫が多い。

一體これまで親達の間に誤つた考が多いが、子供の便についても可なりこれがある。其最も多いのは青便を氣にする事です。子供の便が青い色か緑色便をすると、ソラ大變、消化不良になつた、腸が惡るくなつた、死ぬかも知れないと云つて騒ぎ出す。又顆粒便になつても驚く。ぶツぶッがあると云つて騒ぐ。少し粘液があると云へ

ば大變とやり出す。いかにも青便顆粒粘液といふ樣な事は尋常ではない。實際は消化不良の徵候と申してよろしい。然し之れだけでは子供の身體にさほど害はないものである。少しの醫治、又は或る場合には僅かの乳の與へ具合の加減で、樂に治るものである。決して案じる事はない。それよりも氣を付けねばならぬ事は、便に水分が多くないかどうかである。人乳を飲んでる子でも又牛乳の子でも、便に水分が多くあればそれは腸の病氣が重くなつてるか、又は重くならうとして居る證據であろ。決して安心はならぬ。かく看過してならぬ容體を、却て注意せず、青いとか顆粒とかいふ枝葉の事にのみ氣をつけるのは、本末を誤つた見方である。

人乳の子の顆粒青便

それからもう一つ。乳母の乳や、母親の乳を飲んでる子供で、青便や顆粒便を出すのは、矢張り消化不良には相違ないが、それのみで外の容體が無い時には、心配する必要はない。これも世の親達はあまりに騷ぎ過ぎると思ふ。醫師でさへあまりに案じ過ぐる傾がある樣に思はれる。牛乳や其他の人工榮養品と異り、人乳や乳母の乳は

概ね直接に乳房を吸はすもので、目方を量つたり、分量を測つたりはしないものであるから、勢ひ飲み過ぎ勝ちである。又飲み足りないで中途で廢される事もある。此飲む分量の不規則のために子供は消化不良を起こし易い。しかしそれが牛乳でなく、人乳の場合には多くは、故障なく子供は育つて行くものである。便に水分の多くない限り、あまり心配するに及ばないものである。然し果して心配するに及ばぬ場合であるか無いかは、便以前の狀態をも併せて考へべきものであるから、一應醫師の診察を受くべき事をお勸めします。

牛乳の子の消化不良は恐ろしい

之と異り、牛乳や山羊乳、或はおもゆ、くずゆ、乳の粉、コンデンスミルク(煉乳)などで育てられてる子供の青便顆粒便は、たとひ水分は多くなくとも、油斷してはいけない。況や水分の多いに於てをやである。殊に顆粒や青色や乃至は粘液は無くとも水分ばかりの便、即ち所謂水樣便である場合には、頗る危險であると思はなければならぬ。であるから同じ消化不良便であつても其子が牛乳を飲んでるか、人乳を飲んで

るか、又は其外の物で育てられて居るかをよく明にした上でなければ、樂觀すべき大便であるか、悲觀すべきであるか、容易に決定は下し難いものである。

年長兒の大便

子供は滿一年以後になると次第に乳以外の物を食べる。卽ち粥、ビスケット、食ばん、じやがいも、魚、などである。食物がだん〳〵大人のに近づいて來るに從つて、大便も大人のに似て來て、所謂柱狀の便を出す。一般的には有形便と名づけて居る。色は黃色で水分は殆ど便以外には浸みない位である。これが一日に一回又は二回出るのが普通である。然るに一旦腸に故障が出來ると、此便の硬さが變つて來て、粘液、水分などが出て來る。病氣によると血液が交ざる。

子供の尿

生れ立ての子供の出す小便は非常に濃くて、黃色も强い。これは小便の中の水氣の少いのと、小便に含まれてる尿酸の量の多いためである。尿の分量は極めて少く、生れ立ての第一日は二十立方センチメートル位しか一日中に出さない。第二日に三十か

ら四十、第三日に五十から六十。七日目には凡そ二百立方センチメートル、卽ち凡そ一合である。其後の小便は、乳を飲んでる間卽ち凡そ一ケ年間は、大人のに比べると、極く淡くて殆ど水に近い。色は黃色いといふよりはむしろ水の樣といふが適當である。臭氣も殆どない。あれば病氣であると思つてよい。回數は多い。十回から二十回位する。普通は乳を飲む回數の三倍位といはれて居る。一晝夜に六回飲めば十八回である。しかし乳の外に茶や湯など、乳以外の飲み物を與ふれば回數はもつとずつと增して、二十回以上になる。二十回位する子のあるのはこのためである。回數の少いのも身體の何處かの病氣であると思はなければならぬ。乳を飲んでる子供で一日に二回や三回ならば恐るべき容體である。尤も年長兒では別である。又年長兒で一日に二十回三十回と出るのは、これも病氣であるが、それは後の育兒問答の部に說明してあります。

大小便取扱ひ方

大便は始めは「おしめ」で取るが、成るべく早く「おまる」でさせる癖をつけべき

ものでは、又實際よく癖のつくものであることは前に述べた。大便の出た後は肛門を紙でよく拭い、其後は微溫の湯か又は微湯の硼酸水を脱脂綿かガーゼへ漫して固く絞つてよく拭ひてやらねばならぬ。一寸大便をおしめで拭いた位では、便の酸性のために或はアルカリ性のために、肛門の周圍の皮膚がひどく刺戟されて、周圍一面に赤く糜爛れて來るものである。これが原因で又種々の病氣が起こるものである。拭くにも女兒では必ず前から後へかけて拭くがよい。即ち陰部から肛門の方へ向けて拭くのである。これも病氣を豫防するためである。

小便の手當としては特に述べる所はないが、なるべく早く「おしめ」を取り換へてやる事が肝要である。「おまる」でやる場合には、尿の出たあとを陰部を紙又は綿で一寸拭いといてやる必要がある。

第二十一　乳母の撰び方

乳母又は媼母

滿九箇月までの子供の食べ物は母乳に限るといふ事は、繰り返し〳〵申しました。然し世の中には種々な原因で、母親の乳を其子に飲ませる事の出來ない事があります。それは母親の乳の分泌ない事や、種々な病氣の時ですが、この事に就いては『病氣の母の乳』(第四四頁)といふ所で詳しく申しましたから茲には略します。母親の乳が如何しても分泌なくても子供は如何しても育てねばならぬ。何で育てればよいかといふと、母乳に次では乳母の乳である。乳母も如何しても見附からなければ牛乳か山羊乳であるが、それも獲られない時は、已むを得ず煉乳で育てなければならぬ。もう煉乳で育てられる樣になつては、其子は死ぬかも知れないといふ覺悟が前以て必要である。であるから母乳が得られない時は、如何にもして乳母を探さなければならぬ。

どんな乳母がよいか

乳母を選むに、昔は醫者も素人も隨分八ケ間しい事を申したものであります。乳母の年齡と、乳母の乳を與へようといふ子供の母の年齡と、凡そ同じでなければならぬ

とか、生れた子供の年齢は凡そ二人とも同じでなければならぬとか、二人の子供の姓即ち男か女かも異つて居てはいけないとか、又乳母となる婦人は初めて子供を生んだ者ではいけないとか其外種々六ケしい事がありましたが、今日ではあまり六ケ敷い事は入用でない。畢竟乳母は無病で、乳の分泌は十分であるといふ事が一番肝要で、其外の事はいづれにしても大關係はないといふことに決定して居ります。乳さへ十分に分泌れば初めて産をした婦人即ち初産婦でもよろしい。生れたての子供即ち初生兒又は新生兒を育てるには、お産後二三箇月經つた婦人を乳母とする方がよい。然し、これも是非ともではないのである。乳母の生んだ子は勿論丈夫でなければよい乳母ではない。

何病に氣を附けるか

乳母に病氣があつていけない事は申すまでもない、其中でも傳染病は殊に注意してかゝる乳母を雇つてはならぬ。結核、黴毒、脚氣、淋疾、傳染性の皮膚病、癩病の有無は是非とも醫師に診斷して貰はなければならぬ。産後の腎臟炎はよくある病ですが、

この病にかゝつてる婦人の乳を飲んだ爲に、子供が病にかゝる事はないから、單に子供の都合ばかりでいへば、此婦人の乳を飲ませてもかまひません。

結核の婦人の乳を飲めば子供は何時傳染か判らぬ。黴毒は尙更ら危險である。殊に婦人の黴毒は潛伏て居る場合が多い。これを見出すには醫師に依賴して其婦人の血液を取つてワッセルマン氏反應といふものを檢査てもらふより外に途無しである。然し此婦人が以前に何度も流産したり、月足らずでお産をした事があるといへば、それだけでも餘程黴毒の疑はありますから、必ず醫師に嚴重な檢査を依賴しなければなりません。でなければ、後になつて、取り返しのつかない事に立ち至るかも知れません。

脚氣の乳母

脚氣にかゝつてる婦人の乳を飲んだ兒は、時とすると一種の病氣になることがある。吐乳、青便、嘎聲や一日に何度となく胸内苦悶を起こす、外の婦人の乳か又は牛乳なれば此様な事は無くなる。といふ病で山崎元脩といふ醫師が初めて此事を

いひ出し三宅宗淳といふ醫師が初めて、『乳兒脚氣』といふ名前を附け、その後三浦守治、三浦謹之助などの人達が之れを研究して之を信じ、小原賴之、福井信敏の人達も之れに賛成し、其後弘田長氏は多數の根據ある研究をして、今や我國では『乳兒脚氣』といふ病を疑ふ者が無くなりました。此病にかゝれば急いで其婦人の乳を廢さなければ、子供は死んで終ふ事はいくらもあるのですから、隨分危險な病氣である。

危險な病氣であるだけ、それだけ多くの人から恐ろしがられて居る。其結果、脚氣でないものを脚氣だと思ひ誤り、又は脚氣になるかも知れないといふので其婦人の乳を廢すといふ樣な、一種の恐脚氣病とでも名付くべき病氣にかゝつてる人達が多いのは、よろしからぬ事である。

恐ろしがり過ぎる

これは畢竟脚氣を恐ろしがり過ぎる結果であるが、又人乳を廢すといふ事は脚氣病と同じ位、恐るべき事、注意すべき事であるといふ事を一方では考へて欲しい。

何も脚氣に罹つてる婦人の乳を飲だといつて、必ずしも十人が十人脚氣になるもの

でない。又醫師が診察して少しも脚氣らしくないといふ婦人の乳を飲んでも、乳兒脚氣を起こす事がある。夫故、子供には乳を與へて置いて若し子供に脚氣の徵候が現はれて來たらば、初めて其乳を廢せばよいのである。これは前に『病氣の母の乳』(第五四頁)の所でものべて置きました。脚氣は恐ろしがり過る結果、折角十分ある母乳を飲む事も出來ず、却てそれがために大病になる、而して母親の方にも子供にも少しも脚氣らしい徵候は無かつたといふ例は世に多いのである。慨くべき事であります。

然し乳母は母と異りこれから雇ふ者ですから大事を取つて、脚氣で無い婦人を探すのは決して惡くはない。一旦雇つた乳母が脚氣になつたからとて直ぐ乳母を變へるのは矢張り脚氣を恐ろしがり過ぎた結果で、賞めた事ではない。要するに子供が脚氣になるか又は何とかならなければ、何も急いで乳母を變へる必要はない。

乳母の惡い癖

乳母に雇はれる方では種々不正直な事をして、誤魔化して雇はれ樣とする者がありますから、雇ふ方でも氣を附けなければならぬ。病氣ある事を自身で承知しながら、

病氣は無いといふもあり、自分の生んだ子は非常に弱かつたり、又は死んだにも拘はらず、人の生んだ丈夫な子供を借りて來て、これが自分の生んだ子だといつて見たり自分のお產した時をかくして雇はれる家の子供と同月のお產だと云つて見たり、其外種々な惡い癖のあるものである。雇つた上、で乳を與へる時間や、子供の兩便をさせるにも、嚴重に規則正しく行らす癖をつけないと、自然不規則に流れて、其子供は良からぬ乳母のために虛弱な子供となる例は少くないのであります。

乳母の調べ方

乳母を雇ふには、よく乳の分泌る婦人を擇ばねばならぬ。よく分泌るとは、一寸壓して見て二本も三本も線の樣になつて乳が走り出したところで、此乳房はよく分泌るか如何かは判らない。其婦人の產んだ子供がよく育つて居れば確である。もつと確なのは、育てようと思ふ子供に其婦人の乳房を吸はして見て、其乳房を吸ふ前後に一度づつ其子供の體重を秤つて見て、二度の體重の差が飲んだ乳の分量であるから、その分量を見ると、其婦人の乳はよく分泌るか如何かゞ直ぐ判る。これを二三日續けて見

れば尙ほ正確に知れます。しかし乳がよく分泌るかどうかの見分けになるもつと簡單な方法は、其婦人の乳房の上に手を當てゝ見て、乳房の上の方が、其外の部分よりも溫であり、又乳房の上には靑脈が太く幾本も張つてるのは確かに十分に分泌る乳房といふ見込がつきます。

又乳頭は引つ込み過ぎて居ないがよろしい。手で摘める位がよろしい。引込み過ぎてるために子供は吸へない事があり、其結果大に瘦せる事があるからであります。

要するに乳母となる必要な資格は、生んだ子が丈夫で無病健全で乳汁分泌が十分なるのみである。初生兒を育てるには產後二三箇月を經た婦人が却てよい事、乳頭は引込み過ぎない形がよい事も、亦た心得べきである。

乳母の必要な場合

乳母の必要な時期は、つまり母乳を是非與へなければならぬ時期と同じであるから生れたてから九箇月位までゝある。滿一箇年まで雇へば尙ほ十分である。然し其後は必要はない。少くとも子供の養育には必要はないのである。世には生れたてから牛乳

だの煉乳だので半歳も一年も育て、それから却て乳母を雇ふ人がありますが、子供の身體の爲には少しも益にならぬ、寧ろ笑ふべき事であります。

第二十二　子守の話

乳母に次いで子供の育て方に關して大切なものは子守であるから、此事について簡單に御話して置きます。我が國では乳母と子守とは兒童養育上、或は教養上にも極めて大切であるが、あまり注意を拂はず、殊に子守に就いては迂濶に考へてるのは非常な間違であると思ふ。子守のために惡習慣もつき、惡るい病氣も起こり、ひどい怪我もし、或はせずに濟むものである。

惡るい子守は病氣の源

子守自身に病氣があつて、それが子供に傳染する事もあるが、それで無くとも子守は公園や、寺や神社、家屋建築所の廣場などへ行くもので、其處には外の子守達も子供を連れにやつて來る。そこで百日咳の治り切らないのや、麻疹の熱のあるのや、肺

炎になりかゝりの子供なども其中に交つて居る。そこで御互に病氣は傳染するし、又無垢の子供は傳染されるのである。それから又乳母にもある癖であるが、子守は子供の泣くのを厭うて、泣かすまいとする結果、飲食物を規則正しく與へない事がある。表面規則正しく與へる樣な顏をして、其實泣けばやり、むつかれば與へるといふ事實をやつてる事が隨分多い。其れが病氣の原因となる事は勿論である。又子供の年齡に頓着なく自分の食べてる南京豆でも、鹽煎餅でも子供の欲しがるまゝに與へて子供が其結果病氣となる事もあるし、子守自身の立ち話の都合で、寒風に吹き曝されながら一時間も脊負はれて居て肺炎にかゝつたなどの實例もある。

恐ろしい實例

此外子守から直接に病氣が傳染して、子供はとう〳〵死んだ例や、疥癬の傳染つた話や、肺病になつた例は數限りもなくある。唐澤博士の經驗だといふ話を聞いた事があるがそれは或る田舍で子守が子供を常に駄菓子屋へ連れて遊ばして居たために、蜜柑を袋ごと澤山喰べさせて、子供は腸閉塞又吐糞病といつて、腸が塞がれれしまひ、

遂こは腹が太鼓の樣に張つても大便は少しも出ず、吐く事は止も度もなく吐いて、遂には糞まで吐き、結局外科の手術も間に合はず、死んで終つたさうです。無智なる者、責任の考無き者、誠實でなく、同情心なきものは如何ともしがたいとはいへ、現今の子守は餘りといへばひどい。何とか方法を講じて精神、智力二つながら進ませる樣な仕組を欲しい。子守學校の如きは頗る手緩るいと思ひます。然し行はないよりましかも知れませんが、私の考へではこれは學校などにしないで、各家で主婦が自ら子守を感化し、教養するが最良の事であると思ふ。それが出來ない樣な主婦ならば、子守の行に對して不滿を抱く前に先づ自らを教養する事に努めねばならぬではあるまいか。

面白い物語

一體主婦の不在中といふものは、子供に種々の事の起こるもので、ともかくも、日日の子供の事故の少いのは、子守にのみ託してあるとはいふものゝ、主婦の監督のあるためといふ事が判る。子供が泣くからといつて、菓子、それも年をも身體をも考へ

ないで、饅頭、せんべい、あんぱん、などを與へ、甚しいのになると、「らつきやう」梨子などを與へる事のあるのは、主婦の留守の時が多い。何も食べさせない筈の子供に、灌腸して見たし、小豆の皮が澤山出て來たり、澤庵が其儘出て來たりして驚く事がある。子守にはよく〳〵注意しなくてはならぬ。

茲に「小兒養育氣質」といふ本がある。安永二年、永井堂龜友の著で、今年大正十一年からは百五十年程前に出來た本であるが、其中に乳母子守の實情や心持が、餘程よく現はれてる章があるから。大略述べて見たいと思ふ。此本は博文館發行の氣質全集の中にある。

さても都、中京の邊に甘崎屋小左衞門といふ絹布商人があつて三十二歳の今年までに二人の子供を持つた。兄は五つ、弟は三歳になつた。兩親の寵愛は並々でなく眼の中へも入れたいばかり、小左衞門の內儀は未だ二十三といふ若盛であるところから、宮芝居が好きである故、折々神詣で、寺參りの序には、子供芝居へ子供を乳母に抱かせて連れ行く事もあつたのであつた。ところが子供よりも乳母がいつとなく芝居功

者の見物好になり、明け暮れ弟の三つになる子供を抱いては芝居見に行く様になつた。それも外で守して來るといつては子供芝居へ入り、よい時分に戻つて來て、芝居へ行つたと告げるはほんのたまで、大抵は誓願寺の後堂や錦の天神に、日向ぼつこして居ましたと僞り通して居た。子供は未だ三つであるから芝居見たとて何の面白い事があらう、ぐず〳〵泣き出せば、見物からも木戸からも、しつ〳〵とか東西々々とかいうて叱られる。さればとて其儘芝居中途で歸るのも殘念さに、千鳥松風や切砂糖、猫の糞と異名を取つた一文菓子（駄菓子）を袖に入れ置いて、何度でも泣く度に食べさせ、それをほうばつて居る所へ、乳を飲ませて頭をおさへて懷へねぢ込みて、芝居を見て居り、又或る時は、でのある樣にと手毬程の琉球芋を持たせて置きなどして夕景になり、どうしても泣き止まぬ時は是非なく、歸宅する其途中でも、この子は聞き分けがないとか、泣き蟲だとか云つて、搖振り倒し又はお尻をつねつたりしたものである。

重い消化不良

ところがどうしたものか、是れまでは嘘一つしなかつた子が三月の節句過ぎから夜々熱が出て、兎角鼻をひねり、腹ばかり大きくなつて、手足は絲よりも細く痩せ、只いじいじして來て、「乳母やうま〳〵」といふより外には舌が廻らない故、如何な樣子か判らず、乳を吐いたり、吐き氣を催したりする樣になつた。今日でいふ重症の消化不良の容體である。兩親は固より一家一門大騒ぎとなつた。考へて見るとこれまでは乳母に物を喰べさせるにも、喰物養生記を毎日見ては與へて居り、子供に蟲おさへの丸藥は一日も缺かさず、毎夜寢る時は功者な接摩を賴んで揉ませて居る程であるに、これはまあどうした事ぢや、乳母や外で何か喰はせはせぬかと問へば、眞顏になつて怒り、此大事なお子樣に何むざ〳〵と上げる物ですかと、眞赤になるに、これはこちらが不調法、赤い顏して腹立てるも、律氣な乳母の氣からは無理でないと、主人も乳母を信じきり、子の病中に乳母を立腹させ、乳でも少くしては尙ほ更ら難儀な事と思ひ直して機嫌を取り、若しやと內證で丁稚子僧に探りを入れて見ても、既に日頃から乳母から鼻藥の回つてる事とて、乳母の惡るい樣の事はいはず、歷々のお醫者方を賴

んで診察を受けても、是は生れ付ての蟲だとか、胎毒だとか云ふのみで、乳母の食べさせた物の惡るいとはいはぬ故、乳母こそ大安心。お子樣の病氣が苦になつて飯が不味いと云つて、飯毎に小言をいへば、主人氣の毒がりて氣をつけて、お菜など特別にして與へたとの事である。

痩せこけたが金もうけ

子供の病氣の方は、元來が無病の親の子で、丈夫な體質を持て生れた故か、百日ばかり經て段々と快方に向ひ、九人目の醫者にかゝつた時、もう大丈夫、安心と診斷されたので、一家一門打寄ての大喜び、いよ〳〵病氣全快祝、となつた。さても此度は乳母が非常な骨折、誠に氣をもんで心遣ひで顏が痩せた。これは子供の全快祝だとて、結構な小袖一つ。金百疋の心付。乳母が里へも何か遣るがよいと主人が內儀へ云ひ付けて又野毛縞二反に鰹節五つ。さても仕合せは此乳母、心遣ひで顏の痩せたは、丁稚小僧に鼻藥は與へては置いたが、何を云ふも子供の事、今日はしやべるか、明日暴露はしないか、毎日の芝居見物の中に、誰か知つた人は無かつたかと、百日ばかり

の心配で、痩せこけたが錢もうけ、六月の祭前にほつと溜息づいて、蚊のくふのも厭はずに、氣をゆるして寢相惡くも寢て居る姿の乳母殿こそ大平樂。

以上が此物語の梗概である。

これは今から百五十年も前に出た本で、而かも一小說に過ぎないが、これに似た事實は大正の今日でも所在腐る程ある。ほんのありふれた一例に過ぎないと思つてよい。それでも注意すべきである。

第二十三　牛乳での育て方

人生の悲慘事

生みの親の乳も、乳母の乳も飲む事の出來ない事情の子供は、實に人生の悲慘事であります。然しかういふ子供は往々ある事である。

親といはず乳母といはず、畢竟人間の乳を飲む事が出來ない場合には如何して子供を育てればよいか。致し方はない。人間以外の物で育てねばならぬ。それではこれま

で如何な物で育てゝ來たかと申しますと

動物の乳。(卽ち牛乳、山羊乳など)。煉乳、粉乳、米粉飴、粥湯。

などであります。煉乳と申ますと牛乳を眞空の場所で熱して蒸發させ、煮詰めて其中へ澤山砂糖を入れて鑵詰にしたもので、品が惡いの程砂糖が澤山入つて居ります。粉乳と申しますのは煉乳よりも尙ほ高い熱で煮詰め、遂に乾かして粉にした物でありますから、素の乳とは其成分が變つて居ります。米粉は何人も御承知の通り米を磨つて粉にしたものであります。飴は滋養になる物を澤山含んで居ります。然し下等な飴となると、澱粉と砂糖ばかりですから、到底小兒を育てる譯には行きません。

牛乳と人乳との比較

先づ牛乳から述べませう。牛乳と人乳とを比較て見ますと種々相違の點がある。牛乳に有つて人乳に無い物や、人乳に有つて牛乳に無い物がある。其上に兩方に有る物だけでも隨分其割合に差違がある。假へば蛋白質と脂肪と乳糖といふ三つの物だけで

比較ると、牛乳は人乳よりも蛋白質を二倍以上有つて居り、乳糖をば人乳よりもずつと少しか有つて居りません。然し牛分ほどではない、脂肪は兩方とも同じ位です。蛋白は牛乳の方が多いから、牛乳が人乳よりも子供に滋養になると思ふと大間違です。此外に鹽類と「ヴイタミン」とがありますが茲では略します。

こんなに相違がありますから、牛乳で以て育てる時には、成るべく牛乳を人乳に似させようといたしまして、種々工夫した事があります。

それは牛乳を水で以て倍に稀釋ますと、蛋白質の分量は凡そ人乳と似て來ますが、脂肪と乳糖とが少くなる。そこで乳糖と『クリーム』とを適當に加へるといふ樣な事をしたものです。これは牛乳と人乳との差異は蛋白、脂肪、乳糖の分量の差異に在ると思つたからで、此分量さへ同じにすれば、牛乳で育てるも、人乳で育てるも同じ事だと思つたのでありますが、事實こんな事で牛乳が人乳の眞似の出來るものではないのである。

牛乳の稀釋法

牛乳ばかりで育てる事となると、生れたての赤兒には其儘ではいけない、稀釋なければならぬ。其分量も、飲ませる時間も、溫度も、牛乳の新しさもよく驗べてから與へなければならぬ。隨分手數はかゝる。其癖、手數をかける割合に、小兒は丈夫にならぬものである。

第十三圖
牛乳の味見
（牛乳を甲へ落とすこと）

先づ其稀釋法から申ますと、生れたての一と月は三倍に稀釋め、三月目には二倍にし、五月目には三分の二倍とし、七月目には其儘の乳でよい。三倍と申ますと牛乳一合へ湯ざましを三合加へるのではなく、牛乳一合へ湯ざまして三合にする割合なので、二倍と申すと同じ量づつ加へるものである。

然し稀釋に普通の湯ざまして無く、水飴を溶かした湯ざましを用ゐる方がよい。それは目方で十分の一ほど水飴を入れた湯ざましが最もよい。此外交せ物は種々あるが次に述べませう。

粥湯や砂糖を加へてもよい

第十四圖
味はつて見ること

牛乳を稀釋て用ゐる時、更に『おも湯』を加へてもよいかといふ問はよく私共の聞く所でありますがこれはかまひません。しかし四五箇月前の子供には未だ『おも湯』を消化する力は備はつて居りませんから、牛乳へ『おも湯』を加へて與へるのは、消化させるためではない、腸へ柔かにあたらせるためである。殊に牛乳を飲むと下痢を起こす小兒などは、早くから『おも湯』を加へてやるがよろしい。又味をつけるに砂糖を入れてもよいかと聞く人も隨分ある、これには議論があるが

私共はかまはず用ゐて居る。此代りに滋養糖でも、單舍利でも、メリンスフードでも差支ない。然し單に甘味だけのたならば、『サツカリン』といふ藥を買つてそれを五百倍ほどに稀釋め、砂糖水や單舍利別と同じ積りで乳に混ぜて與へればよい。『サツカリン』は砂糖の六百倍の甘いもので、これは子供に毒にならないから飲ませても差支ない。又夏になつても砂糖水や單舍利別の樣に腐る心配は無い。味加減を見るには第十三圖と第十四圖の如く手の甲へ一滴落としてそれを味はつて見るがよい。口移しに飲んで見てはいけません。

分量と時間と溫度

生れて一箇月の間は一度に百『グラム』即ち五勺づつ、一晝夜に六回飲ますれば澤山である。其時間は前に母乳を飲ます時に申したと同じで、成るべく夜は飲まさないがよろしい。殊に下痢を起こして居る小兒は、夜飲ましては却て病氣を重くする憂がある。

それから三箇月頃は一度に百三十『グラム』位づゝ一晝夜に六回でよろしい。七箇

月となれば一度に二百グラム、即ち一合づつ五回飲ますがよろしい。

これ等の牛乳に飲ますする度毎に溫めて與らねばならぬ。寒い時でも夜中でも其都度起きて溫める事を忘れてはならぬ。其溫度を見るに一々檢溫器を罎の中へ入れるのも手數のかかる話だし、罎の口から飲んで見るのは尙ほ更ら惡るい。一番よいのは第十五圖の樣に、罎のまゝ眼のところへ持つて行つて檢すのである。眼を閉ぢて其上へ罎を當てるのである。かうして丁度よい加減の溫度であつたらばそれを與へてよいのである。

第十五圖
溫度を見るために罎のまゝ眼へあてる

授乳器の注意

授乳器には種々ある。其中で『ガラス』管を着けたのや、ゴム管の長いのを用ゐたものは惡るい。成るべく護謨管の短いのがよろしい。(第五圖を見よ)